RC350 / RC300

取扱説明書

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方..... 8
検索のしかた..... 9
イラスト目次..... 10

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 20
安全なドライブのために 21
シートベルト 23
SRS エアバッグ..... 26
ポップアップフード..... 31
排気ガスに対する注意..... 33

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは..... 35
チャイルドシート..... 35

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 48
オートアラーム..... 49

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 56
計器類 60
マルチインフォメーションディスプレイ 66
燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面 73

3 運転する前に

3-1. キー
キー 80

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 84
トランク 87
スマートエントリー＆スタートシステム.....91

3-3. シートの調整
フロントシート 96
リヤシート 98
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能.....99
ヘッドレスト 102

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 104
インナーミラー 105
ドアミラー 106

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 109
ムーンルーフ 112

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 116
荷物を積むときの注意.....122

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 124
オートマチックトランスミッション 128
方向指示レバー 132
電動パーキングブレーキ.....133
ブレーキホールド 136

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 139
AHB（オートマチックハイビーム）.....142
フォグランプスイッチ.....144
ワイパー＆ウォッシャー.....145

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 150

4-5. 運転支援装置について
Lexus Safety System + ...153

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 158
LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）164
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 172
Stop & Start System 180
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 185
クリアランスソナー..... 194
ドライブモードセレクトスイッチ..... 200
運転を補助する装置..... 202

4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転 207

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ
リモートタッチ..... 212
センターディスプレイ 214

5-2. エアコンの使い方
オートエアコン..... 216
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター .. 224

5-3. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 227

5-4. 収納装備
収納装備一覧 229
トランク内装備..... 231

5-5. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備..... 233

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 238
内装の手入れ 242

6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 244
ガレージジャッキ 245
ウォッシャー液の補充.....246
タイヤについて 247
タイヤ空気圧について.....255
エアコンフィルターの交換.....256
電子キーの電池交換.....257
ヒューズの点検・交換.....259
電球（バルブ）の交換.....260

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 262
非常点滅灯（ハザードランプ）....263
発炎筒 263
車両を緊急停止するには.....264
水没・冠水したときは.....265

7-2. 緊急時の対処法
けん引について 267
フューエルポンプシャットオフシステム.....271
警告灯がついたときは.....272
警告メッセージが表示されたときは.....279
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....282
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....293
エンジンがかからないときは.....301
キーをなくしたときは.....302
給油扉が開かないときは.....303
電子キーが正常に働かないときは.....303
バッテリーがあがったときは.....306
オーバーヒートしたときは.....309
スタックしたときは.....312

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 316

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 . 321

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 330

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 332

車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 334

アルファベット順さくいん 335

五十音順さくいん..... 336

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

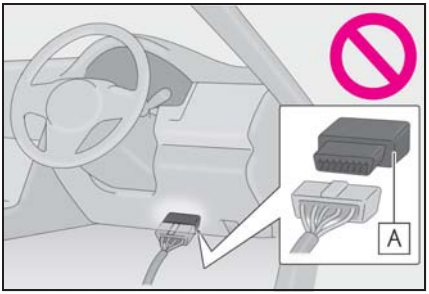
RF送信機の取り付けについては、P.7も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数 / 電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

● 車両の各システムの作動状況

● アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

● 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。

・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● EFI コンピュータ

● Lexus Safety System +

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

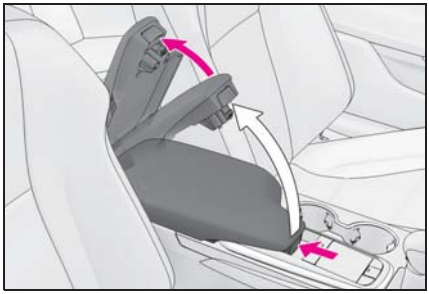
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

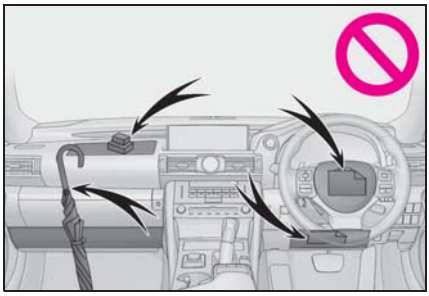
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

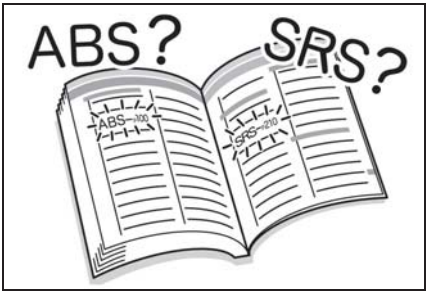


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

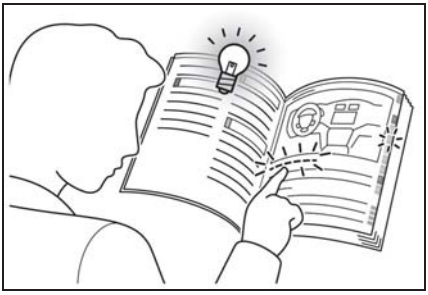
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.336
●アルファベット順さくいん：P.335



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.10

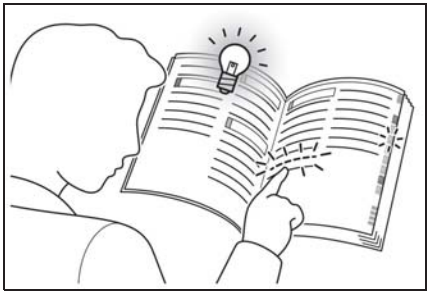


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.332
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.334

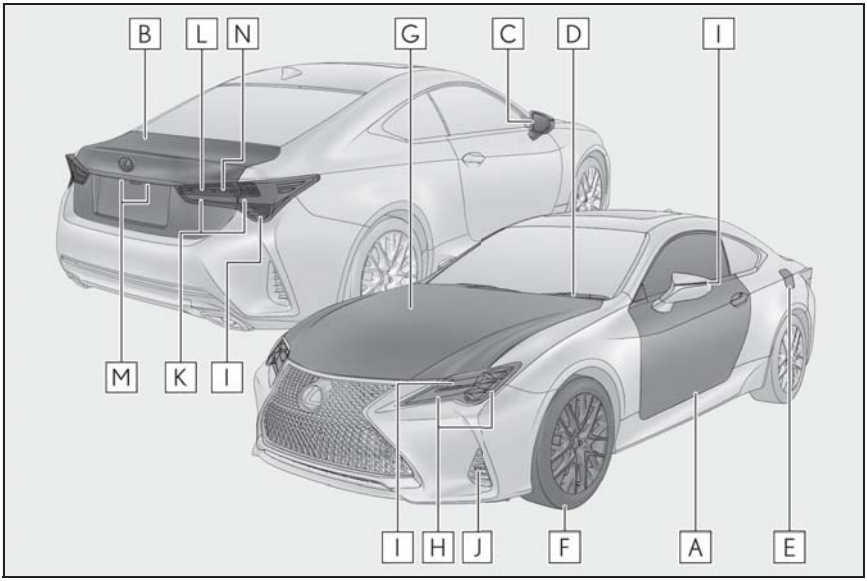
■ タイトルから探す

●目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

A ドア.....P.84

施錠／解錠.....P.84

ドアガラスの開閉.....P.109

メカニカルキーでの施錠／解錠.....P.303

警告灯・警告メッセージ.....P.272, 279

B トランク.....P.87

車内から開ける.....P.88

車外から開ける.....P.88

メカニカルキーで開ける.....P.304

警告灯・警告メッセージ.....P.272, 279

C ドアミラー.....P.106

鏡面の角度調整.....P.106

ミラーの格納.....P.107

調整位置の登録.....P.99

曇りを取る（ミラーヒーター）.....P.220

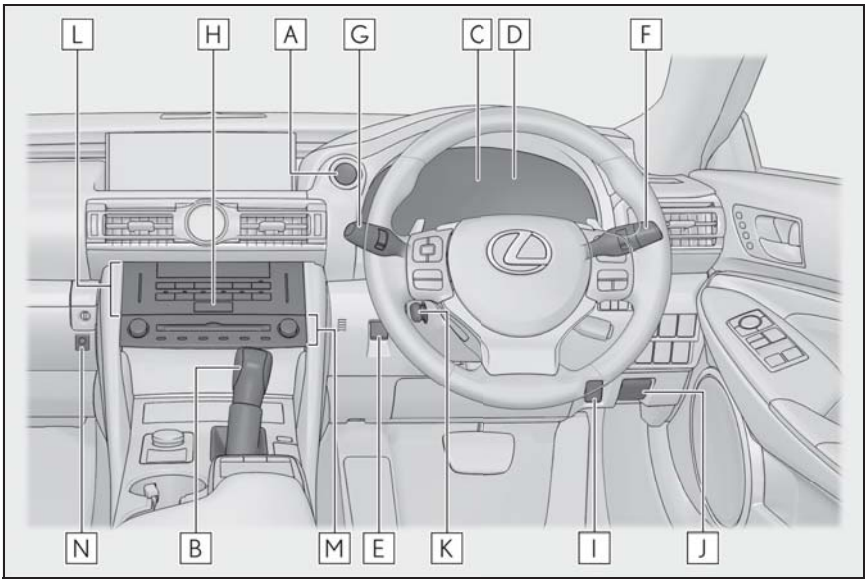
D ワイパー.....**P.145**
冬季の注意.....P.207
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★.....P.220
洗車時の注意.....P.240
E 給油口.....**P.150**
給油方法.....P.150
燃料の種類・燃料タンク容量.....P.316
F タイヤ.....**P.247**
サイズ・空気圧.....P.319
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P.207
点検・ローテーション・空気圧警報システム.....P.247
パンク時の対処.....P.293, 282
G ボンネット.....**P.244**
開け方.....P.244
エンジンオイル.....P.316
オーバーヒート時の対処.....P.309
警告メッセージ.....P.279

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.260）

H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト.....**P.139**
I 方向指示灯.....**P.132**
J コーナリングランプ.....**P.139**
K 尾灯.....**P.139**
制動灯
緊急ブレーキシグナル.....P.203
L リヤフォグランプ★.....**P.144**
M 番号灯.....**P.139**
N 後退灯
シフトポジションを R にする.....P.128

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A エンジンスイッチ P.124

エンジンの始動・モード切りかえ P.124

エンジンの緊急停止 P.264

エンジンが始動できないときの対処 P.301

警告メッセージ P.279

B シフトレバー P.128

シフトポジションの切りかえ P.129

けん引時の注意 P.267

シフトレバーが動かないときの対処 P.129

C メーター P.60

見方・明るさの調整 P.60

警告灯／表示灯 P.56

警告灯点灯時の対処 P.272

D マルチインフォメーションディスプレイ P.66

表示内容 P.66

警告メッセージ表示時の対処.....P.279

E パーキングブレーキスイッチ.....P.133

かける・解除する.....P.133

冬季の注意.....P.208

警告ブザー・警告メッセージ.....P.279

F 方向指示レバー.....P.132

ランプスイッチ.....P.139

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト.....P.139

リヤフォグランプ★.....P.144

G ワイパー＆ウォッシャースイッチ.....P.145

使い方.....P.145

ウォッシャー液の補充.....P.246

H 非常点滅灯スイッチ.....P.263

I トランクオープナー.....P.88

J ボンネット解除レバー.....P.244

K ハンドル位置調整スイッチ.....P.104

調整方法.....P.104

調整位置の登録.....P.99

L オートエアコン.....P.216

操作方法.....P.216

リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....P.220

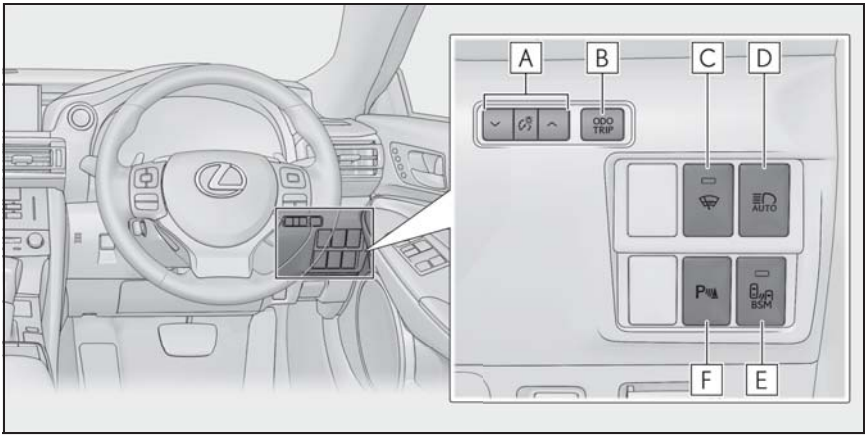
M オーディオ ※

N トランクオープナーメインスイッチ.....P.90

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類



A インストルメントパネル照度調整スイッチ P.65

B オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットボタン P.64

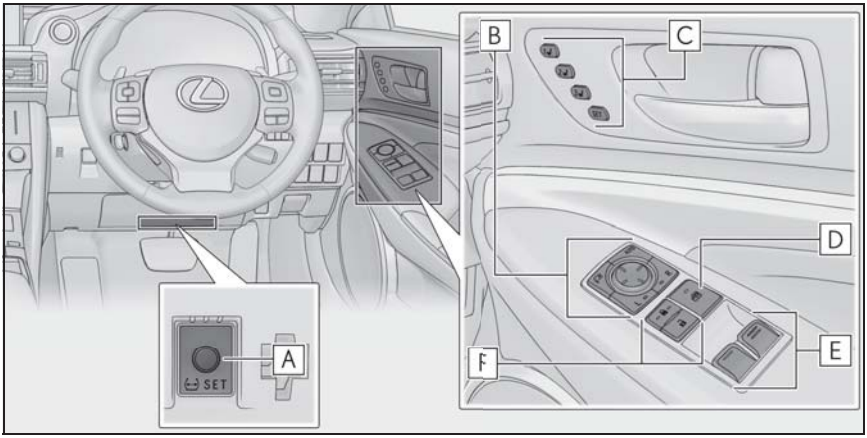
C ウインドシールドデアイサースイッチ★ P.220

D オートマチックハイビームスイッチ P.142

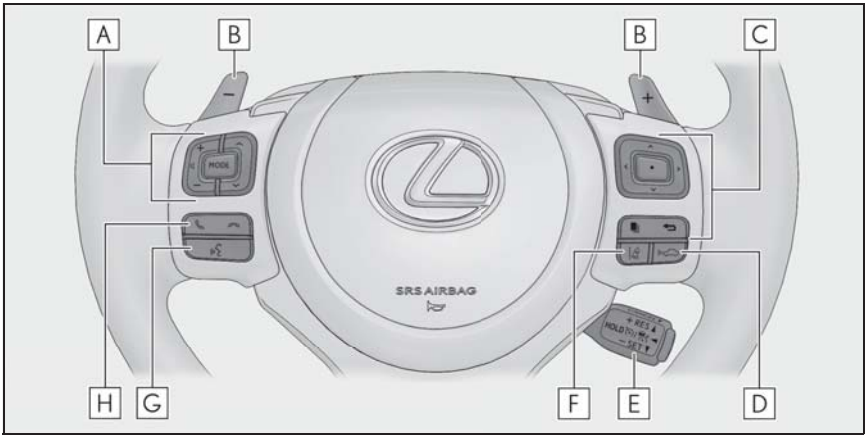
E BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ P.185

F クリアランスソナースイッチ P.194

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

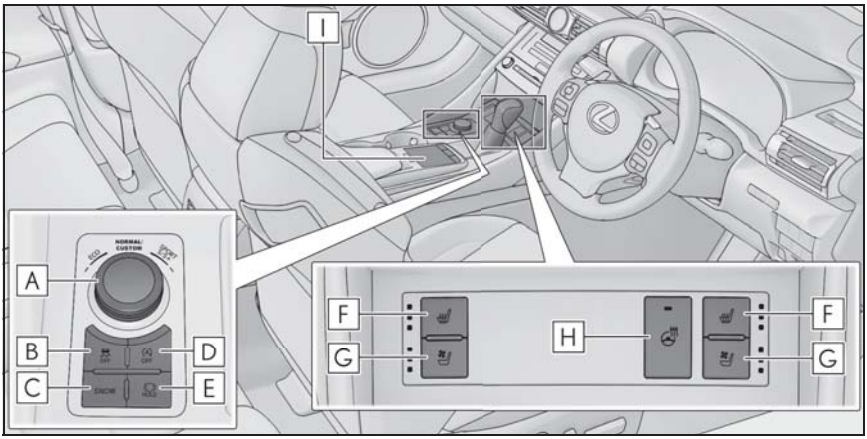


A タイヤ空気圧警報リセットスイッチ P.251
B ドアミラースイッチ P.106
C ポジションメモリーボタン.....P.99
D ウインドウロックスイッチ.....P.111
E パワーウインドウスイッチ.....P.109
F ドアロックスイッチ P.86



A オーディオスイッチ ※
B パドルシフトスイッチ P.130, 131
C メーター操作スイッチ P.66
D 車間距離切りかえスイッチ.....P.172
E クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....P.172
F LDA（レーンディパーチャーアラート
[ステアリング制御機能付き]）スイッチ P.164
G トークスイッチ ※
H 電話スイッチ ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



A ドライブモードセレクトスイッチ.....P.200

B VSC OFF スイッチ.....P.203

C スノーモードスイッチ.....P.130

D Stop & Start キャンセルスイッチ★.....P.180

E ブレーキホールドスイッチ.....P.136

F シートヒータースイッチ.....P.225

G シートベンチレータースイッチ★.....P.226

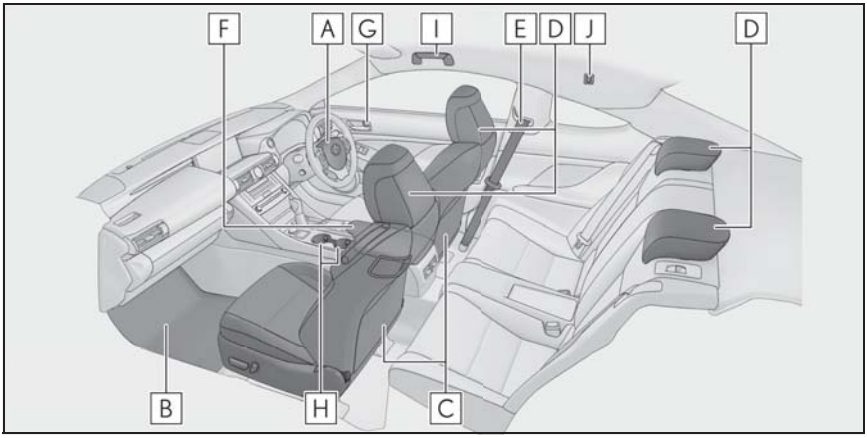
H ステアリングヒータースイッチ.....P.224

I リモートタッチ※.....P.212

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.26

B フロアマット P.20

C フロントシート P.96

D ヘッドレスト P.102

E シートベルト P.23

F コンソールボックス P.230

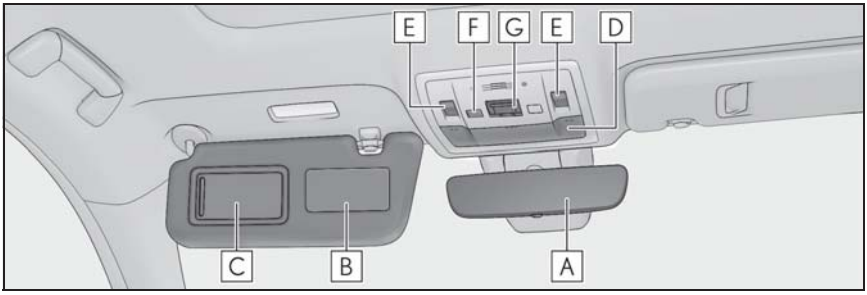
G ドアロックレバー P.86

H カップホルダー P.230

I アシストグリップ P.233

J コートフック P.233

■ 天井



A インナーミラー P.105

B サンバイザー ※1 .....P.234

C バニティミラー P.234

D インテリアランプ P.227
パーソナルランプ P.228

E ムーンルーフスイッチ★ P.112

F 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.51

G ヘルプネットスイッチパネル ※2

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.37）

※2別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 20

安全なドライブのために 21

シートベルト 23

SRS エアバッグ 26

ポップアップフード 31

排気ガスに対する注意 33

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 35

チャイルドシート 35

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム 48

オートアラーム 49

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

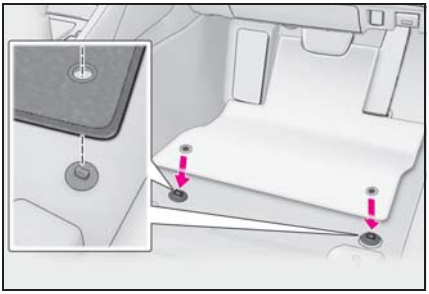
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

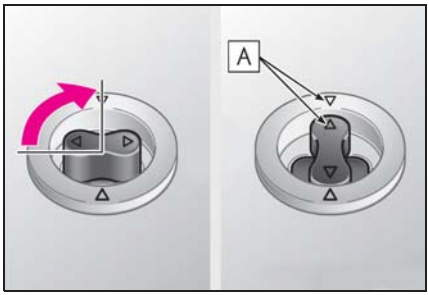
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

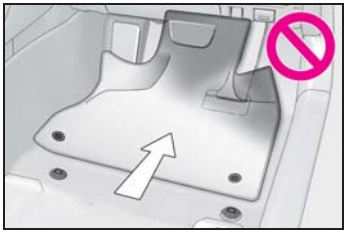
■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

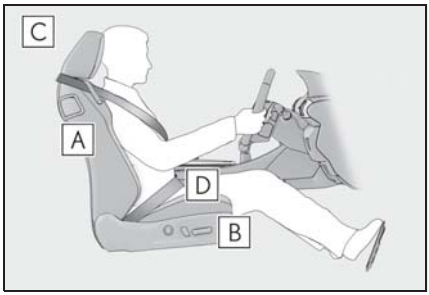


●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.96）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.96）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.102）

D シートベルトを正しく着用する（→P.23）

警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.23)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.35)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.105, 106)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

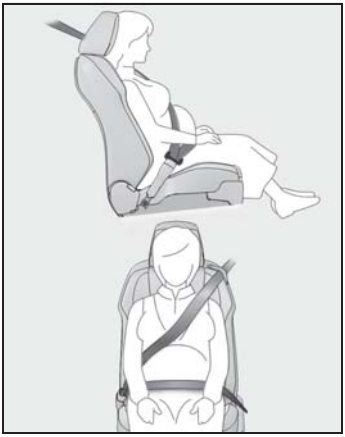
警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.24)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.45

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

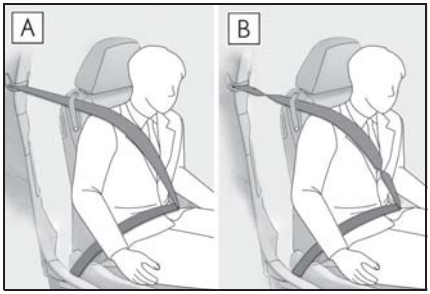
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



A ねじれていない

B ねじれている

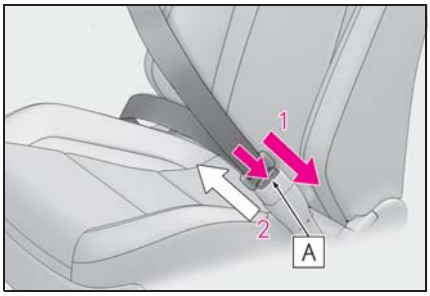
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.35)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタ

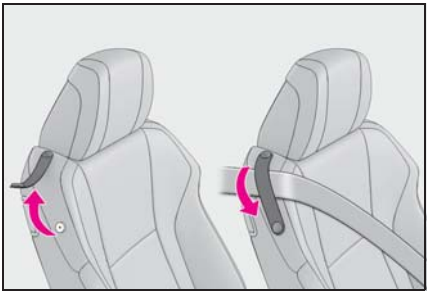
ン A を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトガイド



フロント席のシートベルトを着用するときは、ベルトをガイドに通してください。フロント席のシートベルトをガイドに通しておくとシートベルトが引き出しやすくなります。

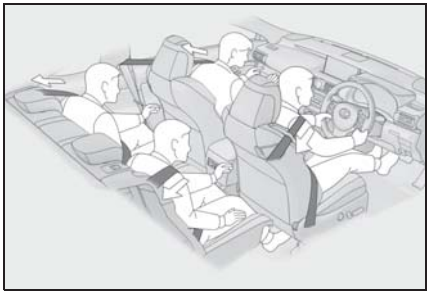
リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

警告

■シートベルトガイドを使うときは

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶらさがったり、無理に引っぱったりしないでください。

シートベルトプリテンショナー



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

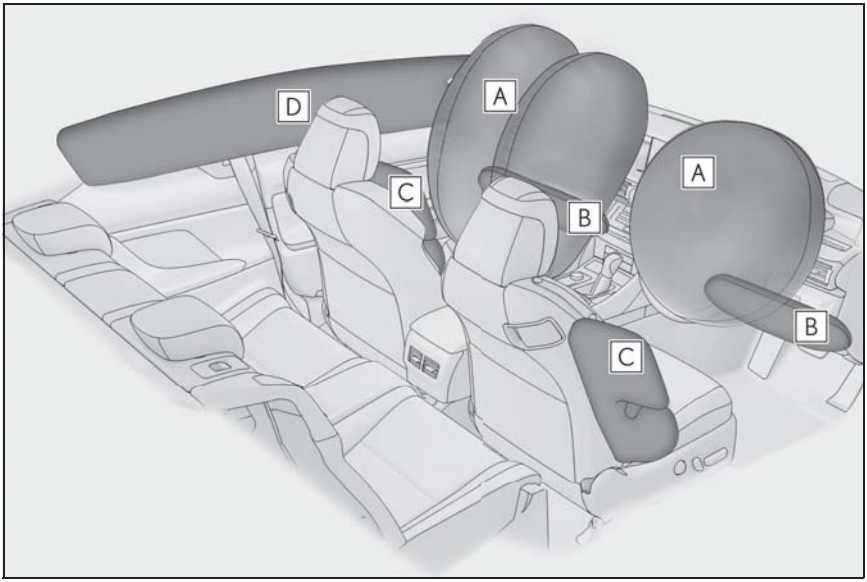
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助します

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃を緩和します

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●すべてのドアが解錠されます。（→P.85）

●燃料供給を停止します。（→P.271）

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

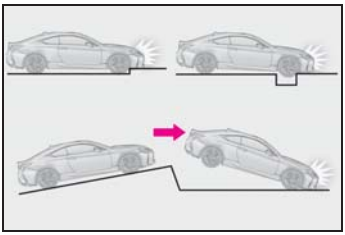
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



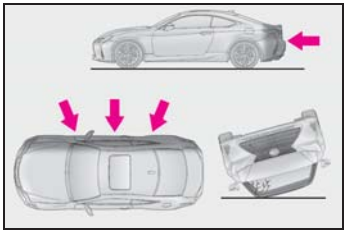
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

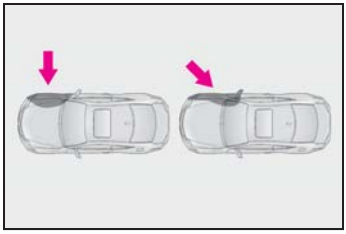


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

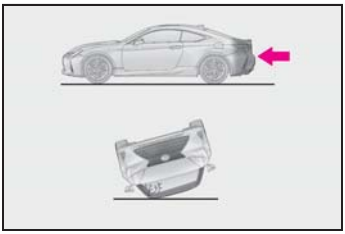
●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

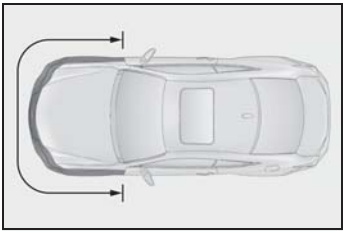


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

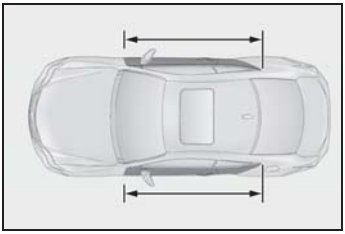
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

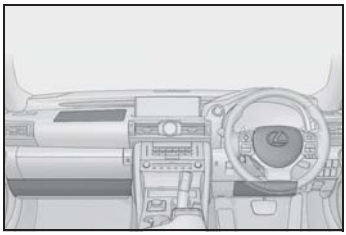


●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

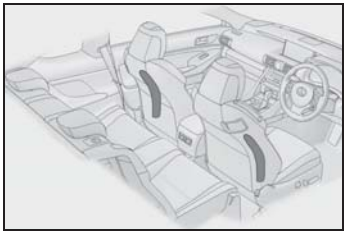


●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、

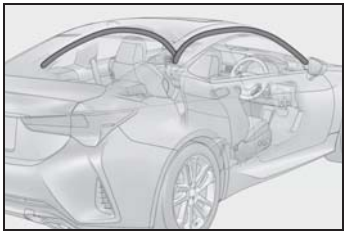
ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■SRS エアバッグについて

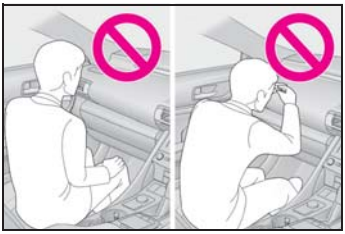
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

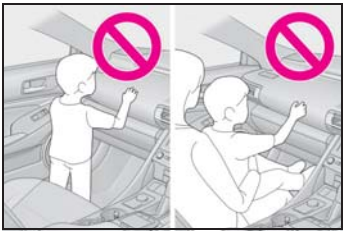
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.35)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



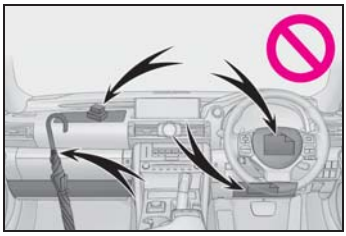
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

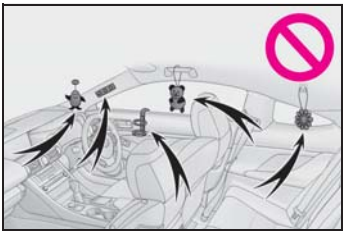
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
  (速度制限ラベルを除く：→P.284)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
  SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

警告

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

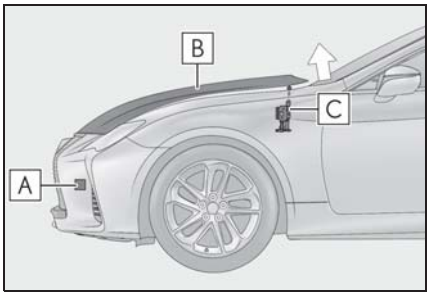
- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットの後方を持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏にあるセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットが持ち上がります。

システムの構成部品



A センサー

B ボンネット

C リフター

知識

■ポップアップフードについて

- 廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動しま

す。

●作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき。（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）

●その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
・縁石に衝突したとき
・深い溝や穴に落ち込んだとき
・ジャンプして地面にぶつけたとき
・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■**ポップアップフードが作動しにくいとき**

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■**ポップアップフードが作動しないとき**

次のようなときは作動しません

●横たわっている歩行者に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります。）

警告

■**ポップアップフードが作動したとき**

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。
ポップアップフードが作動したあとはレクサス販売店で点検を受けてください。車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

注意

■**ポップアップフードについて**

●ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。

●4 輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

警告

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.35）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- パワーウインドウを誤操作しないように、ウインドウロックスイッチ（→P.111）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまをのせるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.35 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.36

チャイルドシートを使用するときは：P.37

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.39

チャイルドシートの取り付け方法：P.43

・ シートベルトで固定する：P.43

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.45
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.46

知っておいていただきたいこと

● チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

● お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。

● お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。

● すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.39）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれと チャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
  取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

警告

■チャイルドシートを使用するとき

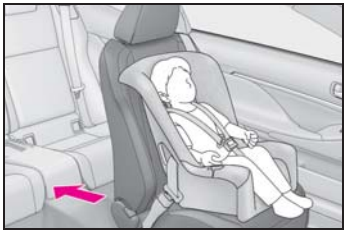
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



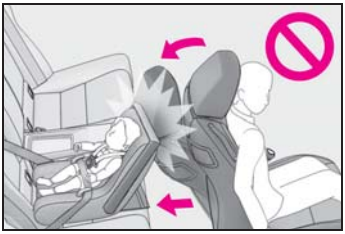
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

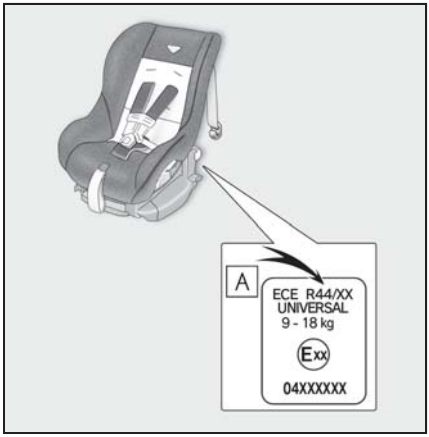
■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.40）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.42）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

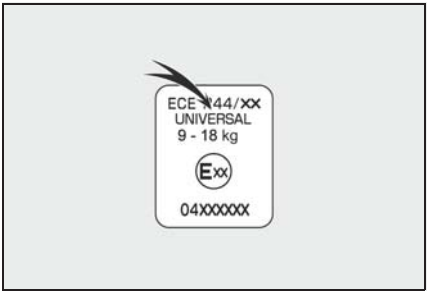
A UN(ECE) R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle

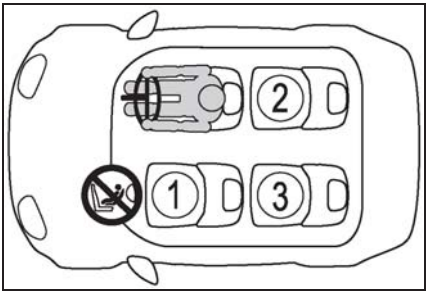
specific（特定車両）」



※1UN(ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	U ※4	L
2 ※3	U	L
3 ※3	U	L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.42）に記載されたチャイルドシートに適しています。

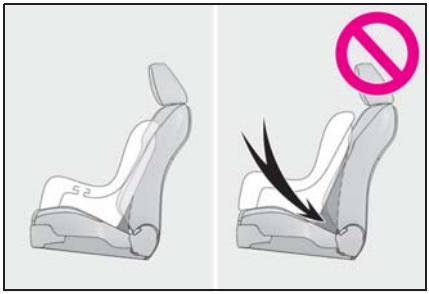
ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1※	R1※
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2	F2X, F2
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

※ フロントシートを一番前に移動させてください。

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

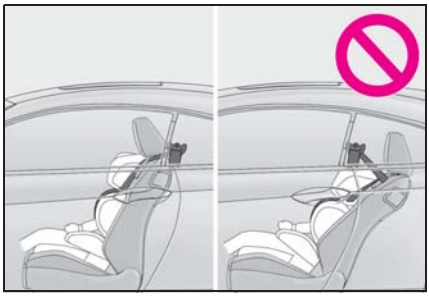
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
I (9 ～ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
II 、III (15 ～ 36kg)	レクサス純正 ジュニアシート	○	○	○

● リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

● サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

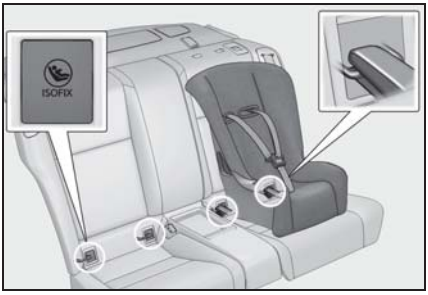
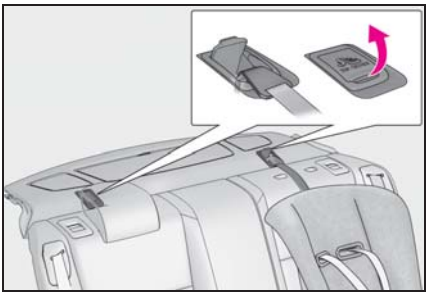
● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.43
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.45
テザーベルトを固定する		P.46

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

（→P.39, 40）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.37）

2 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

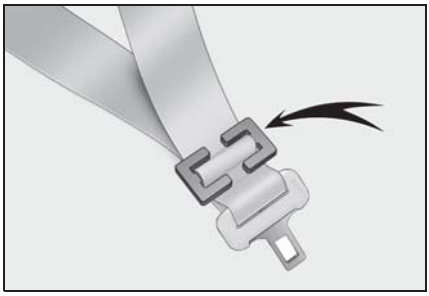
3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.102）

4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



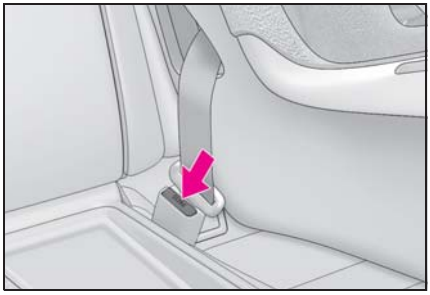
6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.45）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

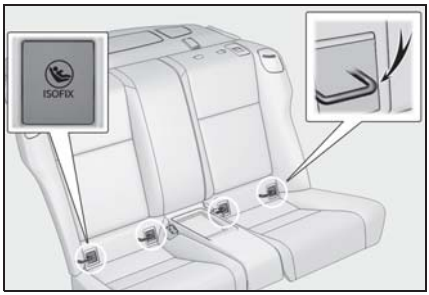
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.39, 40）

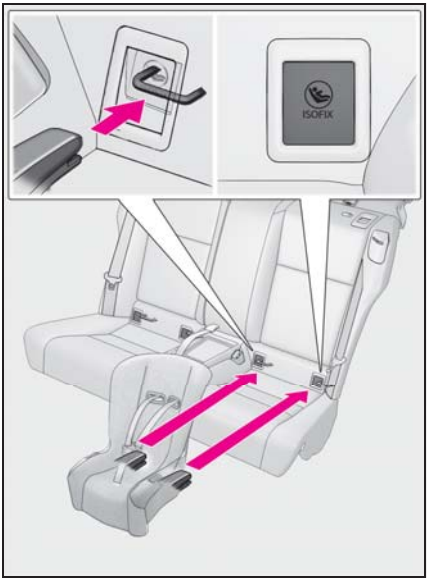
1 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれと チャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.102）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.45）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

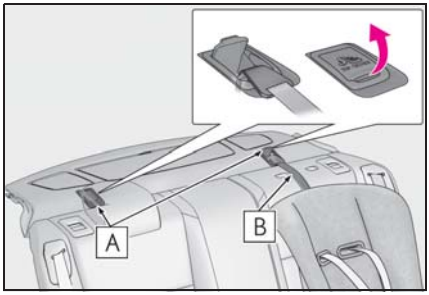
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

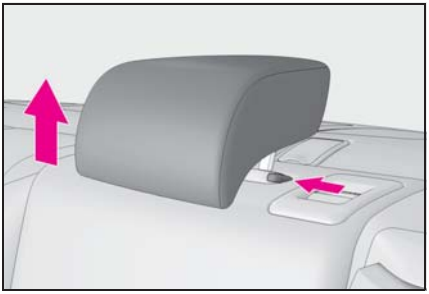
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合

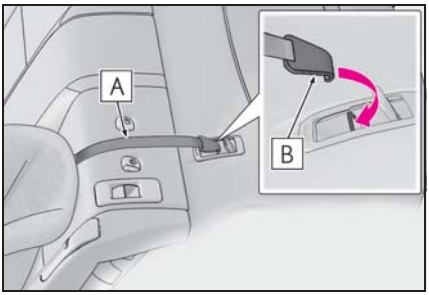
は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.102)



2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.45)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A テザーベルト

B フック

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

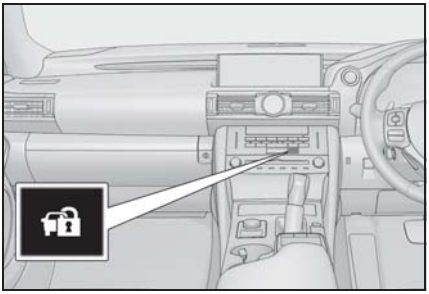
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車両の傾きを検知したとき

※ G-Link サービスをご利用のお客様には、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security を利用する」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

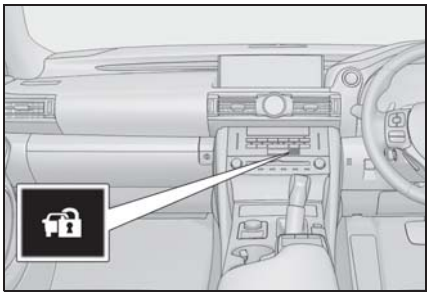
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れなどを、ご指定のＥメールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

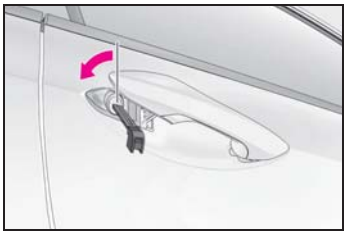
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security を利用する」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

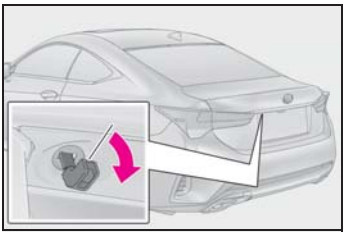
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき

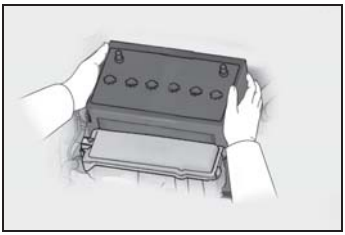


●メカニカルキーを使ってトランクを開けたとき



●車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

●施錠後、バッテリーあがりなどで、バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.307）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

以下のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.321)

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

● 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

● 傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入・傾きに対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.49)

■ 侵入・傾斜センサーを停止する

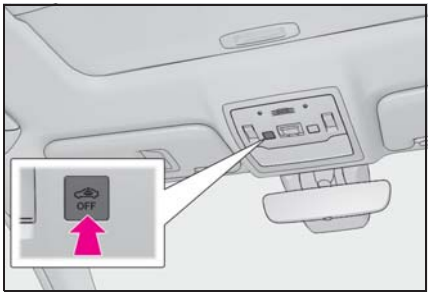
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF ／ ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■侵入・傾斜センサーの作動・停止について

●侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

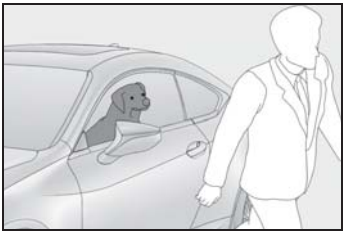
●侵入・傾斜センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

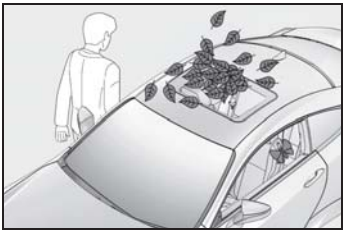
■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

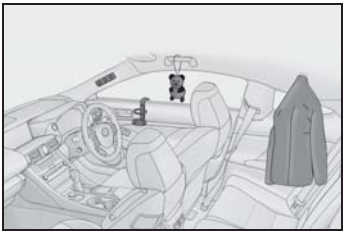
●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き



●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



●振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
・立体駐車場に駐車したとき
・ガラスに付着した氷を削り落すとき
・高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
・ひょう・落雷などのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■傾斜センサーについての留意事項

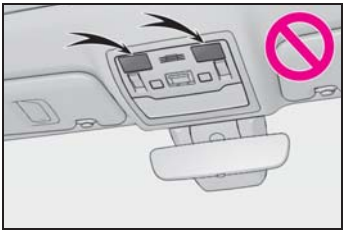
次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき
●立体駐車場に駐車したとき
●車両移動をともなう洗車機を使用するとき
●タイヤ空気圧が少ないとき
●ジャッキアップするとき
●地震や路面陥没が起きたとき
●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

注意

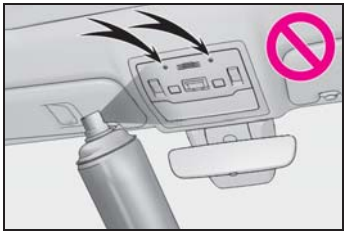
■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。



注意

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 56
計器類 60
マルチインフォメーションディスプレイ 66
燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面 73

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ F SPORT 以外

▶ F SPORT

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）ブレーキ警告灯 ※1（→P.272）

（黄色）ブレーキ警告灯 ※1（→P.272）

高水温警告灯 ※2（→P.272）

充電警告灯 ※3（→P.272）

油圧警告灯 ※2（→P.273）

エンジン警告灯 ※1（→P.273）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.273）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.273）

ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 ※2（→P.274）

（点滅）パーキングブレーキ表示灯（→P.277）

（点滅）ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.272）

パワーステアリング警告灯 ※1（→P.274）

（橙色）LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯（→P.274）

（点滅または点灯）PCS 警告灯 ※1（→P.275）

スリップ表示灯 ※1（→P.275）

（点滅）Stop ＆ Start キャンセル表示灯★ ※1（→P.275）

半ドア警告灯（→P.275）

燃料残量警告灯（→P.276）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.276）

リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※4（→P.276）

マスターウォーニング ※1（→P.276）

タイヤ空気圧警告灯 ※1（→P.277）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 F SPORT 以外：マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
F SPORT：メーターに表示されます。

※4 センターパネルに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

- 方向指示表示灯（→P.132）
- 尾灯表示灯（→P.139）
- ハイビーム表示灯（→P.141）
- AUTO オートマチックハイビーム表示灯 ※1（→P.142）
- リヤフォグランプ表示灯★（→P.144）
- Stop & Start 表示灯★ ※1（→P.180）
- OFF Stop & Start キャンセル表示灯★ ※1, 2（→P.180）
- OFF PCS 警告灯 ※1, 2（→P.160）
- クルーズコントロール表示灯（→P.177）
- レーダークルーズコントロール表示灯（→P.172）
- SET クルーズコントロールセット表示灯（→P.172）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯（→P.167）（白色）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯（→P.167）（緑色）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯（→P.167）（橙色点滅）
- BSM（ブラインドスポットモニター）ドアミラーインジケーター ※3, 4（→P.185）
- P クリアランスソナー表示灯（→P.194）
- スリップ表示灯 ※1（→P.203）（点滅）
- OFF VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF 表示灯 ※1, 2（→P.203）
- セキュリティ表示灯 ※5（→P.48, 49）
- (P) パーキングブレーキ表示灯（→P.133）
- HOLD ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.136）
- HOLD ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.136）
- 低温表示灯 ※6（→P.60）
- ECO エコドライブインジケーターランプ ※1（→P.68）

● 走行モード表示

▶ F SPORT 以外

- ECO エコドライブモード表示灯（→P.200）
- SPORT S SPORT S 表示灯（→P.200）
- SPORT S+ SPORT S+ 表示灯（→P.200）

CUSTOM カスタム表示灯（→P.200）

SNOW スノーモード表示灯（→P.130）

▶ F SPORT

ECO MODE エコドライブモード表示灯（→P.200）

SPORT S SPORT S 表示灯（→P.200）

SPORT S+ SPORT S+ 表示灯（→P.200）

CUSTOM カスタム表示灯（→P.200）

SNOW スノーモード表示灯（→P.130）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2システムが OFF のときに点灯します。

※3作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

・ BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※4ドアミラーに表示されます。

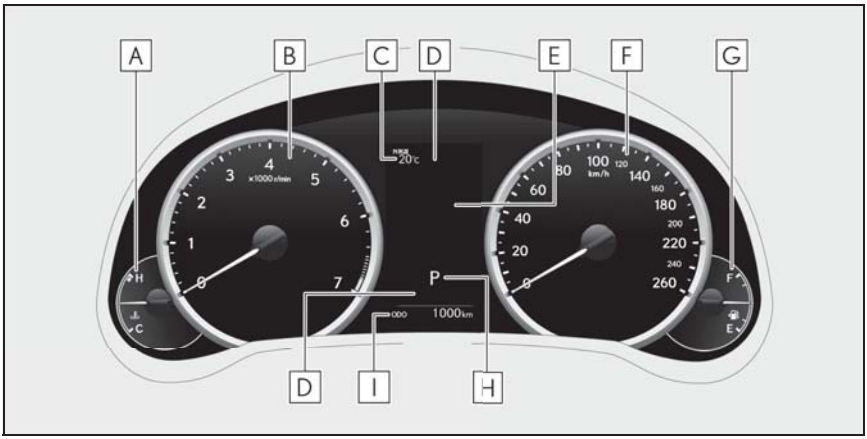
※5センターパネルに表示されます。

※6外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に、点灯します。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置（F SPORT 以外）



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

C 外気温

外気温度を -40 ℃ ～ 50 ℃ の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。(→P.200)

・ スポーツモード：赤色
・ エコモード：青色

ノーマルモード、カスタムモードのときは、背景色が黒色になります。

E マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.66)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.279)

F スピードメーター

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

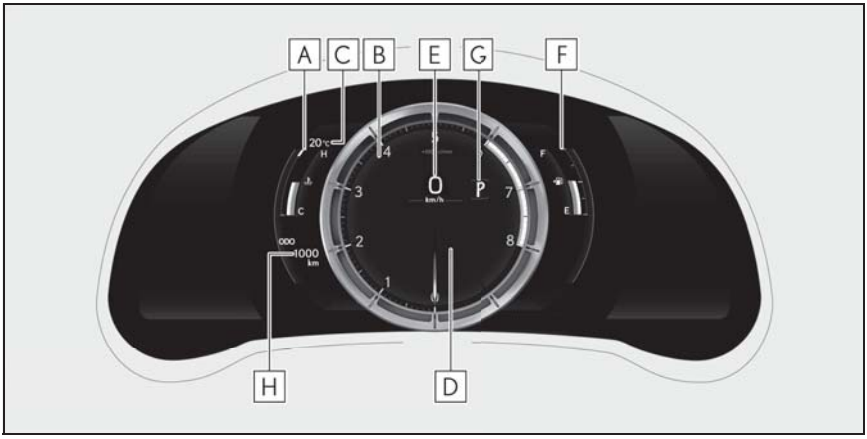
H シフトポジション・シフトレンジ表示・ギヤ段表示（→P.128）

I オドメーター／トリップメーター（→P.64）

■ **計器類の位置（F SPORT）**

メーターリングの位置に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

▶ メーターリング中央時



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛り部分などが強調表示されます。

C 外気温

外気温度を -40 ℃ ～ 50 ℃ の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.66）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.279）

E スピードメーター

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないこ

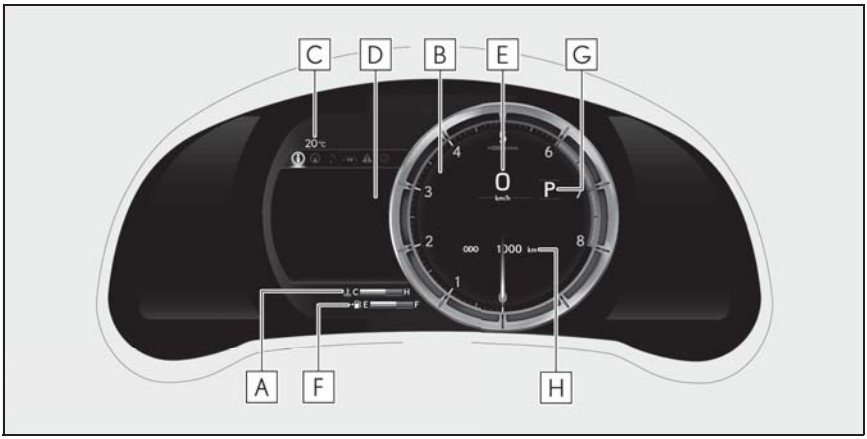
とがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

G シフトポジション・シフトレンジ表示・ギヤ段表示（→P.128）

H オドメーター／トリップメーター（→P.64）

▶ メーターリング移動時



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

走行モードをスポーツモードに切りかえるとタコメーターの配色が変わり、目盛り部分などが強調表示されます。

C 外気温

外気温度を -40 ℃ ～ 50 ℃ の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.66）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.279）

E スピードメーター

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき

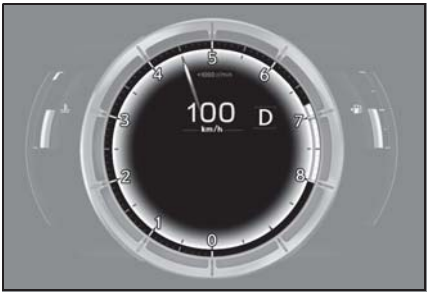
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

G シフトポジション・シフトレンジ表示・ギヤ段表示（→P.128）

H オドメーター／トリップメーター（→P.64）

■ REV インジケーター（F SPORT）

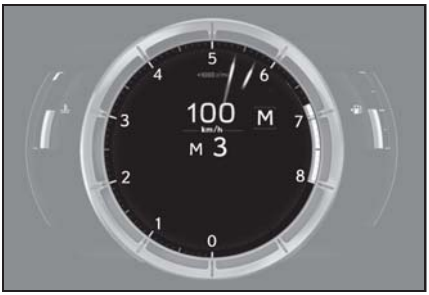
設定したエンジン回転数に到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーターを表示します。



REV インジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの で設定することができます。

■ REV ピーク（F SPORT）

5000 r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 0.5 秒間表示します。



メーターの表示・配置を切りかえるには（F SPORT）

ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかわります。

知識

■ メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

● 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

● 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてくださ

い。

■割込表示について

●マルチインフォメーションディスプレイやオドメーター／トリップメーター表示部（F SPORT）には、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。

●一部の割り込み表示の表示／非表示を切りかえることができます。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。（→P.321）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.309）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

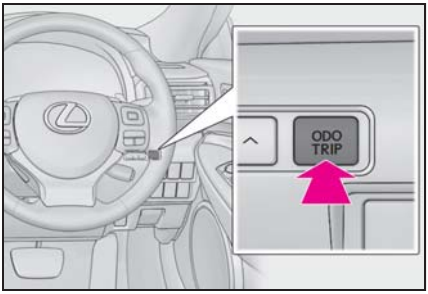
● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中にオドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタンを長押しします。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



■ 割り込み表示

状況に応じて次の情報が割り込み表示されます。

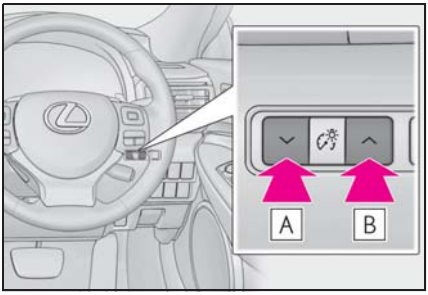
● アイドリングストップ時間★

Stop & Start システムによってエンジンが停止すると、現在のアイドリングストップ時間が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



A 暗くする

B 明るくする

知識

■ インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

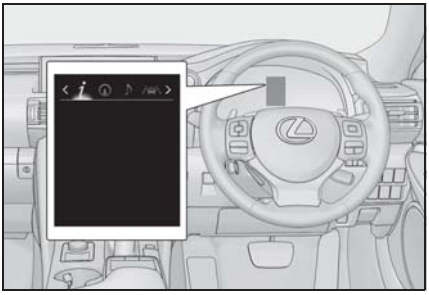
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

マルチインフォメーションディスプレイ

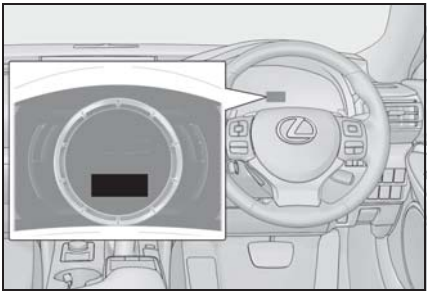
マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT



■ **メニューアイコン**

	ドライブインフォメーション
	ナビゲーションシステム連携表示
	オーディオシステム連携表示
	運転支援システム情報
	Stop & Start システム情報★
	警告メッセージ
	設定

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

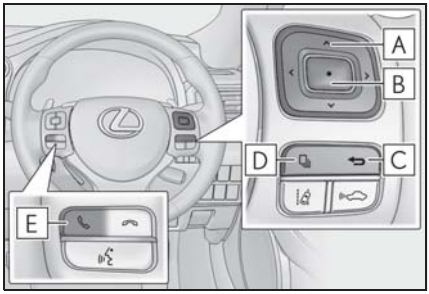
知識

■ **液晶ディスプレイについて**

→P.64

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A 選択／ページ送り

B 短押し：決定
長押し：リセット

C ひとつ前の画面にもどる

短押しと長押しで戻ることができる階層がかわります。

▶ F SPORT 以外

D 短押し：トップ画面を表示する

長押し：トップ画面を登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

E 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

▶ F SPORT

D メーターリング移動

E 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ トップ画面の登録（F SPORT 以外）

お好みの画面を登録することで、トップ画面を変更することができます。トップ画面を登録するには、登録したい画面を表示中に スイッチを長押ししてください。

ドライブインフォメーション 1／2／3

■ ドライブインフォメーションで表示される内容

走行に関するさまざまな情報を表示します。

次の項目から選択し、1 画面につき 2 項目ずつ表示します。

F SPORT：メーターリング中央時は、1 画面につき 1 項目ずつ分けて表示します。

メーターリング中央時と移動時で表示される内容が一部異なります。

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの < または > を押して i を選択し、∧ または ∨ を押します。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

・リセット間：リセット後の平均燃費を表示 ※1、2

・始動後：エンジン始動後の平均燃費を表示 ※2

・給油後：給油後の平均燃費を表示 ※2、3

● 平均車速

・リセット間：リセット後の平均車速を表示 ※1

・始動後：エンジン始動後の平均車速を表示

● 走行時間

・リセット間：リセット後の経過時間を表示 ※1

・始動後：エンジン始動後の経過時間を表示

● 距離

・航続可能距離：燃料残量による走行可能な距離を表示 ※3、4

・始動後：エンジン始動後の走行距離を表示

● その他

ブランク：非表示

※1 リセットするには、項目表示中にメーター操作スイッチの スイッチを 1 秒以上押します。

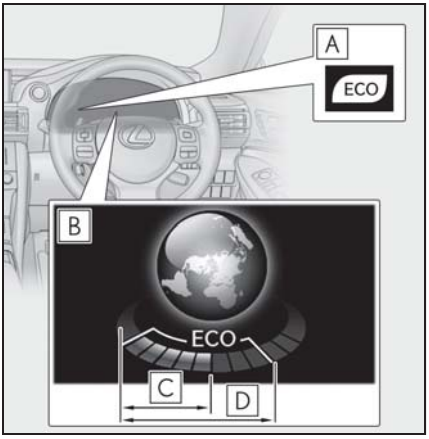
リセット可能項目が複数表示されている場合は、リセット項目の選択画面が表示されます。

※2表示される燃費は参考として利用してください。

※3燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

※4運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

■ エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

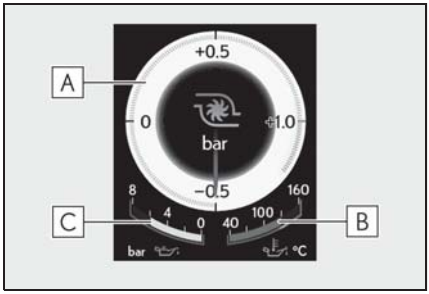
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモード以外のとき（→P.200）
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

■ ブーストメーター／油温計／油圧計★※



A ブーストメーター

過給圧を表示します。一定圧以上になると表示の色がかわります。

B 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が 140 ℃以上になると、表示が点滅します。

C 油圧計

エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッ

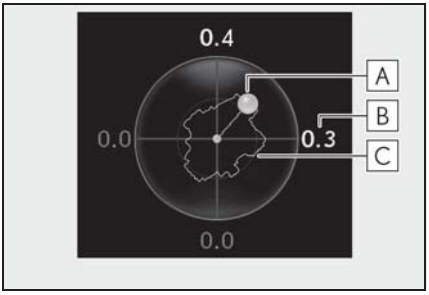
セージを表示します。（→P.279）
表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

■ G モニター★※

車両にかかる前後左右の加速度を表示します。



A 車両にかかる G

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

C 最大 G の軌跡

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

■ タイヤ空気圧

→P.249

■ ふらつき検知機能※

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合をバーの長さで表示します。バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）の機能のひとつです。LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→P.164）

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

■ Gear Position

シフトレバーが D ポジションまたは M ポジションの時、現在選択されているギヤ段を表示することができます。

■ ブランク（非表示）

ブランク画面を表示します。

知識

■タイヤ空気圧表示ついて

・ エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

・ 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは “---” と表

示されることがあります。

・タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

運転支援システム情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.172）

● LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）（→P.164）

アイコン表示は機能により切りかわります。

Stop & Start システム情報★

■ 現在のアイドリングストップ時間／状態通知

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。（→P.180）

■ 通算のアイドリングストップ時間／節約燃料

ハンドルの ∧ または ∨ スイッチを押して、次の項目を表示することができます。

● アイドリングストップ時間（始動後・リセット後）次のアイドリングストップ時間を通算で表示します。

・エンジン始動してからのアイドリングストップ時間

・リセットしてからのアイドリングストップ時間

● 節約燃料（始動後・リセット後）

・エンジン始動してからの節約燃料

・リセットしてからの節約燃料

表示される節約燃料は参考として利用してください。

■ Stop & Start 設定

ハンドルの スイッチを押すと、Stop & Start システムの設定画面が表示されます。
設定画面では、次の操作を行うことができます。

● Stop & Start

エアコンの "A/C" を ON にしているときのアイドリングストップ時間を 2 段階から選択することができます。

この設定は からも変更することができます。

● リセット

アイドリングストップ時間・節約燃料をリセットします。リセットするには、カーソルを " リセット " に合わせた状態で スイッチを長押しします。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.279）

表示の設定について

各装備の機能の ON/OFF や設定変更などができます。

変更可能な項目では、 を押すたびに ON/OFF が切りかわります。

■ LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）（→P.164）

次の設定を変更することができます。

● 操舵支援

ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。

● 警報手段

警報の手段をハンドルの振動または警報ブザーのいずれかから選択することができます。

● 警報感度

警報機能の感度を変更することができます。

● ふらつき検知

ふらつき検知機能の作動・非作動を変更することができます。

● ふらつき検知感度

ふらつき警報機能の感度を変更することができます。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.158）

次の設定を変更することができます。

● PCS

プリクラッシュセーフティの作動・非作動を変更することができます。

● 警報感度

警報タイミングを変更することができます。

■ 車両設定

次の設定を変更することができます。

● Stop & Start ★

エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間を変更することができます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示設定

● 言語

表示される言語を変更することができます。

● 単位

燃費表示の単位を変更することができます。

● エコドライブインジケーターランプ

エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を変更することができます。

● スイッチ設定（F SPORT 以外）

スイッチにお好みの画面を登録する方法を表示します。

お好みの画面を登録しておくと、スイッチを押したときに登録した画面を表示させることができます。

● ドライブインフォメーション画面（→P.67）

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2、ドライブインフォ 3 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。

● 割込表示

下記の割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。

・ ナビゲーションシステム連動の交差点案内
・ 電話着信
・ オーディオ操作（F SPORT）
・ ボリューム操作（F SPORT）
・ 作動時間★
・ 状態通知★
・ 照度調整

● カラー

カーソルの色などを変更することができます。

● REV インジケーター（F SPORT）

REV インジケーターの作動・非作動や、表示を開始するエンジン回転数を設定します。

● REV ピーク（FSPORT）

REV ピークの作動・非作動を変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■表示灯／シフトポジション表示エリアの背景色について（F SPORT 以外）

走行モード（→P.200）によって背景色が切り替わります。

●エコドライブモード：青色

●スポーツモード：赤色

■G モニターの表示について（F SPORT）

傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でも G 値が 0 にならない場合があります。

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.321）

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

警告

●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

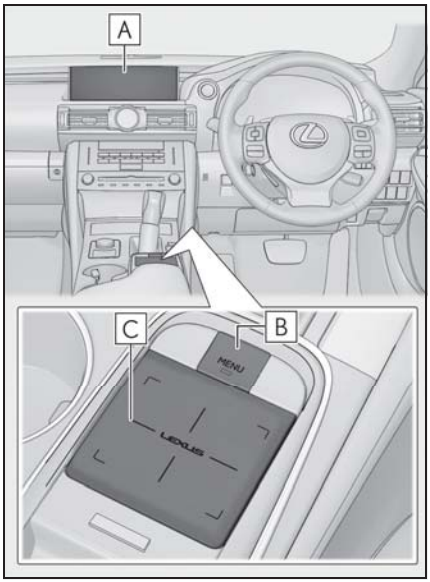
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面

燃費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品



A センターディスプレイ

B MENU ボタン

C タッチパッド

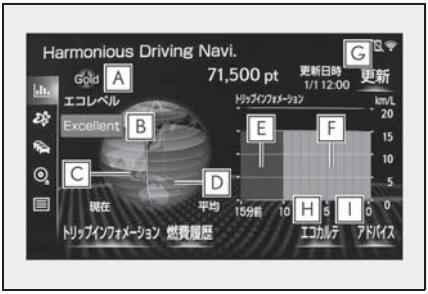
Harmonious Driving Navi. 画面の見方

■ 画面を表示させるには

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、を選択する

2 “ エコ情報 ” を選択する

3 “Driving Navi” を選択する



A ステータス／ポイント表示 ※1

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイント獲得率を表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

B エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

C エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

D エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

E トリップインフォメーション（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

F トリップインフォメーション（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

G 更新スイッチ ※2

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

H エコカルテスイッチ ※2

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

I アドバイススイッチ

ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※1 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
G-Link の利用手続き・利用開始操作については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※2 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
また、センターディスプレイに通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。
G-Link の利用手続き・利用開始操作については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、

ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

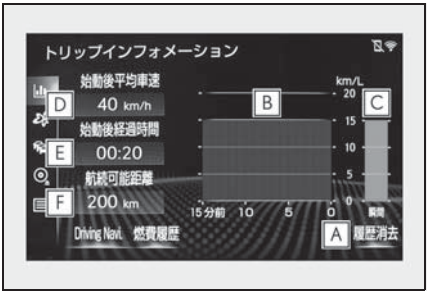
1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、ⓘを選択する

2 “エコ情報” を選択する

3 “トリップインフォメーション” または “燃費履歴” を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E エンジン始動後経過時間

F 航続可能距離 （→P.76）

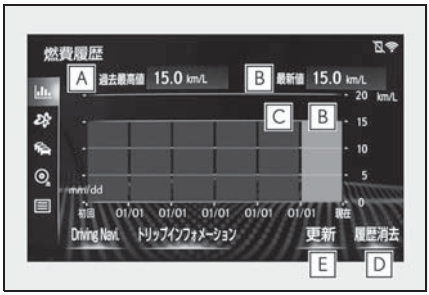
平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴” を選択します。



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “ 更新 ” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“ 履歴消去 ” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

サイド画面の使い方

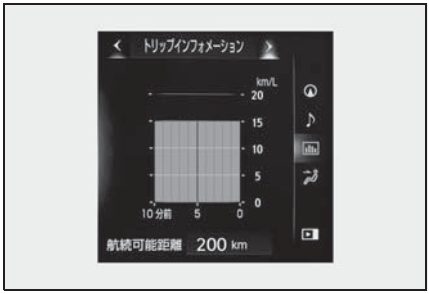
サイド画面に車両情報を表示して（→P.215）、❮ または ❯ を選択してお好みの画面を表示します。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。

■ トリップインフォメーション（タイプ A）

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費と航続可能距離を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

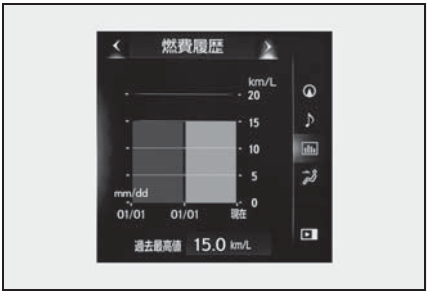
■ トリップインフォメーション（タイプ B）

航続可能距離・最新値・始動後経過時間を表示します。

表示される最新値は、参考として利用してください。

■ 燃費履歴

最新値と過去最高値を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

運転する前に 3

3-1. キー

キー 80

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 84

トランク 87

スマートエントリー＆スタートシステム 91

3-3. シートの調整

フロントシート..... 96

リヤシート 98

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 99

ヘッドレスト 102

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 104

インナーミラー..... 105

ドアミラー 106

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

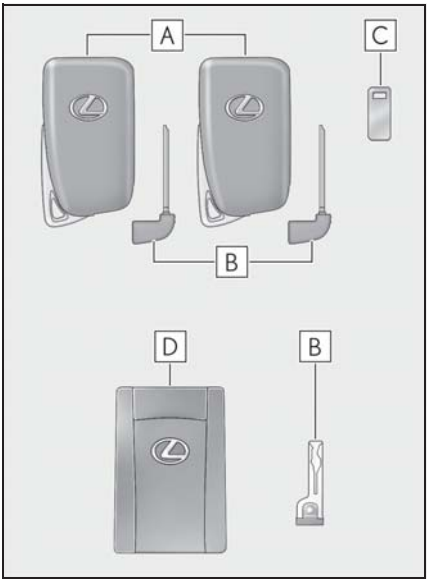
パワーウインドウ..... 109

ムーンルーフ 112

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・ スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.91）
・ ワイヤレス機能の作動 （→P.82）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.91）

知識

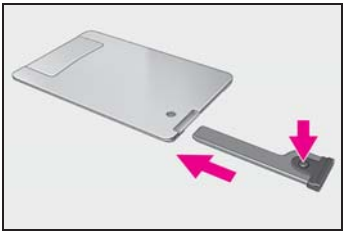
■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

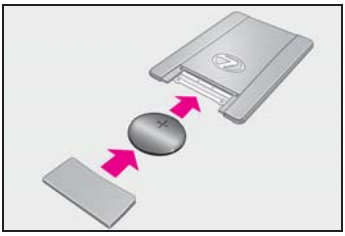
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーの電池は 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、エンジンを

停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→P.257

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.303

■電子キーを紛失したとき

→P.302

注意

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

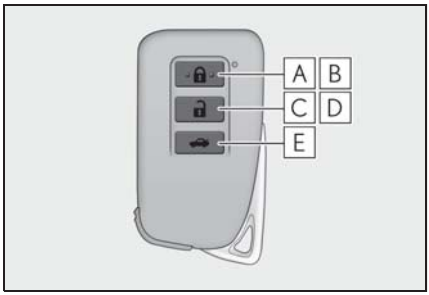
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき

・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき

・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアを施錠する（→P.84）

B ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→P.84）

C ドアを解錠する（→P.84）

D ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→P.84）

E トランクを開ける（→P.89）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

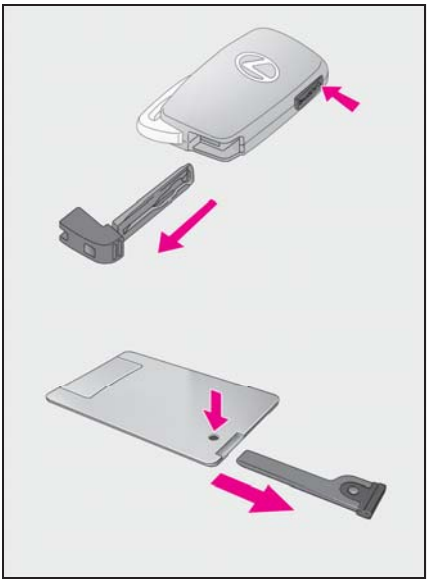
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、

メカニカルキーが必要になります。
（→P.303）



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、ラゲージセキュリティシステムをセット（→P.90）し、グローブボックスを施錠（→P.230）します。

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.302

■不正キーの使用について

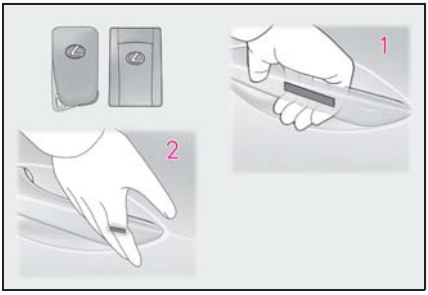
指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ドアハンドルを握って解錠する

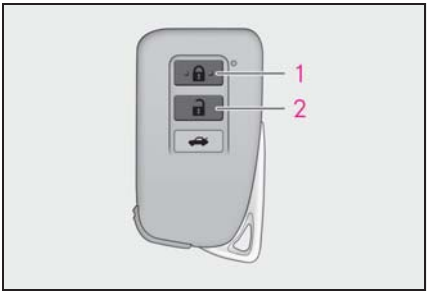
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■ ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.51）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
車外：“ピピッ”（3 回）車内：“ポーン”（1 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
車外：“ピピッ”（2 回）車内：“ポーン”（1 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.49）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

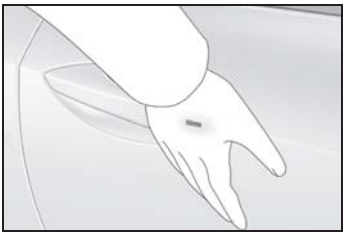
ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.49）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.92

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーやロックレバーを使ってドアの施錠・解錠ができます。
（→P.303）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.257）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.321）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ドア連動ドアガラス開閉機能

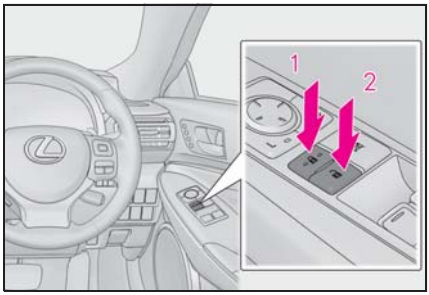
ドアガラスの上端を持ってドアを閉めないでください。ドアガラスで指などを挟むおそれがあります。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

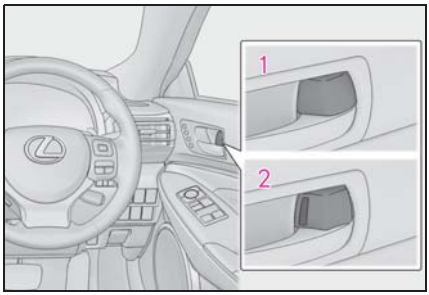
車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側から施錠するには

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があり

ます。

■マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは

ボンネット、いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていません。ボンネット、各ドア、またはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。ボンネット、全ドア、およびトランクを確実に閉めてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.321 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

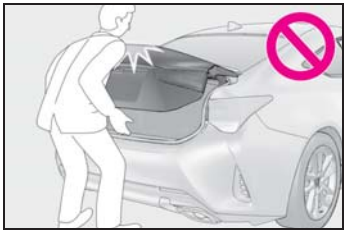
トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

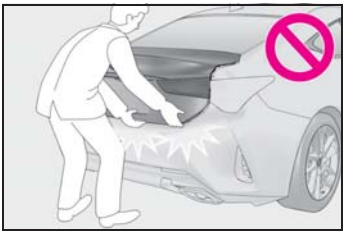
■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
- トランクを開けるときは、顔や体などをぶつけないよう注意してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

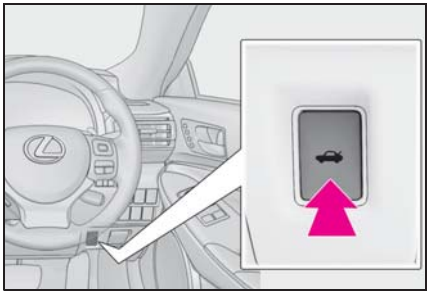


- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

トランクを開閉するには

■ トランクオープナースイッチを使用して開く

スイッチを押す

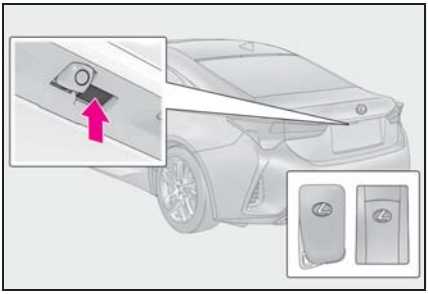


■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用して開く

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

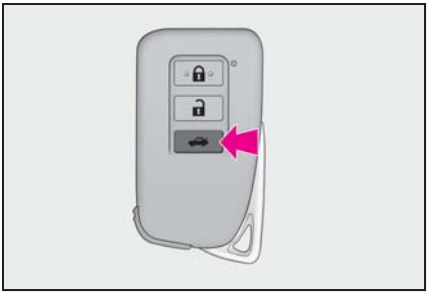
- スマートエントリー＆スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能



■ **ワイヤレス機能を使用して開く**

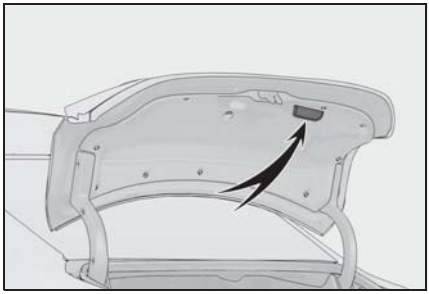
スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



■ **閉める**

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



知識

■ **トランクランプ**

- トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。
- エンジンスイッチが OFF の場合、トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ **トランク内キー閉じ込み防止機能について**

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合

は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。(→P.304)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→P.304)
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.257)

■マルチインフォメーションディスプレイにトランクが開いているメッセージが表示されたときは

→P.87

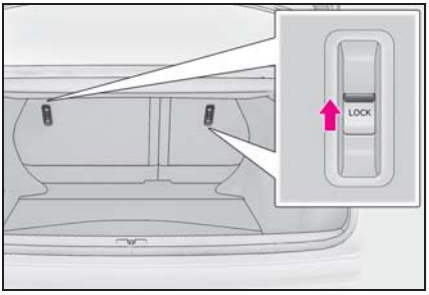
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.321)

ラゲージセキュリティシステム

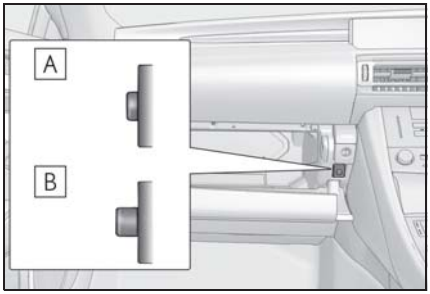
トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、ラゲージセキュリティシステムをセットできます。

1 ラゲージセキュリティシステムレバーを施錠側にする



リヤシートの背もたれを前方に倒し、レバーを施錠側にしたあと背もたれをもとの位置にもどしても、施錠できます。

2 グローブボックス内のメインスイッチを OFF にして、トランクオープナースイッチを無効にする



A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■駐車場などでキーを預けるときは

→P.83

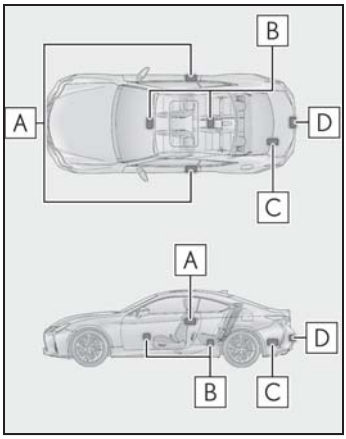
スマートエントリー＆スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→P.84）
- トランクを開ける（→P.88）
- エンジンを始動する（→P.124）

知識

■アンテナの位置



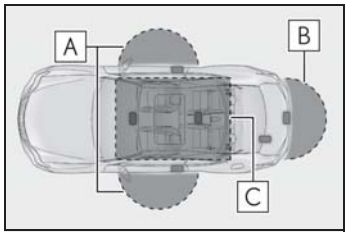
A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.279）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉じる

●車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（エンジンスイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉める

■**節電機能**

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

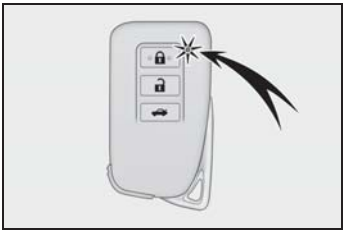
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■**電子キーを節電モードにするには**

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの🔒を押しながら、🔓を 2 回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.303）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のもの

に接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する （→P.92）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が

付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（応急用タイヤ★付近、トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→P.89）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→P.303

●エンジンの始動：→P.305

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.321）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→P.84, 89, 303)

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.305

●エンジンの停止：→P.125

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.91）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。

指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

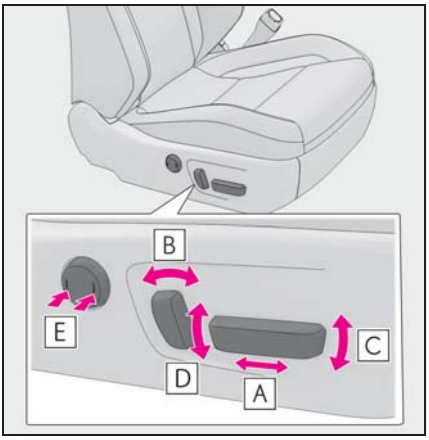
●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

知識

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→P.99）

■シートを調整するときは

●ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

●リヤシートを折りたたんでいるとき、フロントシートの背もたれがリヤシートにあたる場合は、あたらない位置へ調整してください。正しい運転姿勢がとれない場合は、リヤシートをもとの位置へもどしてください。（→P.98）

リヤシートへの乗り降り（ワンタッチウォークインシート）

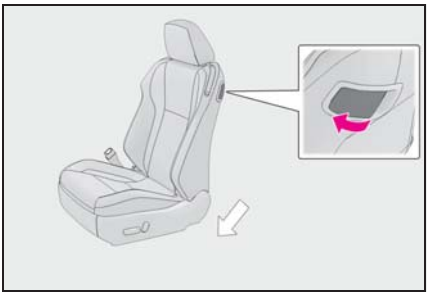
■ 乗り降りする前に

シートベルトガイドからシートベルトをはずしてください。（→P.25）

■ 乗るとき／降りるとき

1 レバーを引く

フロントシートが下がります。



2 背もたれを前に倒す

フロントシートが前方に移動します。

■ フロントシートをもとにもどすとき

固定される位置まで背もたれを起こすと、自動でもとの位置にもどります。

知識

■ワンタッチウォークインシートについて

●前方への操作後、復帰させる前にシート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したときは、背もたれを起こしても復帰作動しません。

●次のときはワンタッチウォークインシートが作動しません。
・シートベルトを装着しているとき
・エンジンスイッチがイグニッションONモードでシフトレバーが P 以外のとき（運転席のみ）

●次のときは、作動が途中で停止します。
・シート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したとき
・シートベルトを装着したとき
・エンジンスイッチがイグニッションONモードでシフトレバーを P 以外にしたとき（運転席のみ）

■挟み込み防止機能

ワンタッチウォークインシートの作動中に、シートの前後に異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し反対方向に少し移動します。

警告

■ワンタッチウォークインシートについて

●操作する前に、周囲の人や物がシートに挟まるおそれがないことを確認してください。

●走行時は背もたれを確実に固定させてください。

●走行中は絶対に操作しないでください。

■挟み込み防止機能

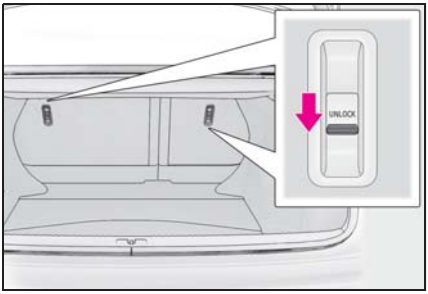
挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・体・足などを挟んだりしないでください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

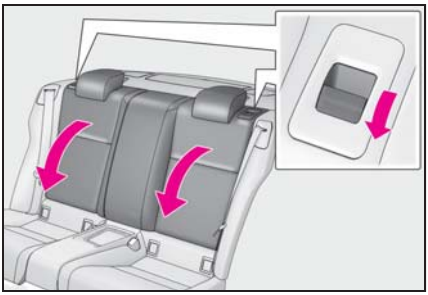
背もたれを倒す

1 ラゲージセキュリティシステムレバーを解除側にする



2 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

もどすときは、背もたれを起こして固定します。ヘッドレストが天井にあたり、もどしにくいときはヘッドレストを最下端に下げてください。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

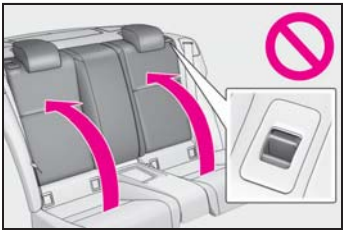
■背もたれを前倒しするときは

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする
- 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないようにする

ラゲージセキュリティシステム

→P.90

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

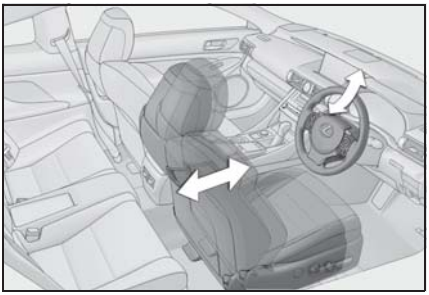
自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- エンジンスイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
- シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が後方付近にあるときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

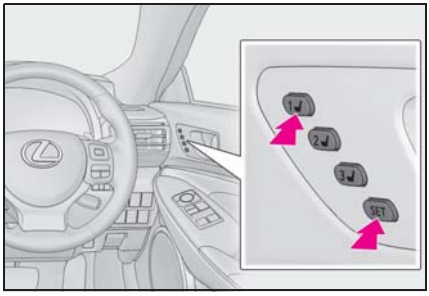
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.321）

ドライビングポジションを登録するには

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3. 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
4. SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



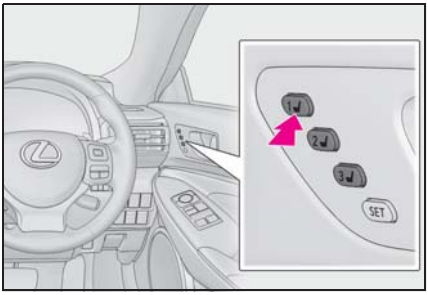
警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→P.96）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

電子キー（カードキーを含む）にドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

■ 登録方法

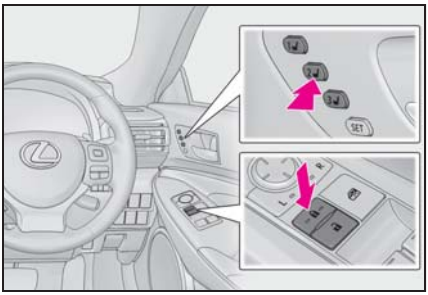
お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す
4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピー ” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピッピッ ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

● 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

● 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.321）

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

■ヘッドレストについて

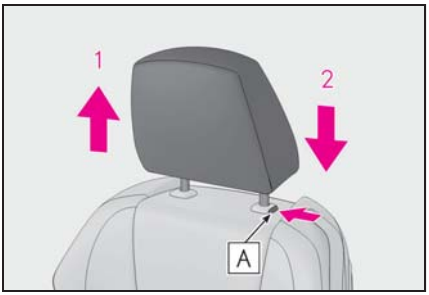
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

▶ フロント席

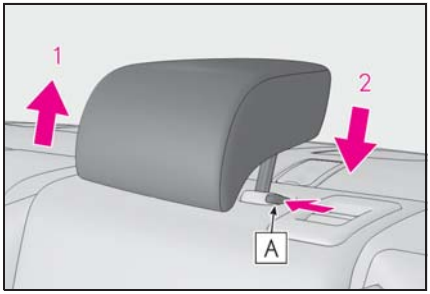


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

▶ リヤ席



1 上げる

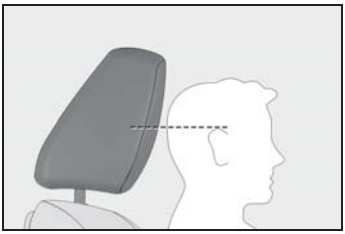
2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



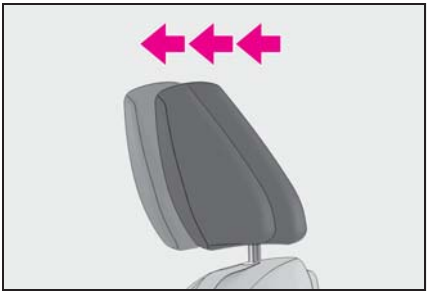
■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

前後調整するには

フロント席ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

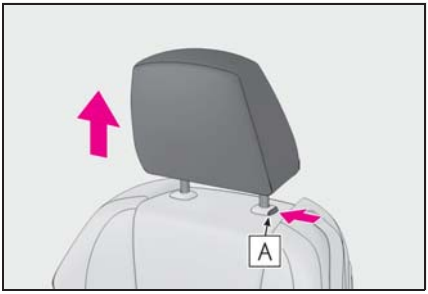
いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P.96, 98）

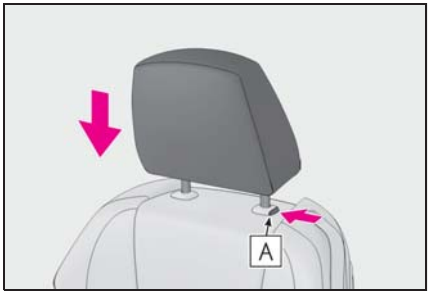


ヘッドレストを取り付けるには

▶ フロントシート

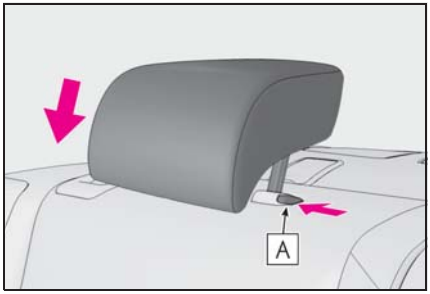
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



▶ リヤシート

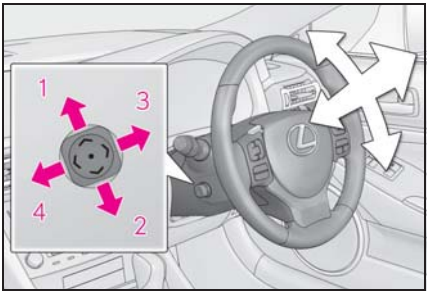
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンAを押しながら最下部のロック位置まで押し下げてください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.99）

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.99）

警告

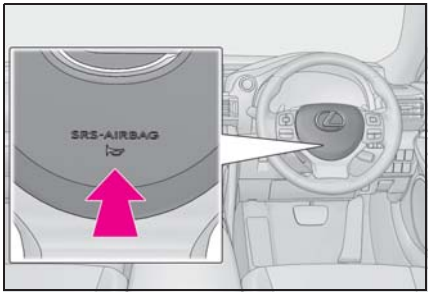
■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



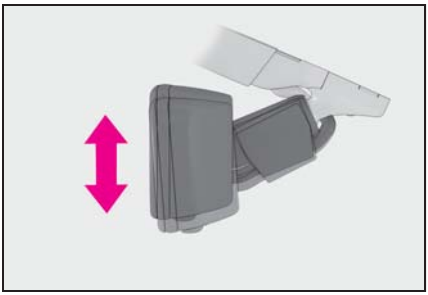
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

自動防眩機能を使うには

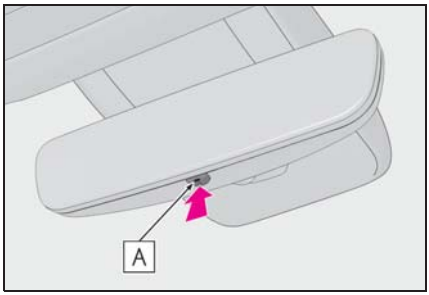
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター A が点灯します。

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

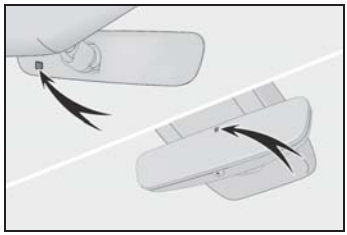
ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

警告

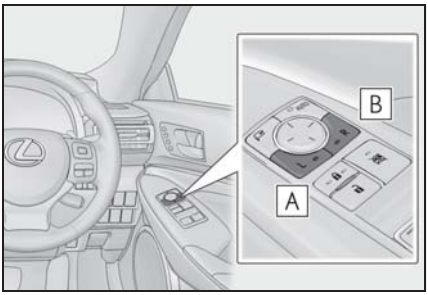
■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

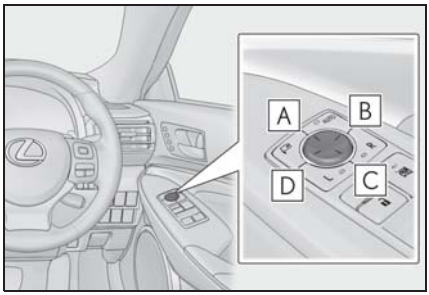


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.220)

■自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.105)

■ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.99)

■リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

後退時に下向きになる角度を調整するときは、シフトレバーを R に入れた状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時 (シフトレバーが R 以外のとき) の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

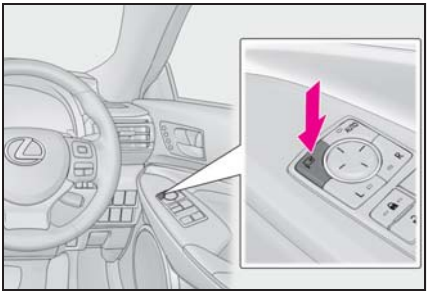
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



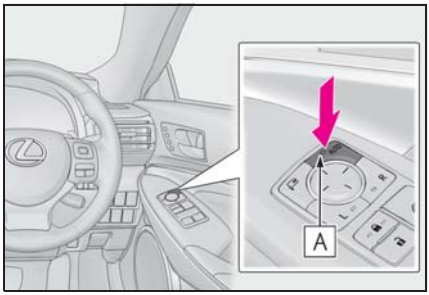
■ オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。(→P.321)

警告

■ ミラーが動いているとき

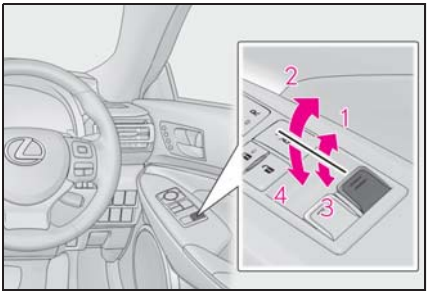
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める

2 自動全開 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドア

ガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス 販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.304）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.84）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.49）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.321）

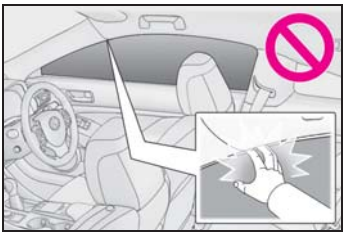
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.111）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

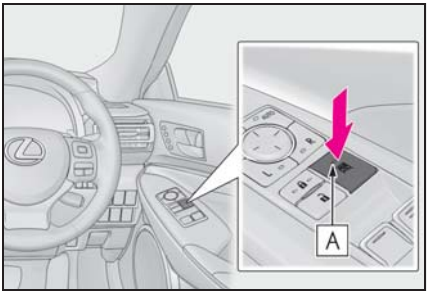
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーターAが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチがOFFになるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチをONにする必要があります。

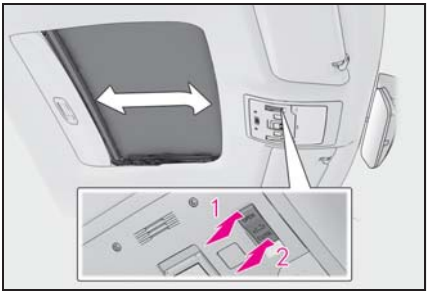
ムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ ムーンルーフを開閉するには



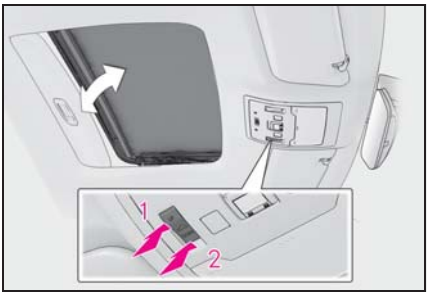
1 ムーンルーフを開く※

チルトアップしてから開きます。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→P.304）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→P.82）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.49）

※レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に働かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に働かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 ムーンルーフを操作する

症状に応じて次のいずれかを行ってください。

▶スイッチの “OPEN” 側を押してもムーンルーフが開かない場合

3 スイッチの “DOWN” または “CLOSE” 側を押し続ける

開閉作動をくり返したあと、全閉位置で停止します。

4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

▶スイッチの “OPEN” 側を押しているあいだはムーンルーフが開くが、自動で全開しない場合

3 スイッチの “OPEN” 側を押し続けて全開にする

4 スイッチの “CLOSE” 側を押し続けて全閉にする

5 スイッチの “UP” 側を押し続けてチルトアップ停止位置までチルトアップする

6 スイッチの “DOWN” 側を押し続けて全閉位置までチルトダウンする

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.321)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

● 走行中はルーフから手や顔を出さない

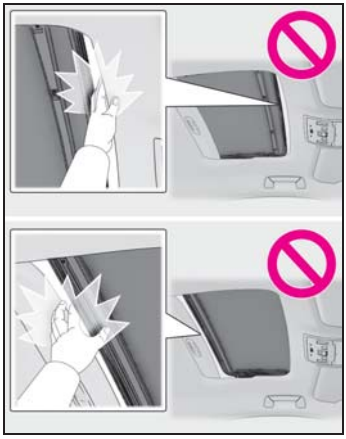
● 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

● 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車両から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

注意

■ムーンルーフの損傷を防ぐために

●開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。

●ムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。

■洗車後や雨が降ったあとなどは

ムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 116

荷物を積むときの注意..... 122

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ..... 124

オートマチックトランスミッション..... 128

方向指示レバー..... 132

電動パーキングブレーキ..... 133

ブレーキホールド..... 136

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 139

AHB（オートマチックハイビーム）..... 142

フォグランプスイッチ..... 144

ワイパー＆ウォッシャー..... 145

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 150

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + ... 153

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 158

LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）..... 164

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 172

Stop & Start System 180

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 185

クリアランスソナー..... 194

ドライブモードセレクトスイッチ..... 200

運転を補助する装置..... 202

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 207

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンをかける

→P.124

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.128）

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する（→P.133）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

Stop & Start システム装着車：Stop & Start システムが作動可能状態のときは、ブレーキを踏み車両が停止すると、エンジンが自動的に停止します。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P.128）

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→P.133）、シフトレバーを P にする（→P.128）

3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P.202）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は M ポジションを含む）

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P.203）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などをバンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■Stop&Start システム★作動中のハンドル操作について

→P.180

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エンジン停止前のアイドル運転について（RC300）

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.264 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.128)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

警告

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

警告

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ターボ装置の故障を防ぐために（RC300）

●高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。（→P.117）

●排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。

●排気管の改造は絶対にしないでください。

●エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。

●定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.282、293 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

注意

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで拡大したトランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

警告

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・センターディスプレイの前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンはかかりません。

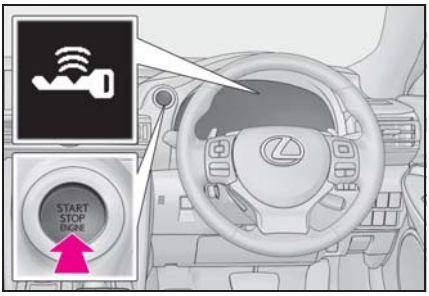
4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.48）
レクサス販売店へご連絡ください。

●シフトレバーがＰの位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、Ｐ以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに“始動時は Ｐレンジに 入れてください”が表示されます。

■電子キーの電池の消耗について

→P.80

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.92

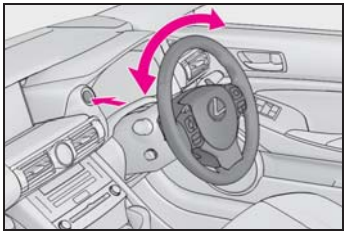
■ご留意いただきたいこと

→P.93

■ステアリングロック機能

●エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください”が表示されます。シフトレバーがＰの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



●短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池交換

→P.257

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.303 を参照してください。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかけて（→P.133）、シフトレバーを P の位置にする
3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

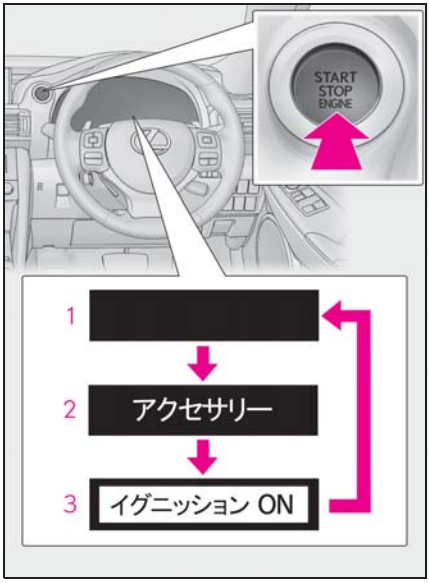
警告

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.264)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
メーターに “アクセサリー” が表示されます。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
メーターに “イグニッション ON” が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード(エンジンがかかっていない状態)にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐもの

ではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●エンジンがかかっていないときに、メーターの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2 シフトレバーを P の位置にする
3 マルチインフォメーションディスプレイに “電源を Off してください” が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
4 マルチインフォメーションディスプレイの “電源を Off してください” の表示が消灯していることを確認する

注意

■バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→P.131)

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■**リバース警告ブザー**

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■**オートマチックトランスミッションの保護制御**

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに “AT オイル高温 取扱書を確認してください” が表示され、自動的に保護モードに入ります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき**

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●D ポジションでのレンジ選択走行中に 7、6、5 または 4 にレンジダウンしたとき（→P.130）

●Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P.200）

■**急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）**

→P.117

■**AI-SHIFT**

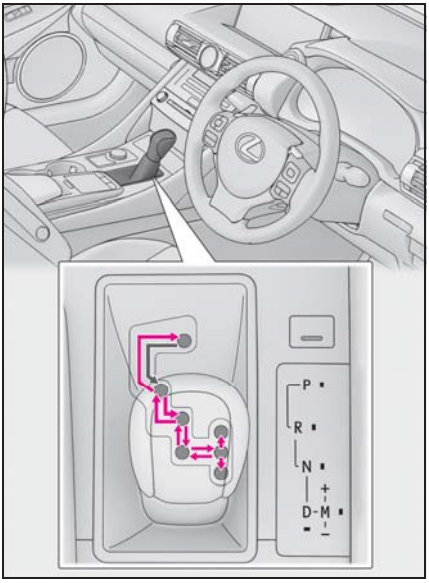
●AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

警告

■**すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

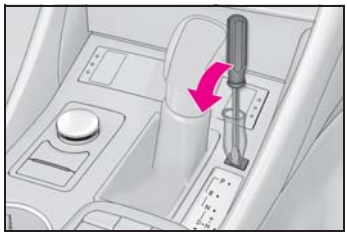
■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

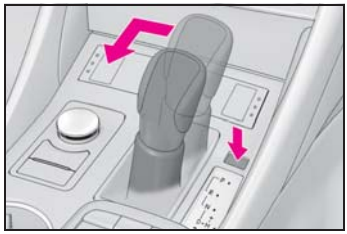
1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する (→P.126, P.133)
2 エンジンスイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

■ スポーツモード・エコドライブモード

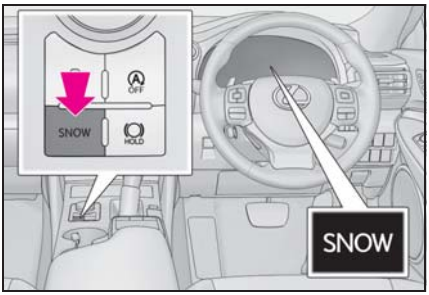
→P.200

■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

スノーモードスイッチを押す

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



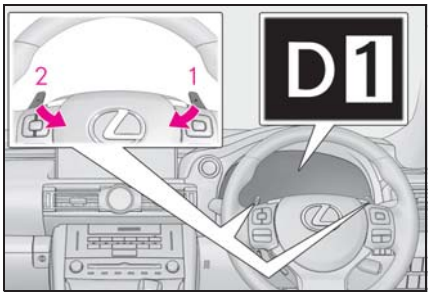
知識

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のギヤ段より一つ上のレンジにシフトアップします。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D8 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

メーター表示	機能
D2 ～ D8	スピードや走行条件に応じて、1速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが1速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的にDポジションでのレンジ選択が解除されます。

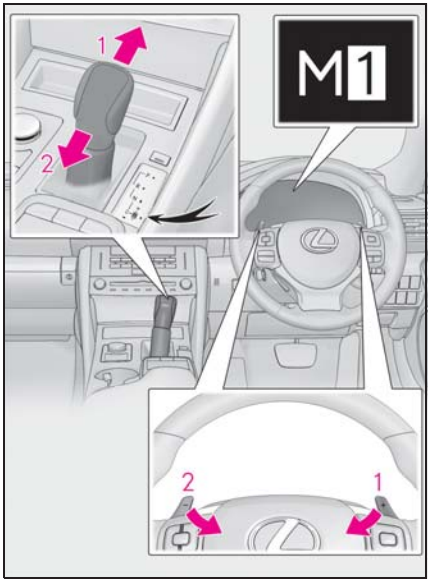
- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーをD以外にしたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが2回鳴ります）

Mモードでギヤ段選択するには

シフトレバーをMポジションにすると、Mモードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに1速ずつ変速します。M1からM8の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

Mポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- エンジン冷却水やオートマチックトランスミッションフルードが低温のときなど、エンジンまたはオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

次の場合はシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しても変速しません。

- マルチインフォメーションディス

プレイに “滑りやすい路面のためダウンシフトできません” と表示されている場合

● 車速が低い場合（シフトアップのみ）

知識

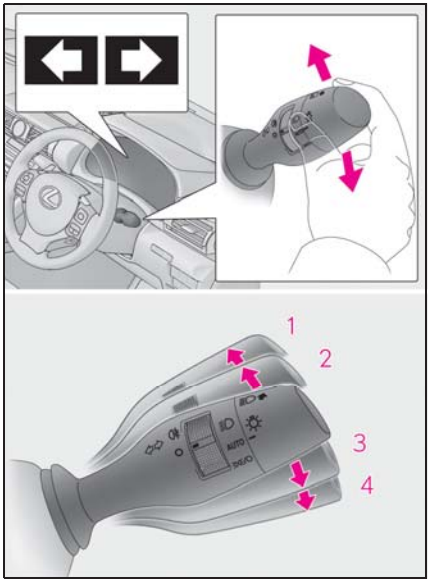
■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

方向指示レバー

操作のしかた

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

■ **右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき**

レバーを逆方向の **2** または **3** の位置に操作してください。レバーを **1** または **4** の位置まで操作すると、選択

した方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.321)

電動パーキングブレーキ

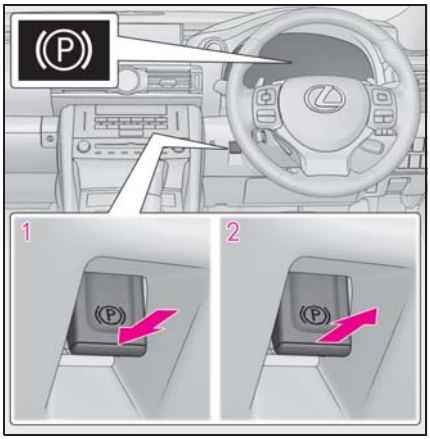
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

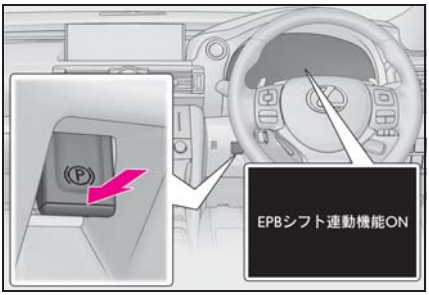
2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、“EPB シフト連動機能 ON” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

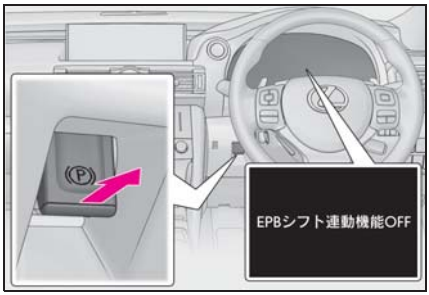
● シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、“EPB シフト連動機能 OFF” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける



知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

●運転席ドアが閉じている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■駐車するとき

→P.116

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.272

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.207

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

注意

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

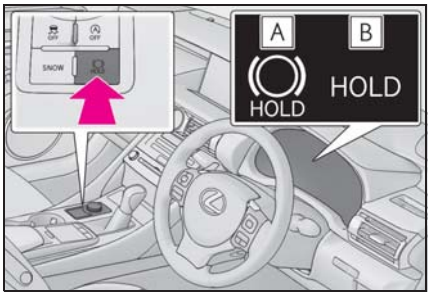
ブレーキホールド

シフトレバーがD・MまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはMのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

●パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、シス

テムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.133）

■レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.272

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

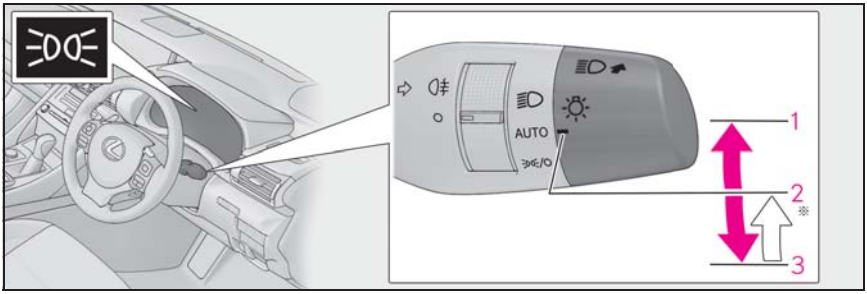
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO ※1	LED デイライト（→P.140）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

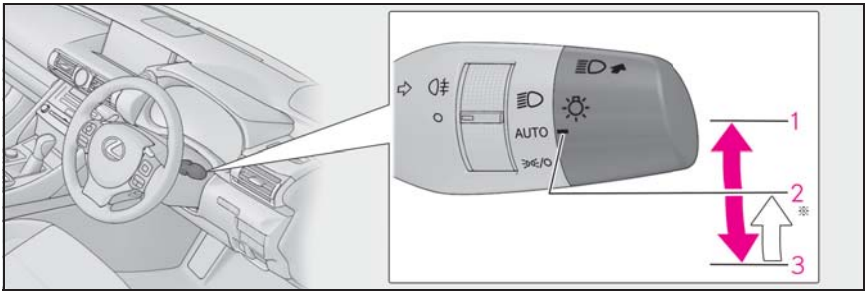
※1操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト（→P.140）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）

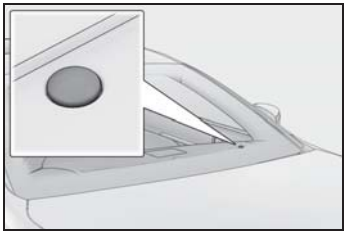
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッションONモードにするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

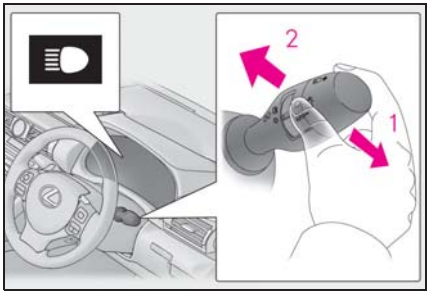
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.321)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

● ヘッドランプ（ロービーム）点灯時、かつ車速が約30km/h以下のときにハンドルまたは方向指示レバーを操作すると、交差点での視認性確保のため、車両進行方向側のコーナリングランプが点灯します。

● ヘッドランプ（ロービーム）点灯時にシフトレバーをRにすると、駐車時の視認性向上のため、両側のコーナリングランプが点灯します。

知識

■コーナリングランプ制御について

コーナリングランプは、点灯したまま約30分経過すると、自動で消灯します。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

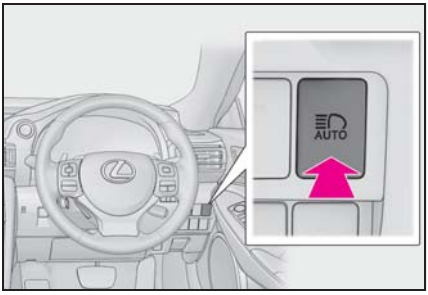
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

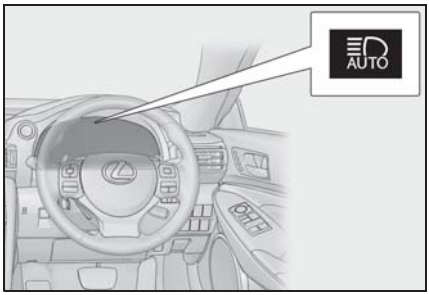
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

の位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合

があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

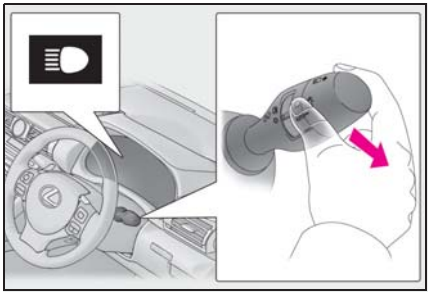
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

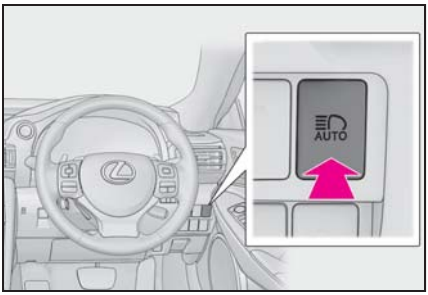


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

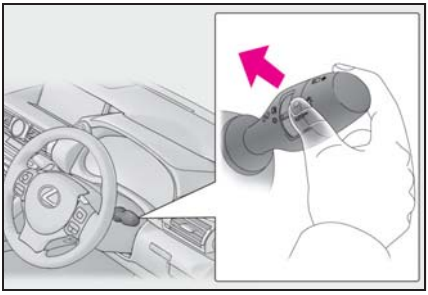
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

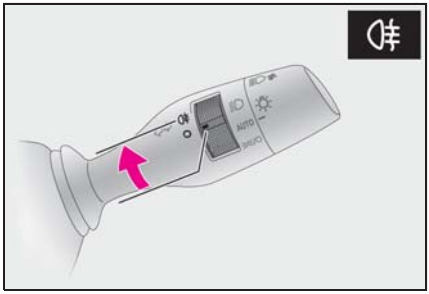
ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

操作のしかた



点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると消灯します。

知識

■ 点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

■ リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
  必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

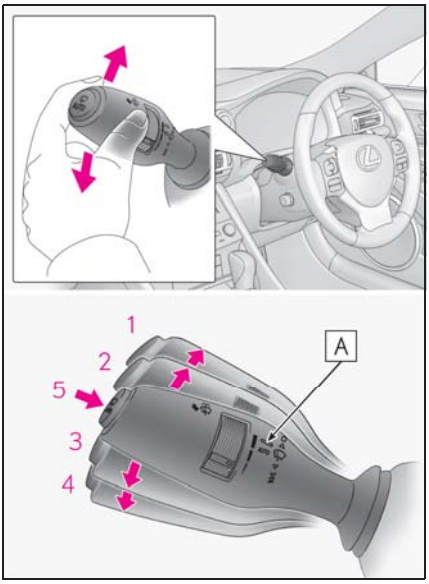
⚠注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。



1 ○ レバーを 2 段階上げる

2 △ レバーを 1 段階上げる

3 ▽ レバーを 1 段階下げる

4 ▽▽ レバーを 2 段階下げる

5 AUTO AUTO モード ON/OFF スイッチ

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動する AUTO モードの ON/OFF を切りかえます。

AUTO モードのときは、AUTO モード表示灯 A が点灯します。

操作前の状態によって、レバーを操作したときのワイパー作動は次のように切りかわります。

・ 操作前の状態：停止

操作する位置	作動
○	一時作動
△	一時作動
▽	低速作動
▽▽	高速作動

・ 操作前の状態：低速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	停止
▽	高速作動
▽▽	高速作動

・ 操作前の状態：高速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	低速作動

操作する位置	作動
▽	変化なし
⧗	変化なし

・ 操作前の状態：AUTO モード（間欠作動）

操作する位置	作動
○	停止
△	一時作動 ※1
▽	低速作動 ※2
⧗	高速作動 ※2

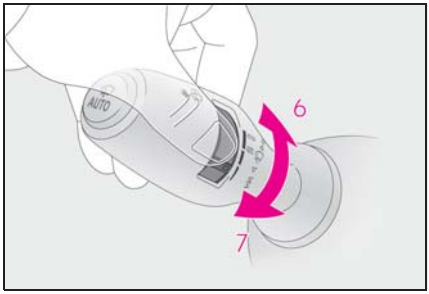
・ 操作前の状態：AUTO モード（連続作動）

操作する位置	作動
○	停止
△	変化なし
▽	低速作動 ※2
⧗	高速作動 ※2

※1一時作動後、AUTO モードにもどります。

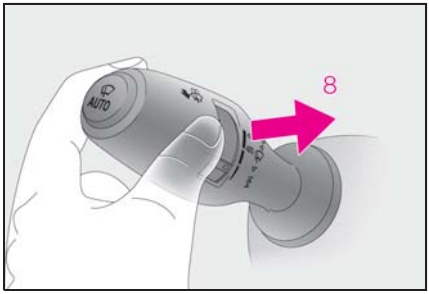
※2AUTO モードは解除されます。

AUTO モードのときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、５回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

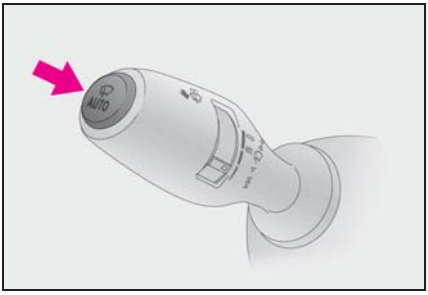
間欠時間調整式ワイパーへの切りかえ

雨滴量や車速に関係なく間欠作動する間欠時間調整式ワイパーとして使用することができます。停車中で、ワイパーが停止状態のときに切りかえることができます。AUTO モードのとき、または間欠作動中は切りかえることができません。

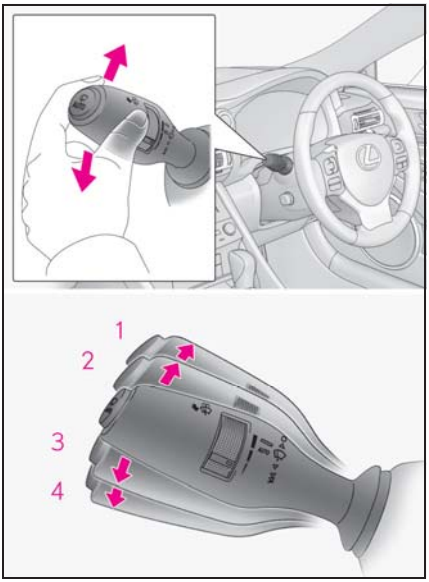
AUTO ボタンを AUTO モード表示灯の

点滅が終わるまで押し続ける

もう一度 AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続けるともとにもどります。



■ **間欠時間調整式ワイパーの作動**



1 ○ レバーを 2 段階上げる

2 △ レバーを 1 段階上げる

3 ▽ レバーを 1 段階下げる

4 ⊻ レバーを 2 段階下げる

操作前の状態によって、レバーを操作したときのワイパー作動は次のように切りかわります。

・ 操作前の状態：停止

操作する位置	作動
○	一時作動
△	一時作動
▽	間欠作動
⊻	高速作動

・ 操作前の状態：間欠作動

操作する位置	作動
○	停止
△	停止
▽	低速作動
⊻	高速作動

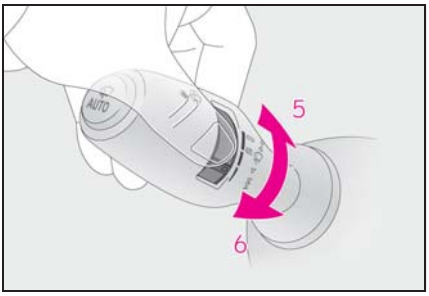
・ 操作前の状態：低速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	間欠作動
▽	高速作動
⊻	高速作動

・ 操作前の状態：高速作動

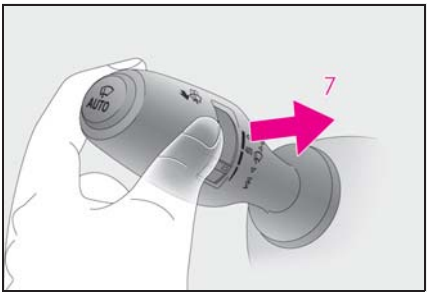
操作する位置	作動
○	停止
△	低速作動
▽	変化なし
⊻	変化なし

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 間欠ワイパーの作動頻度（減）



7 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

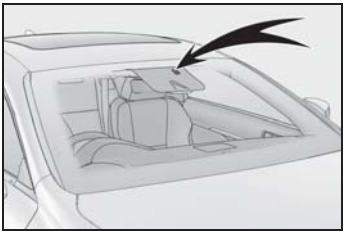
■車速による作動への影響

- 停車中は間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。
- 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 85 ℃以上または－ 30 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ワイパーが一時作動しているとき

AUTO を押しても AUTO モードに切りかわりません。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのに

ウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
  除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

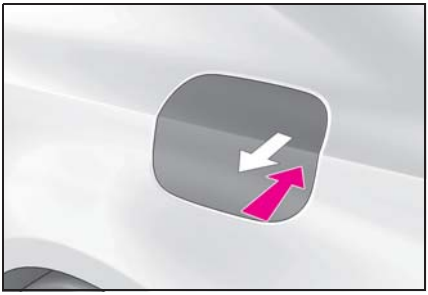
注意

●塗装が損傷する

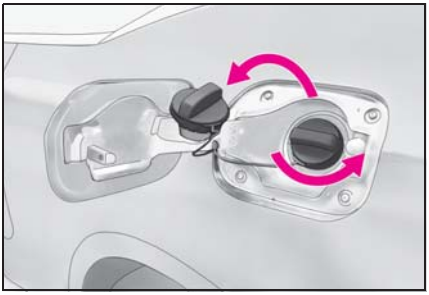
給油口を開けるには

1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

“カチッ”と音がするまで押し、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

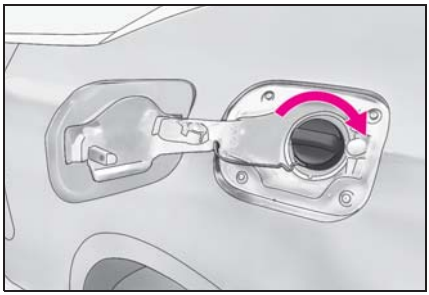
■給油扉が開かないとき

→P.303

給油口の閉め方

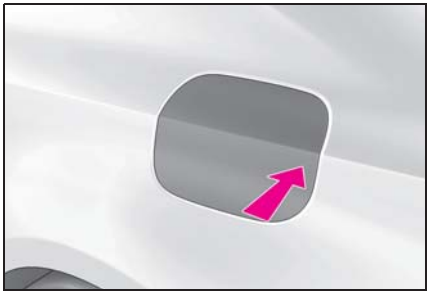
1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を“カチッ”と音がするまで押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



知識

■給油扉を閉めるとき

給油扉を閉める前にドアを施錠すると、給油扉を閉めることができません。ドアを解錠してから給油扉を閉めてください。

■給油扉の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油扉は施錠されません。

●室内のドアロックスイッチで施錠したとき

●シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ **PCS（プリクラッシュセーフティ）**

→P.158

■ **LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）**

→P.164

■ **AHB(オートマチックハイビーム)**

→P.142

■ **レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)**

→P.172

警告

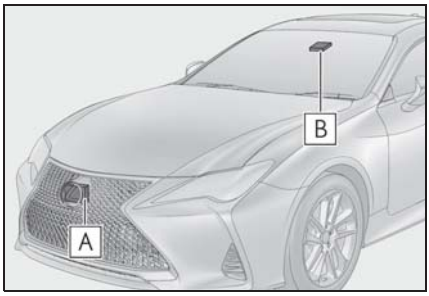
■**Lexus Safety System + について**

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

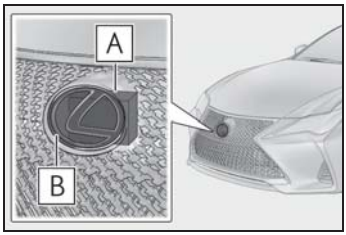
警告

■**レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

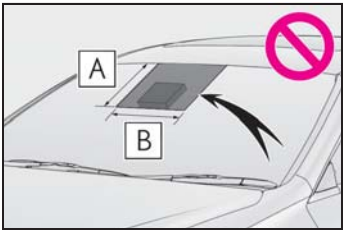
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.220）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	●汚れや付着物を取り除く ●前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.220）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ現在使用できません” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき

その場合には “プリクラッシュセーフティ現在使用できません” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

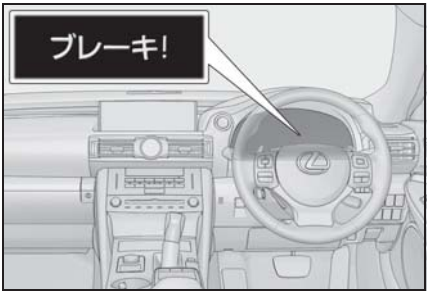
進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(→P.160)

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.202）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

■ ステアリングコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断し、かつ運転者がハンドル操作をしたとき、LDH（→P.203）によって前・後輪の切れ角とハンドルの重さを制御することで、ハンドル操作に対する応答性の向上に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.161

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.162

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●けん引されるとき

●けん引するとき

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●タイヤの空気圧が適正でないとき

●著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

警告

- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

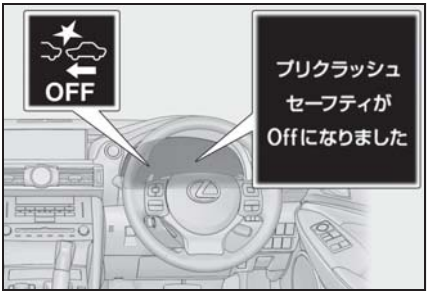
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.66）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。

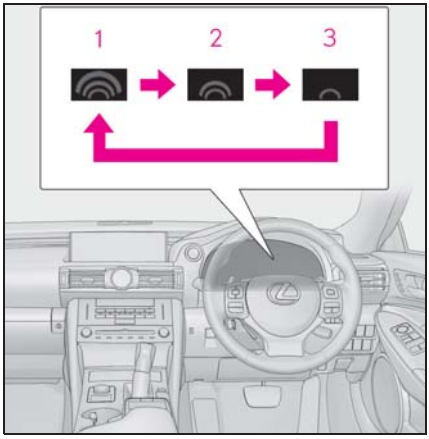
システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.66）から、プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更することができます。

エンジンスイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。



1 遠い

「中間」より警報タイミングが早くなる

2 中間

初期設定

3 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる

知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

- 衝突警報
  - ・自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
  - ・自車から見た前方の車両や歩行者との

相対速度約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト
・自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ
・自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.162）

■プリクラッシュブレーキの作動解除

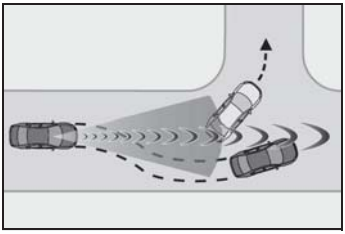
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●アクセルペダルを強く踏み込む

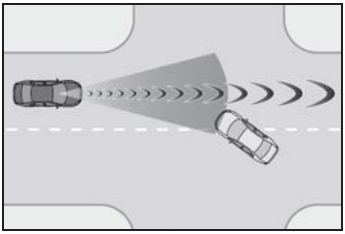
●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

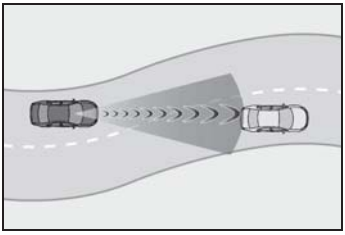
●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。
・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
・車線を変更して先行車を追いこすとき
・車線変更している先行車を追い抜くとき
・右左折する先行車を追いこすとき



・右左折待ちの対向車とすれ違うとき

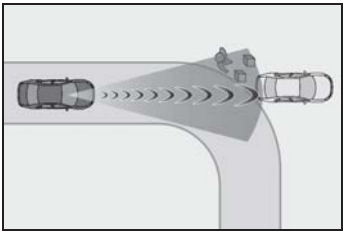


・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

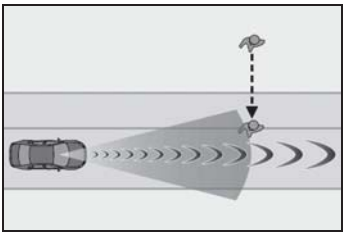


・前方車両に急接近したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、

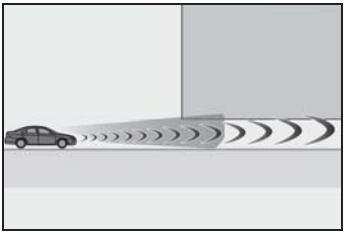
車両姿勢が変化しているとき
・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき



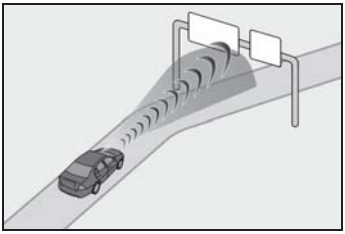
・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



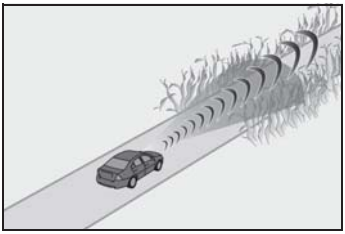
・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき



・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
・洗車機を使用するとき
・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

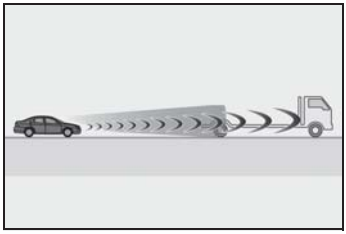


・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

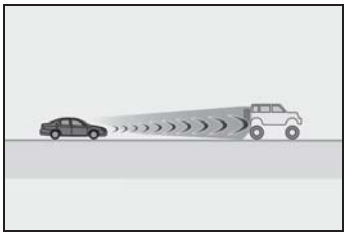
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
・前方車両がオートバイ・自転車のとき
・車両の側面または前面に近付いたとき

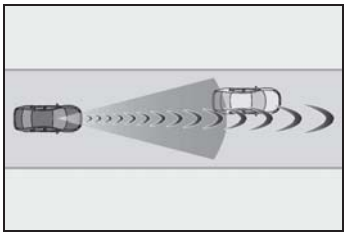
・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



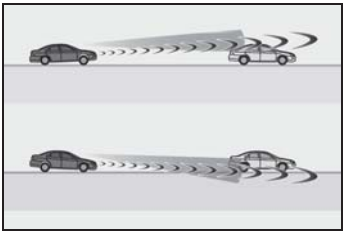
・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
・前方車両と自車の中心がずれているとき



・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
・ふらつき運転をしているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でない

とき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

●例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
・合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
・集団でいる歩行者
・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
・歩く速度が速い歩行者
・歩く速度を急激に変化させている歩行者
・物陰から飛び出してきた歩行者
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止 (→P.203) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

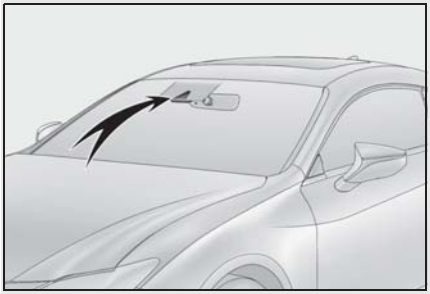
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が Off のため プリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート※[ステアリング制御機能付き]）

※ 車線逸脱警報

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDA は、フロントウインドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

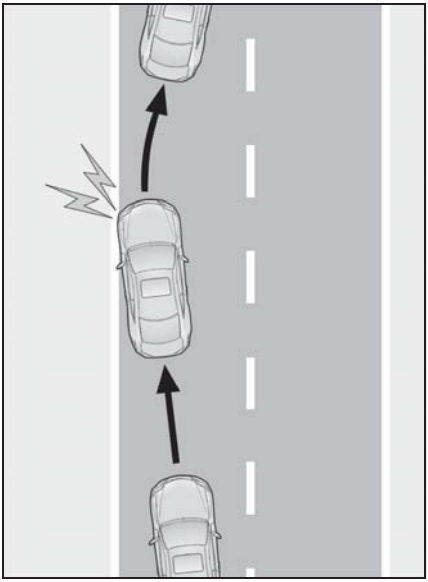


LDA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

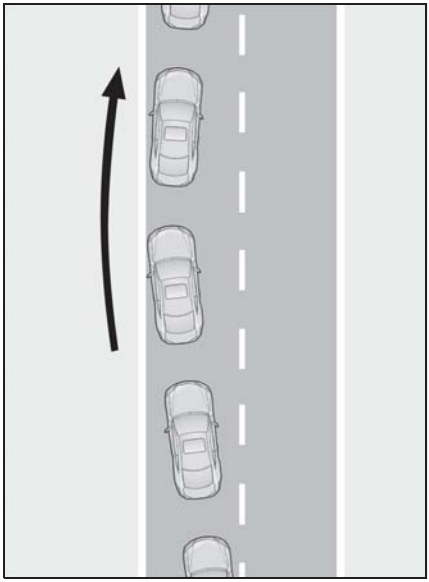
警報ブザーが鳴った、またはハンドルに振動があったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



■ ステアリング制御機能

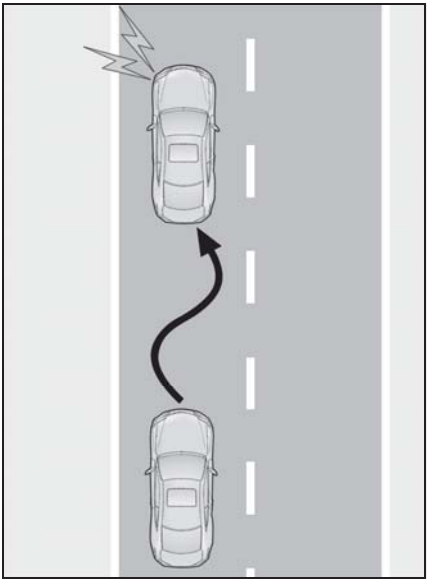
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



警告

■LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 車両けん引時

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

警告

- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

設定のしかた

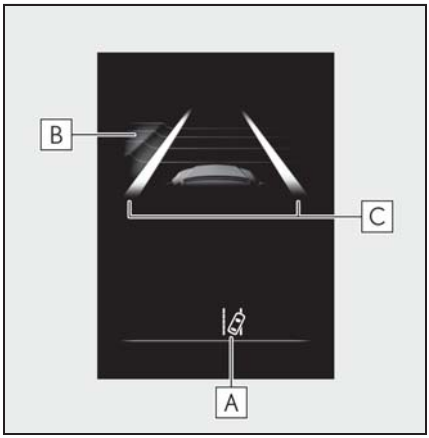
LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON ／ OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

C 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■ **各機能の作動条件**

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ LDA を ON にしているとき
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ システムが白（黄）線を認識しているとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.170）

●ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ マルチインフォメーションディスプレイの で “ 操舵支援 ” を “ 有 ” に設定しているとき（→P.66）
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・ TRC または VSC を停止していないとき
・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.169）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ マルチインフォメーションディスプレイの で “ ふらつき検知 ” を “ 有 ” に設定しているとき（→P.66）
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.170）

■ **機能の一時解除**

作動条件（→P.168）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→P.168）が満たされなくなった場合、“ ピピッ ” とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ **ステアリング制御機能について**

車速や車線の逸脱状況・路面状況などに

より、ステアリング制御機能の作動を感じなかったり、ステアリング制御機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、警報手段を に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ふらつき警報機能について

ふらつき警報機能の作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石など

があるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき

●分岐・合流路などを走行しているとき

●坂道を走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

●急カーブを走行しているとき

●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●横風を受けているとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●冬用タイヤなどを装着しているとき

■**警告メッセージ**

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
“LDA 故障 販売店で 点検してください ”	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある → レクサス販売店で点検を受けてください。
“ 前方カメラ 一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください ”	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している → いったん LDA を OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 LDA を ON にしてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
“ 前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください ”	カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされていない → カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされると、LDA は使用可能になります。いったん LDA を OFF にして、しばらく待ってから、再度 LDA を ON にしてください。
“LDA 現在利用できません ”	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している → いったん LDA を OFF にして、警告メッセージの内容に対処したあと、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください。
“LDA 約 50km/h 以下で 使用できません ”	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません → 約 50km/h より速い速度で走行してください。
“LDA 現在の車速では 使用できません ”	車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません → 車速を落として走行してください。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報機能	警報感度
	警報手段
ステアリング制御機能	機能の ON ／ OFF
ふらつき警報機能	機能の ON ／ OFF
	警報感度

設定変更のしかたは、P.321 を参照してください。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

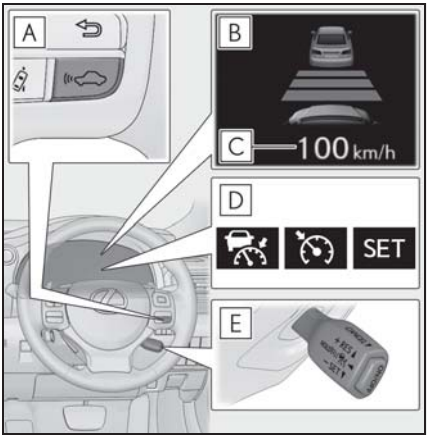
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

● 車間制御モード（→P.174）

● 定速制御モード（→P.177）

システムの構成部品



A 車間距離切りかえスイッチ

B マルチインフォメーションディスプレイ

C 設定速度

D 表示灯

E クルーズコントロールスイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

● レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.179

・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.179

● 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

● システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき

●ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

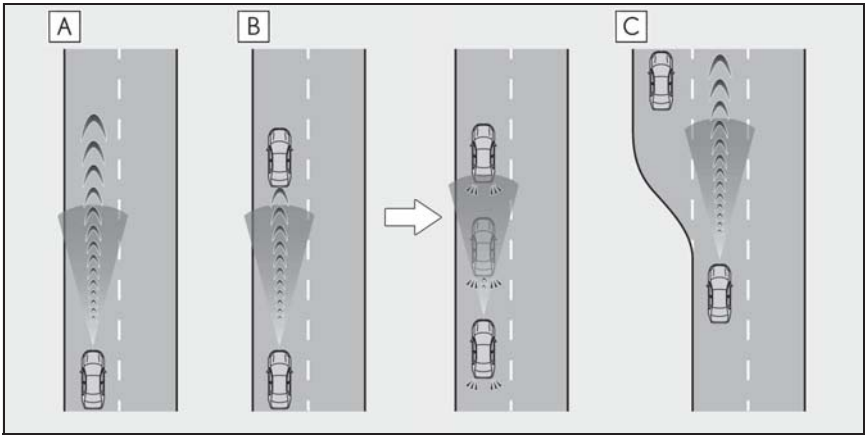
●車両けん引時

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



A 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

B 減速走行一追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります。

C 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

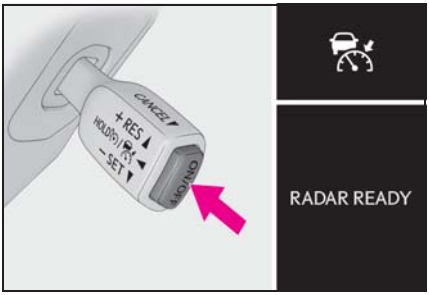
速度を設定する（車間制御モード）

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.177）

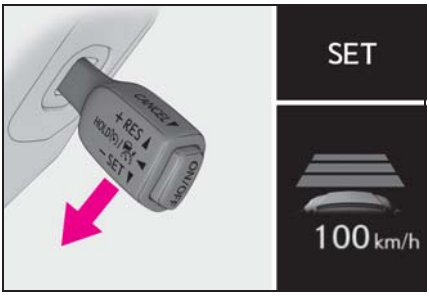


2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

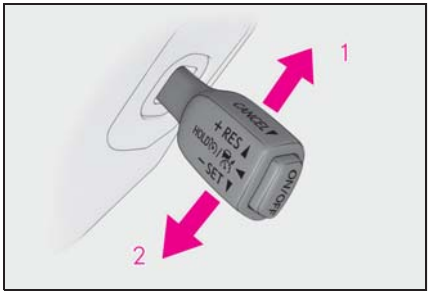
レバーを離したときの車速で定速走行できます。

車速が約 50km/h 未満、かつ先行車がいる状態でレバーを操作したときは、設定速度が約 50km/h にセットされます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

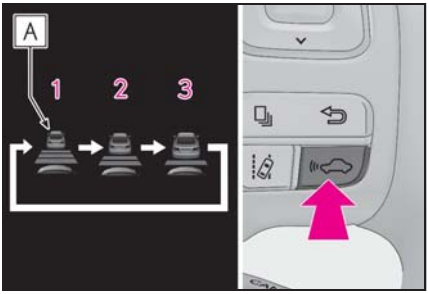
定速制御モード（→P.177）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1.6km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い
2 中間
3 短い

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに車間距離は 1 にもどります。

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

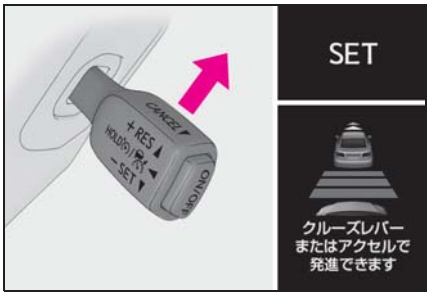
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

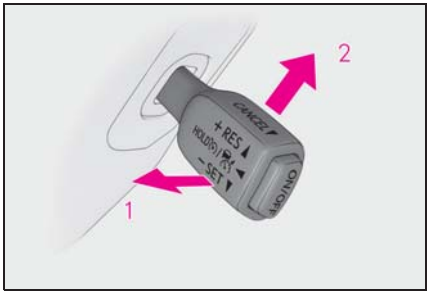
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

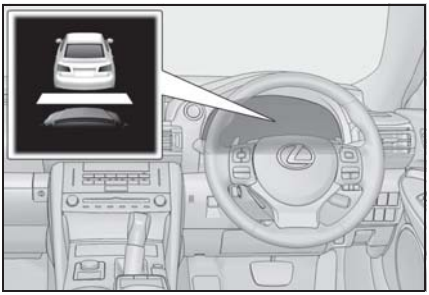
2 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下で、かつ先行車を検知していないときは、復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してくだ

さい。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

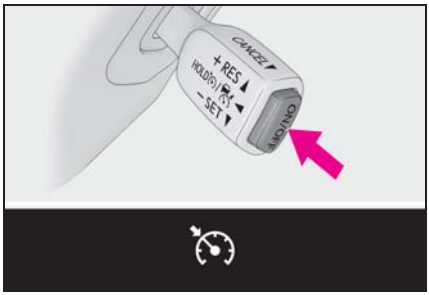
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→P.175

制御を解除する・復帰させる
→P.176

知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- パドルシフトスイッチで4レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速が約 50km/h 以上のとき設定できます。（ただし先行車を検知していると

きは、約 50km/h 未満でも設定できます）

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中にレバーを上げた場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●先行車がいないときに車速が約40km/h以下になったとき

●車速が約40km/h以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかったとき（マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズできません　先行車無し」が表示されます）

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●走行モードをスノーモードにセットしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき

●車速が約 40km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ブレーキシステムの作動音

車間制御モードで走行中に自動でブレーキがかかると、ブレーキシステムの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

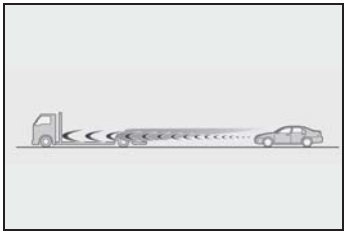
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.176）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

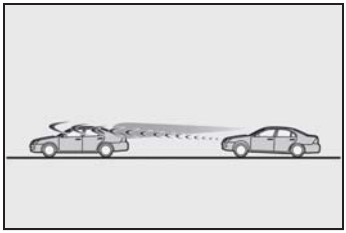
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



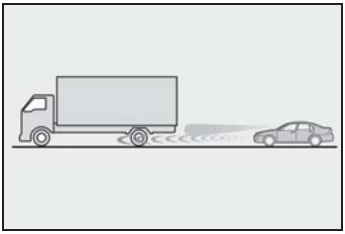
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



●先行車の車高が極端に高いとき

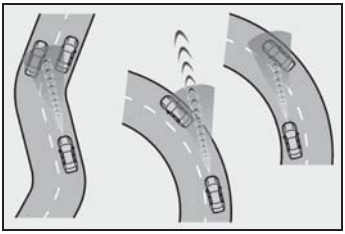


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

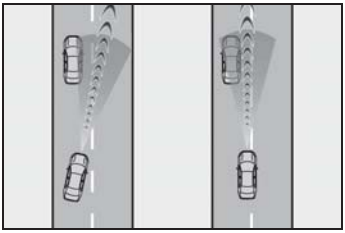
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき

Stop & Start System★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

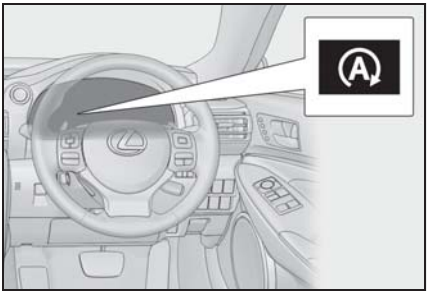
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの作動

■ **エンジンが停止する**

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start システムによるエンジン停止中は表示灯が点灯します。



■ **エンジンが再始動する**

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

エンジンが再始動すると表示灯は消灯します。

■ **ブレーキホールドシステムが作動しているとき**

● Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルから足を離しても、エンジン停止状態を継続します。

● Stop & Start システムによるエンジン停止中に、アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。

● Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。但し、ブレーキホールドシステムの作動条件（→P.136）が満たされなくなった場合を除きます。

■ **レーダークルーズコントロールシステム（全車速追従機能付）が作動しているとき**

● レーダークルーズコントロールによる停車時、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します。

● 先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

● Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもレーダークルーズコントロールによる停車は継続します。

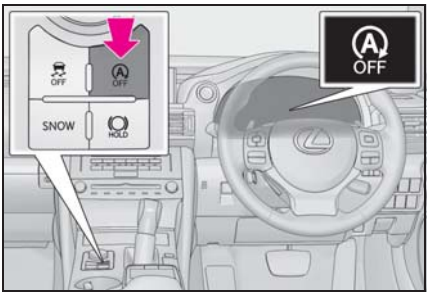
Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押して下さい。

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、

Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



知識

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

● 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

● ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。

● ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

知識

■使用にあたり知っておいていただきたいこと

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作（→P.124）でエンジンを始動してください。

●Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。

●電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

●長時間停車する場合などには、エンジンスイッチを OFF にしエンジンを停止してください

●Stop & Start システムの作動によるエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にハンドルが重く感じることがあります。

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・一度、走行したあと
・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき（レーダークルーズコントロールシステム [全車速追従機能付] による停車中を除く）
・シフトポジションが D のとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・走行モードが NORMAL または ECO モードのとき
・走行モードがスノーモードでないとき

・Fr デフロスターが OFF のとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・エンジンが十分暖まっているとき
・外気温が -5°C 以上のとき
・ボンネットが閉まっているとき（詳しくは “ボンネットを開けたとき（→P.182）” をご参照ください）

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが異常ではありません
・エアコンを使用しているとき
・定期的な充電中のとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・エンジン再始動後の経過時間が短いとき
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ハンドル操作をしているとき
・標高が高いとき
・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリーを脱着した後、しばらくの期間

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
・エアコンを ON にしたとき
・Fr デフロスターを ON にしたとき
・シフトポジションを D または P 以外にしたとき
・シフトポジションを P 以外にしたとき（P レンジで Stop & Start システムによるエンジン停止中）
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・走行モードを “NORMAL” または ECO モード以外にしたとき
・走行モードをスノーモードにしたとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・ハンドルを操作したとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・坂道などで車両が動き出したとき
・先行車が発進したとき（先行車発進告知機能有効時のみ）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
・エアコンを使用しているとき
・エアコンに関わる操作をしたとき（デフロスタースイッチなど）
・バッテリーの充電量が低下しているとき

■ボンネットを開けたとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→P.124）でエンジンを始動してください。

●ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

オート設定でエアコンを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

空調の効きを優先したいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にして下さい。

●フロントウインドウガラスが曇ったとき

Fr デフロスターと送風を ON にしてください（→P.216）。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

●エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を非作動にしてください。

■エアコンがONのときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

マルチインフォメーションディスプレイの（→P.70）または、（→P.66）のそれぞれの画面から、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P.70

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されることがあります。

●Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

“ ブレーキをもう少し踏み込んでください ”

・ ブレーキペダルを踏む力が足りない

→ ブレーキペダルを踏み足すと作動します。

“ 専用バッテリー非装着 ”

・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある

→Stop & Start システムが作動しません。レクサス販売店で点検を受けてください。

・ リフレッシュ充電中の可能性がある

→ 最大 1 時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。

・ 長期間 (1 時間以上) にわたって継続的に表示される

→ バッテリ劣化の可能性がありますので販売店に相談してください

“ アイドリングストップできません ”

・ 一時的にアイドリングストップを禁止している

→ エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある

→ ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。

“ エアコン優先 ”

・外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している

→ エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。

・Fr デフロスターを ON にしている

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

“ エアコン優先 ”

・エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している

・Fr デフロスターを ON にした

■ブザーが鳴ったとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中、シフトポジションが D レンジでアイドリングストップ中に運転席ドアが開いたときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。ブザーを止めるには運転席ドアを閉めて下さい。

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。オーディオを再度使用するには、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

●バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。

・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■バッテリーを交換するとき

→P.308

■Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ アイドリングストップ故障 販売店で点検してください ” が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

●運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

●運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON（→P.227）のときにインテリアランプが点灯するとき

●運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON（→P.227）のときにインテリアランプが点灯しないとき

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

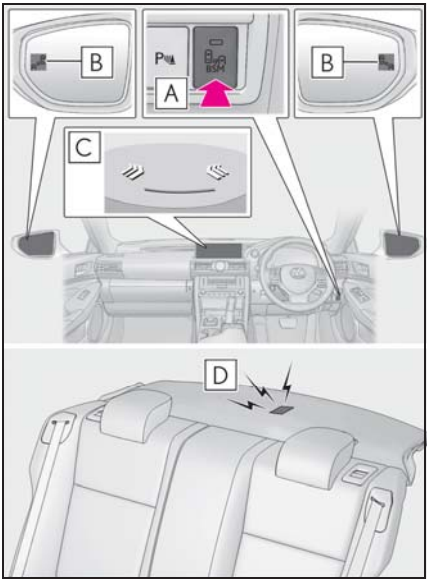
ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

● BSM（ブラインドスポットモニター）機能
運転者による車線変更時の判断を支援します。

● RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。



A BSM メインスイッチ

BSM 機能および RCTA 機能の共用スイッチです。押すごとに ON ／ OFF が切りかわります。ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

B ドアミラーインジケーター

BSM 機能：ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.191）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM メインスイッチを ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。

- センサーが故障しているとき
- センサーが汚れているとき（着雪、ステッカー貼り付けなどを含む）
- 極めて高温または低温の環境での使用
- センサーの電圧異常
- センサーの位置や向きがずれているとき

■レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

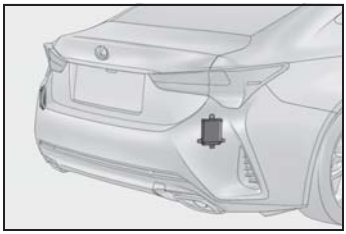
C3-001

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM 機能の作動条件（→P.189）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではありません。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

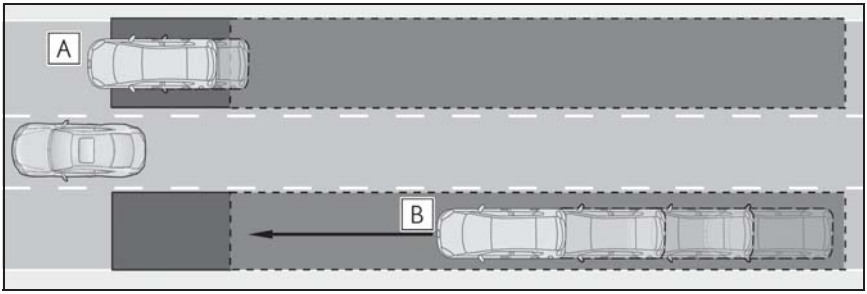
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

BSM 機能

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

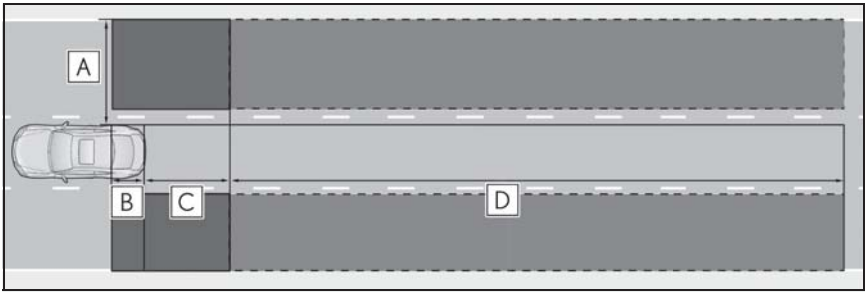


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM メインスイッチが ON のとき
- シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16 km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

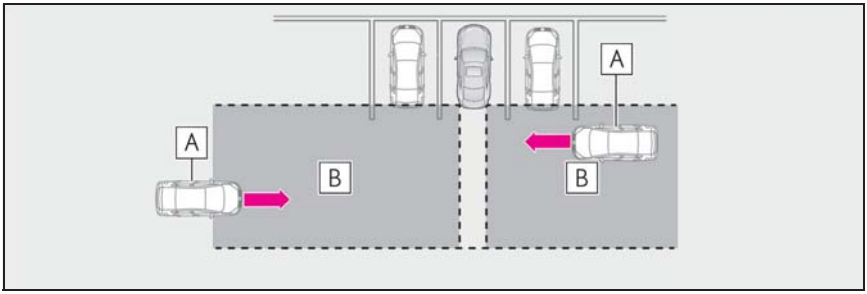
●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM メインスイッチを ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

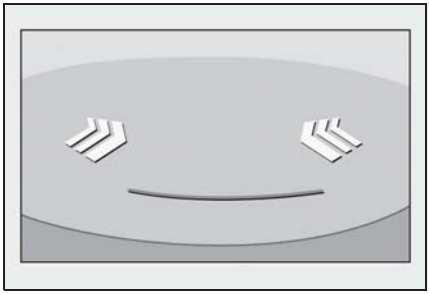


A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

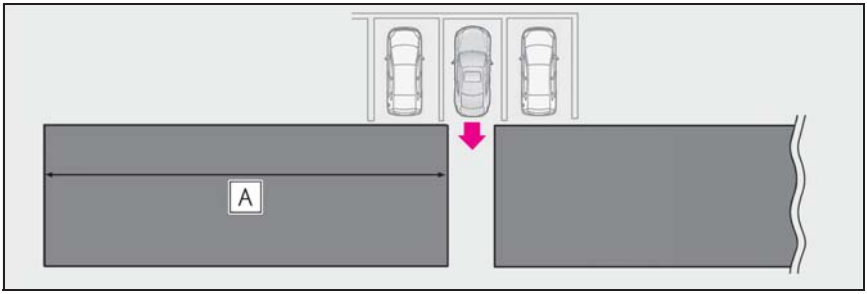
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、車両が接近している側のアイコンがセンターディスプレイ上に表示されます。
イラストは両方向から車両が接近している例です。



: RCTA 機能に異常があるとき (→P.186)

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM メインスイッチが ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28km/h の間のとき

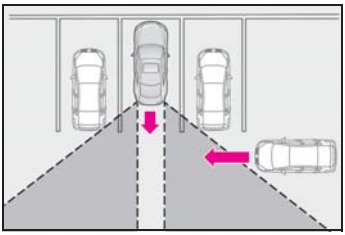
■RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■RCTA機能が有効に作動しないおそれがある状況

●RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

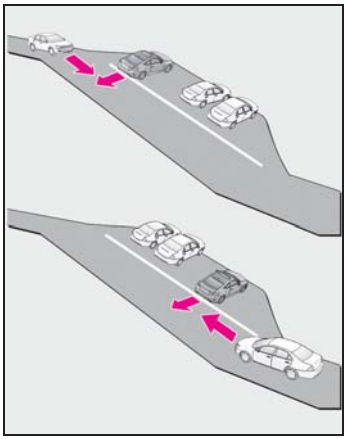
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき

・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

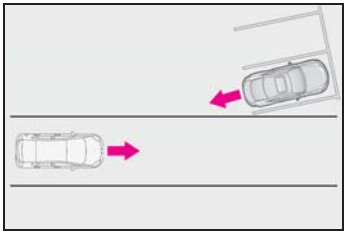
・高速で接近する車両

・勾配の変化が激しい坂で後退している

とき



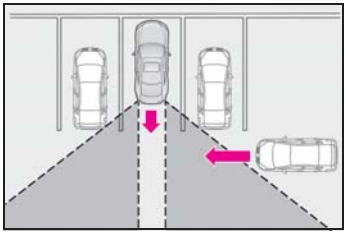
●浅い角度での駐車時



●BSM メインスイッチを ON にした直後

●BSM メインスイッチを ON にした状態で、エンジンを始動した直後

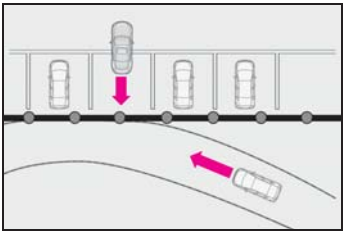
●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・ 自車の横を通過する車両

・ 駐車場に面した道を走行する車両

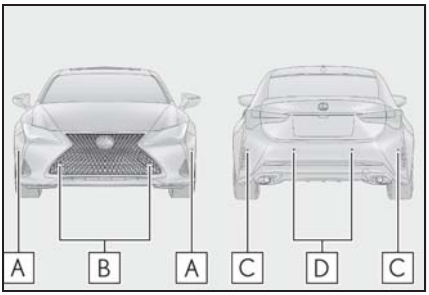


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、低速（約10km/h 以下）で運転しているときに、車両と静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類



A フロントコーナーセンサー

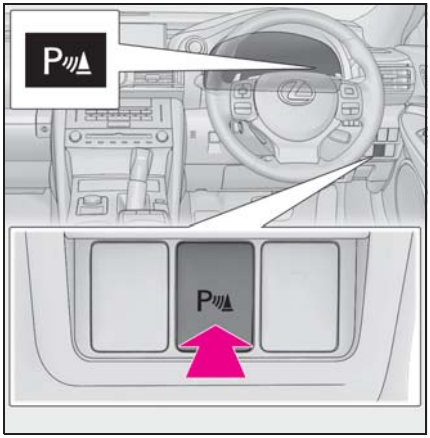
B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D バックセンサー

クリアランスソナーの切りかえ

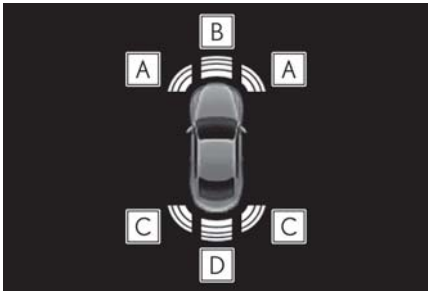
スイッチを押すとクリアランスソナーは ＯＮ になり、表示灯が点灯します。



クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイに表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示



A フロントコーナーセンサー作動表示

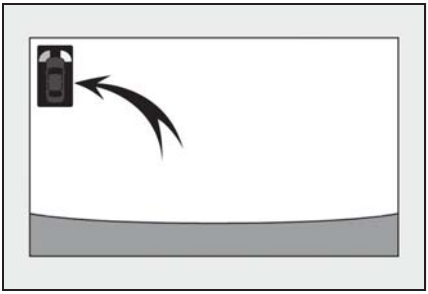
B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D バックセンサー作動表示

■ センターディスプレイの表示

バックガイドモニター使用時に表示されます。
静止物を感知すると自動的に表示されます。



警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーの検知範囲であるバンパー周辺にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。
- バンパー真下付近は検知しません。センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）
- 異常表示が出ている場合、まずセンサーの状態を確認してください。
  氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますのでレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■洗車時の注意

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■クリアランスソナーの作動条件

●フロントコーナーセンサー：
・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき

●フロントセンターセンサー：
・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P・R 以外にあるとき

●リヤコーナーセンサー：
・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

●バックセンサー：
・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■ブザー音のミュート（消音）について

●ミュート（消音）させるとき：
マルチインフォメーションディスプレイに感知した画面が表示されているときに、メーター操作スイッチの “OK” を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

●ミュート（消音）が解除されるとき：
次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。
・シフトポジションを切りかえたとき（D から N、および N から D への切りかえを除く）
・シフトポジションが D で、車速が約 10km/h 以上になったとき
・クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
・エンジンスイッチを OFF にし、再度イグニッション ON モードにしたとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近に存在するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

■正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→P.199, 321）

距離表示の見方

■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイの作動表示が点灯します。イラストは説明のための例であり、表示により異なります。

● 静止物までのおおよその距離：　約 100cm ～ 50cm（フロントセンターセンサー）、約 150cm ～ 60cm （バックセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
（点灯）	（点滅：遅い）

● 静止物までのおおよその距離： 約 50cm ～ 40cm （フロントコーナーセンサー、フロントセンターセンサー）、約 60cm ～ 45cm （リヤコーナーセンサー、バックセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
（点灯）	（点滅）

● 静止物までのおおよその距離： 約 40cm ～ 30cm （フロントコーナーセンサー、フロントセンターセンサー）、約 45cm ～ 30cm （リヤコーナーセンサー）、約 45cm ～ 35cm （バックセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
（点灯）	（点滅：速い）

● 静止物までのおおよその距離： 約 30cm 以下 （フロントコーナーセンサー、フロントセンターセンサー）、約 30cm 以下 （リヤコーナーセンサー）、約 35cm 以下 （バックセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
（点滅）	（点灯）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで静止物を検知しているとき

● 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。

・フロントセンターセンサーが感知した静止物との距離が約 30cm 以下

・コーナーセンサーが感知した静止物との距離が約 30cm 以下

・バックセンサーが感知した静止物との距離が約 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に静止物を

検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

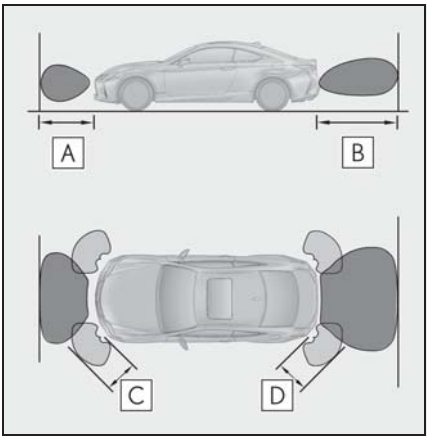
■ **静止物を車両の前後で同時に検知したとき**

● フロント側、またはリヤ側で静止物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに静止物を検知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。

● フロント側、またはリヤ側で静止物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に静止物を検知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→P.199）

静止物を検知できる範囲



A 約 100cm（約 1.0m）

B 約 150cm（約 1.5m）

C 約 50cm（約 0.5m）

D 約 60cm（約 0.6m）

● 検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

● 静止物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

静止物を検知できる範囲を変更することができます。（→P.199）

音声案内とブザーの設定

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 リモートタッチの“MENU”スイッチを押し、“設定・編集”を選択する

2 “車両”を選択する

3 “クリアランスソナー設定”を選択する

■ **ブザー音量設定**

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ **画面表示・ブザータイミング**

“切替え”を選択する

● フロントセンターセンサー：
選択するごとに、検知範囲が“遠”（緑色）と“近”（黄色）に切りかわります。

● バックセンサー：
選択するごとに、検知範囲が“遠”（緑色）と“近”（黄色）に切りかわります。

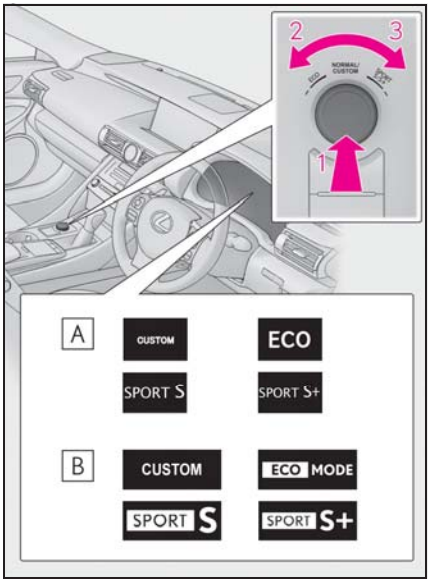
フロントセンターセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される検知範囲と、ブザーが出力される

検知範囲を調整することができます。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



A F SPORT 以外

B F SPORT

1 ノーマルモード／カスタムモード

ノーマルモード / カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマルモード / カスタムモードが切りかわります。
カスタムモードのとき、“CUSTOM”表示灯が点灯します。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。
・ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランス

が良く、市街地を走行する場合に適しています。
・ カスタムモード

以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、ナビゲーション画面で設定します。
（ドライブモード設定画面を表示させる：→P.214）

機能	設定
パワートレーン制御	Normal
	Power
	Eco
シャシー制御	Normal
	Sport
エアコン作動	Normal
	Eco

2 エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房 / 冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

・ スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、SPORT S 表示灯が点灯します。
・ スポーツ S ＋モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、SPORT S ＋表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■スポーツモード／カスタムモードの自動解除

スポーツモード／カスタムモードは、エンジンスイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

■サイド画面の割り込み表示

モードを切り替えるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★

車速やハンドル操作に応じて、前輪が切れる角度を制御することで、車両の操作性に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ DRS（ダイナミックリヤステアリング）★

ハンドル操作に応じて後輪を切ることにより、車両の旋回性や応答性に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を４輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。
また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツＳ＋モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。
(→P.200)

■ LDH（レクサスダイナミックハンドリングシステム）★

VGRS・DRS・EPS を総合的に制御します。ハンドル操作と車速に応じて、前輪・後輪の切れる角度を制御することで、低速では旋回性、中速では応答性、高速では安定性の向上に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS★・DRS★を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

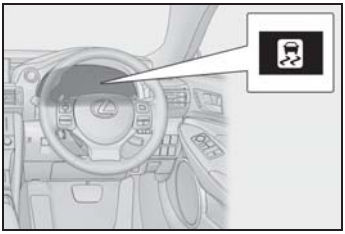
■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

知識

■TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



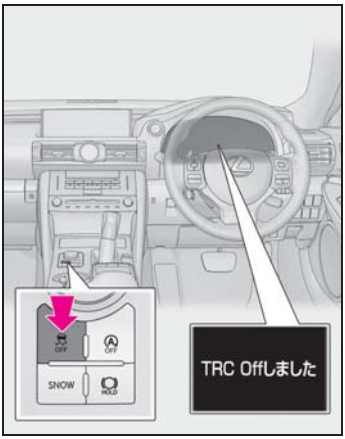
■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押すマルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

OFF スイッチを押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキ・ステアリングコントロール（PCS と LDH の協調制御）★も停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.164）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチがイグニッション ON モード

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーをPまたはNの位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した
- エンジンスイッチが OFF

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

- 停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
（LDH 装着車は、DRS も停止します）
- ハンドルをいっぱいに切った状態で、長く力をかけ続けたとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■バッテリー端子の脱着をしたとき（VGRS 装着車）

ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで自動的に修正されます。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く

・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS・VGRS・DRS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル

・ 冷却水

・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）※ を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.247）

※ 19 インチタイヤには、タイヤチェーンを装着できません。

知識

■タイヤチェーンについて

18 インチタイヤ装着車：

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

19 インチタイヤ装着車：

タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明はP.247を参照してください）

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとに

パーキングブレーキを解除してください。（→P.134）

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと[※2]を確認してください。

※1 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

室内装備・機能

5

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ..... 212

センターディスプレイ 214

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン..... 216

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 224

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 227

5-4. 収納装備

収納装備一覧 229

トランク内装備..... 231

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 233

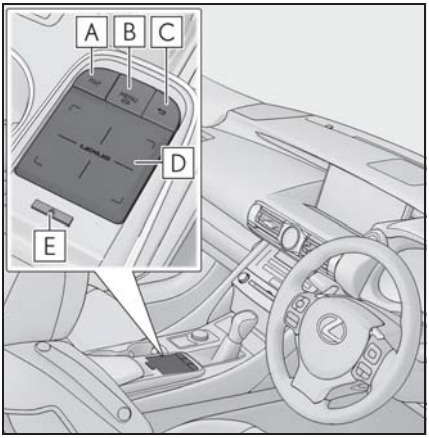
リモートタッチ

リモートタッチを使って、センターディスプレイの操作・設定ができます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リモートタッチの操作について

■ 操作スイッチ



A “MAP” ボタン

センターディスプレイで現在地を表示します。

B “MENU” ボタン

メニュー画面を表示します。

C 戻るボタン

1 つ前の画面に戻ります。

D タッチパッド

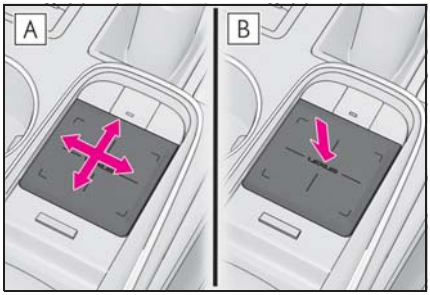
画面上のスイッチを選択または決定します。

また、リスト画面のスクロールや地図の拡大 / 縮尺などもできます。

E サブファンクションボタン

画面に が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。

■ タッチパッドの使い方



A 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ※をスイッチに合わせる

B 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

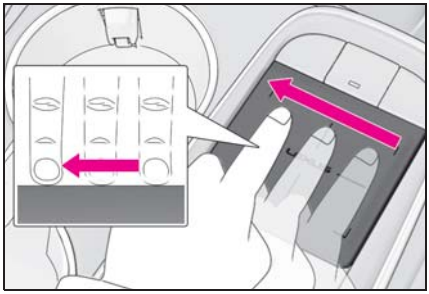
※ ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

● なぞり操作

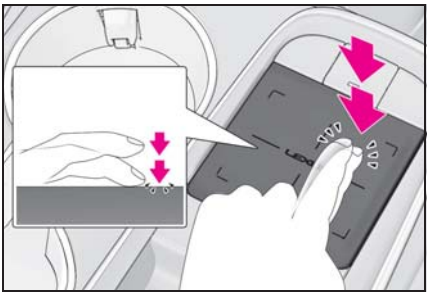
タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



● ダブルタップ

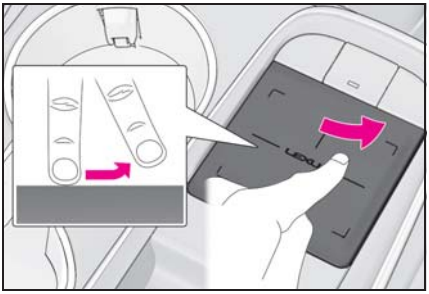
タッチパッドを指先で素早く軽く 2 回叩きます。タッチパッドを押したときと同

様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



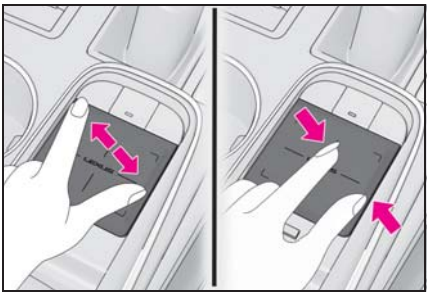
● フリック

タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面を動かすことができます。



● ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた 2 本の指を広げたり近付けたりします。地図の拡大や縮小を行うことができます。



⚠ 注意

■リモートタッチの故障を防ぐために

● リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。

● リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。

● タッチパッドを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

センターディスプレイ

ディスプレイの見方

■ メニュー画面

リモートタッチの “MENU” ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

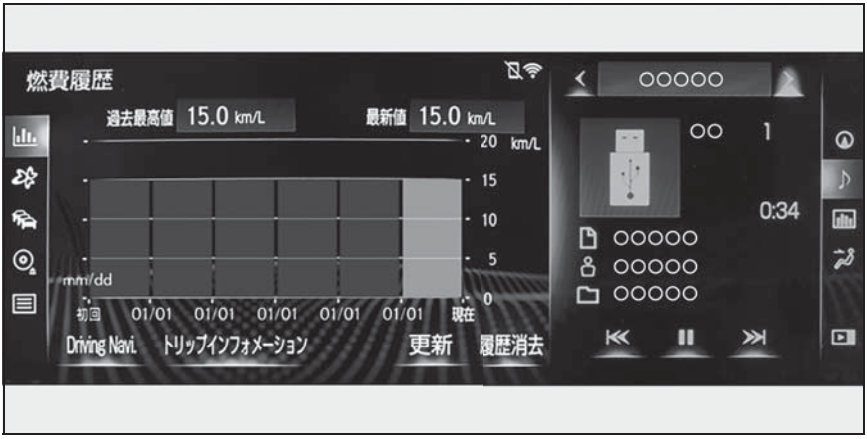
次の画面イラストは一例で、実際の画面とは異なります。

スイッチ	機能
	目的地を設定する ※
	オーディオ操作画面を表示する ※
／ ／	デジタルテレビ操作画面を表示する ※ Apple CarPlay/Android Auto を接続すると、TV の代わりに Apple CarPlay/Android Auto が表示されます。※
	ハンズフリー操作画面を表示する ※
	G-Link 画面を表示する ※ SmartDeviceLink™ Apps 画面を表示する。※
	情報画面を表示する（→P.73）
	設定・編集画面を表示する ※
	エアコン操作画面を表示する（→P.218）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えば燃費情報画面を表示したまま、エアコンやオーディオなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



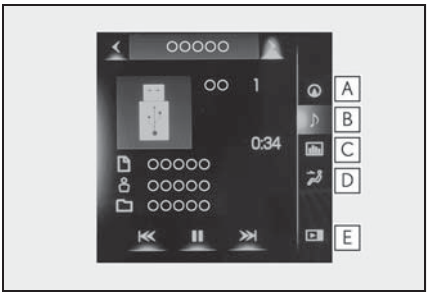
■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

< または > を選択してお好みの画面を表示する



A ナビゲーションシステム※

B オーディオ※

C 車両情報（→P.76）

D エアコン（→P.219）

E サイド画面の表示／非表示を切りかえる※

※別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

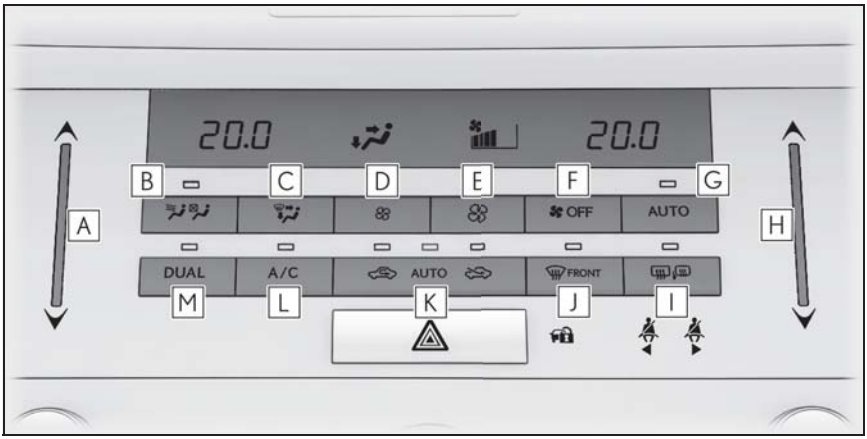
オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの “MENU” ボタンを押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

リモートタッチについては、P.212 を参照してください。

エアコン操作スイッチについて



A 助手席側温度調整スイッチ

B S-FLOW スイッチ

C 吹き出し口切りかえスイッチ

D 風量減スイッチ

E 風量増スイッチ

F OFF スイッチ

G AUTO スイッチ

H 運転席側温度調整スイッチ

I リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

J フロントデフロスタースイッチ

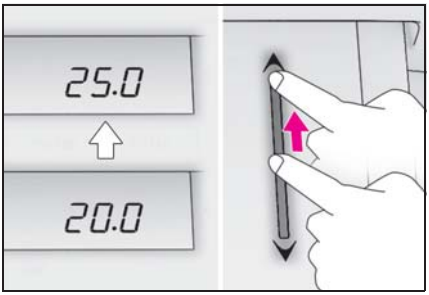
K 内外気切りかえスイッチ

L A/C スイッチ

M DUAL スイッチ

■ 温度を調整する

センサーにタッチしながら、指を上または下にスライドする



センサーにタッチしても温度を調整することができます。

設定温度が変わるとブザーが鳴ります。

A/C（“A/C”）が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

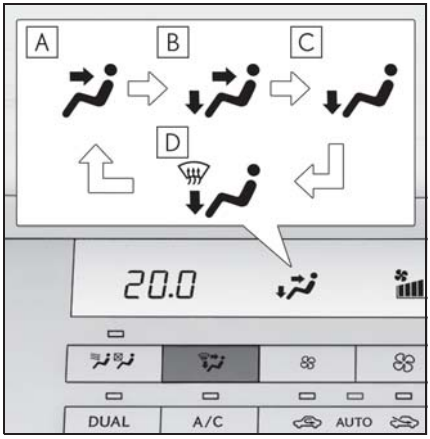
風量を増やすには：を押す

風量を減らすには：を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。



A 上半身に送風

B 上半身と足元に送風

C 足元に送風

D 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ S-FLOW モード

リヤ席に乗員がいないとき、フロント席のみの送風に切りかえて、リヤ席の空調の効きを抑えます。

室温や外気温などの条件により、室内の快適性を保つため、リヤ席に送風されることがあります。

を押す、またはオプション操作画面で を選択する

S-FLOW モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度 を押す、または を選択すると、リヤ席へ送風を再開します。

■ その他の機能

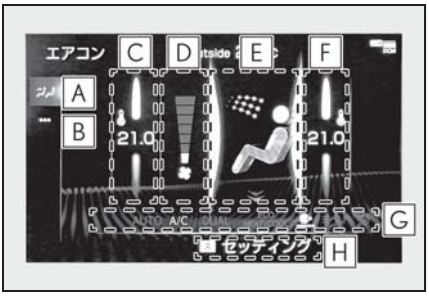
● 内気循環／外気導入を切りかえる（→P.219）

● フロントウインドウガラスの曇り

を取る（→P.220）

● リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜をとる（→P.220）

エアコン操作画面について



A エアコン操作画面を表示する

B オプション操作画面を表示する（→P.218）

C 助手席側の温度を調整する

D 風量を切りかえる

E 吹き出し口を切りかえる

F 運転席側の温度を調整する

G 各機能 ON/OFF 表示灯

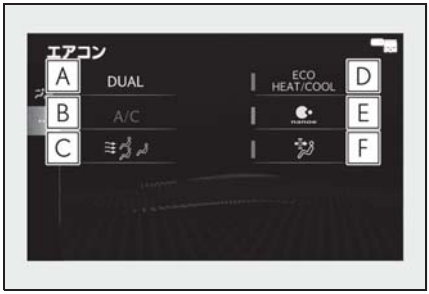
機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

H サブファンクションメニューを表示する（→P.218）

リモートタッチを操作して画面上のスイッチを選択し、タッチパッドを押すまたは、ダブルタップ（軽く２回たたく）で決定します。

■ オプション操作画面

各機能の ON/OFF を切りかえることができます。



A 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（→P.219）

B 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

C S-FLOW モードを設定する（→P.217）

D エコモードに設定する（→P.221）

E「ナノイー X」を作動する

F 花粉を除去する（→P.220）

■ サブファンクションメニュー

リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、各機能の ON/OFF を切りかえることができます。

A 吹き出し口と風量が自動的に調整される

B ファンを停止する

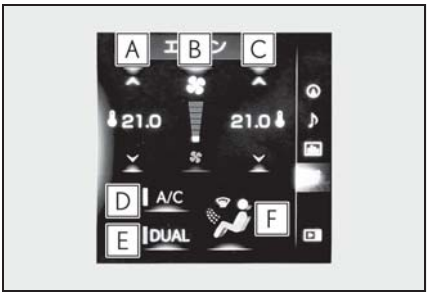
C 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

D 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（→P.219）

E エコモードに設定する（→P.221）

■ サイド画面



A 助手席側の温度を調整する

B 風量を切りかえる

C 運転席側の温度を調整する

D 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

E 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（→P.219）

F 吹き出し口を切りかえる

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO を押す、またはエアコン操作画面で “AUTO” を選択する

2 AUTO モードになるまでエアコン操作スイッチの AUTO を繰り返し押す。

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 ファンをとめたいときは、OFF スイッチを押す、またはサブファンクションメニューで “Off” を選択する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

● エアコン操作スイッチの DUAL を押す

● オプション操作画面で “DUAL” を選択する

● 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

AUTO を押す。

押すごとに内気循環→ AUTO →外気導入に切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

AUTO を選択すると、A/C スイッチ（“A/C”）が自動で ON になります。

■ 花粉除去機能を使用するには

オプション操作画面で、を選択する。

花粉除去モードが ON のとき、エアコン操作画面のが点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

FRONT を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

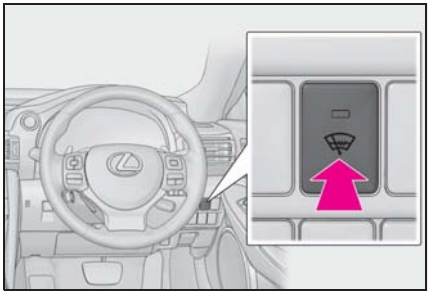
を押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。



ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

知識

■電子キーによるエアコン設定の記憶について

- 電子キーでドアを解錠してエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると、その電子キーに対応して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- エンジンスイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、

解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※運転席ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチ（“A/C”）を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●A/C スイッチ（“A/C”）を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→P.223）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■内外気切りかえの AUTO モードについて

AUTO モードでは排出ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。

A/C スイッチ（“A/C”）が OFF で送風が作動中に AUTO モードにすると、A/C スイッチ（“A/C”）が ON になります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。
・風量を調整する。
・エコドライブモードを解除する。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C スイッチを押す、または “A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー X」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します※3。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※3「ナノイー X」が ON のとき
(→P.218)

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P.256

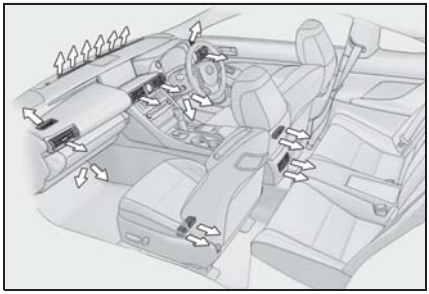
■設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。
(カスタマイズ一覧 →P.328)

吹き出し口について

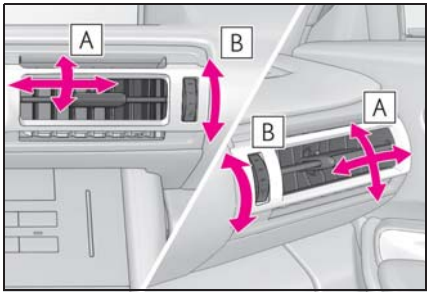
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

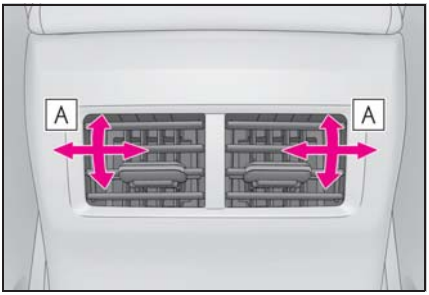
▶ フロント



A 風向きの調整

B 吹き出し口の開閉

▶ リヤ



A 風向きの調整

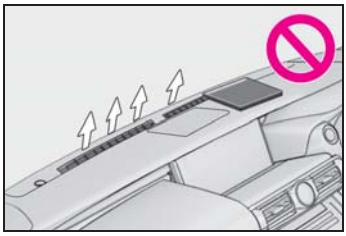
風向きを外側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONTを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー X」について

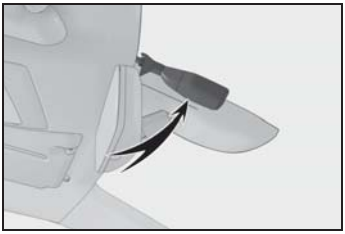
このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知（→P.221）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。



●湿度センサーを分解しない

●ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない

●湿度センサーにシールなどを貼らない

注意

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シート内部に装備されたファンで送風することにより、シート表面の通気をよくします。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

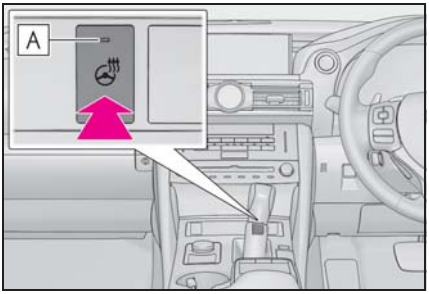
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーター A が点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■タイマー制御について

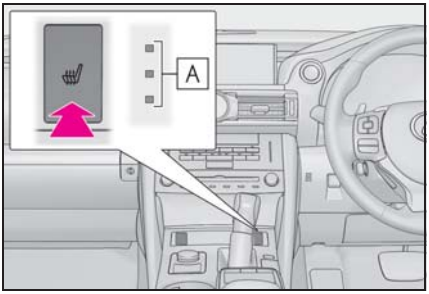
約 30 分後に自動で OFF になります。

シートヒーター

▶ シートベンチレーター非装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（橙）A が点灯します。

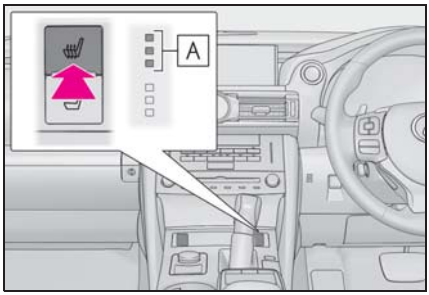
強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF



▶ シートベンチレーター装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（橙）A が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■タイマー制御について

停車中に運転席と助手席のシートヒータースイッチを同時に押し続けると、ブザーが “ ピッ ” と鳴りタイマー制御が ON になります。

タイマー制御が ON になると、シートヒーターの作動状態が自動で次のように切りかわります。

選択した作動状態	作動状態の切りかわり
強	強 → 中 → 弱
中	中 → 弱
弱	弱

切りかわるまでの時間は、シートヒーターを作動させたときの室内温度などにより異なります。

もう一度上記の操作を行うと、ブザーが “ ピッピッ ” と鳴りタイマー制御が OFF になります。

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

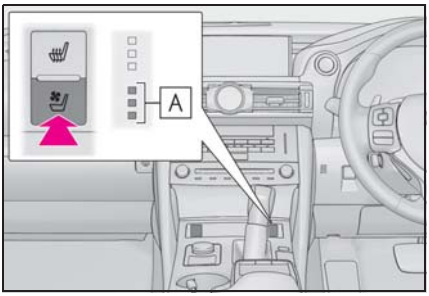
●長時間連続使用しないでください。

●毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートベンチレーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（緑）A が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF



知識

■作動条件

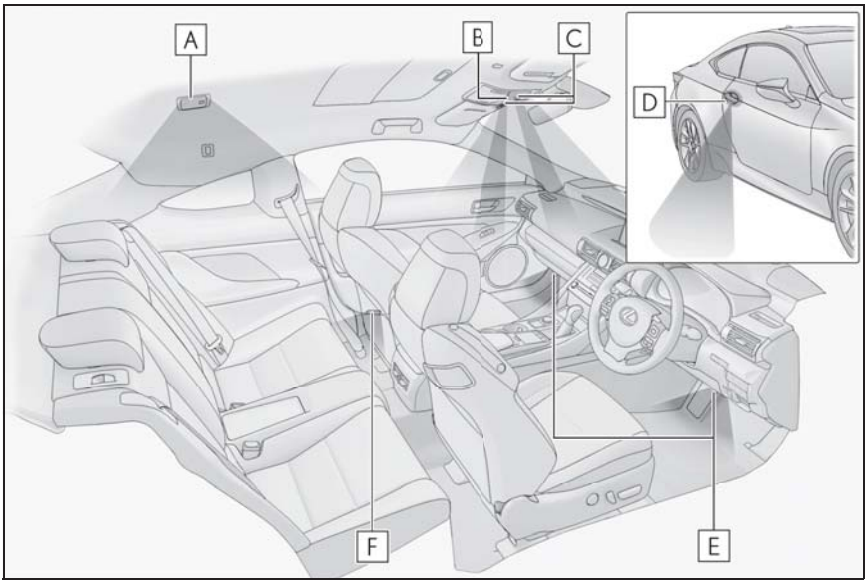
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

室内灯一覧

室内灯の位置



A リヤインテリアランプ （→P.227）

B フロントインテリアランプ（→P.227）

C パーソナルランプ （→P.228）

D 室外足元照明

E 室内足元照明

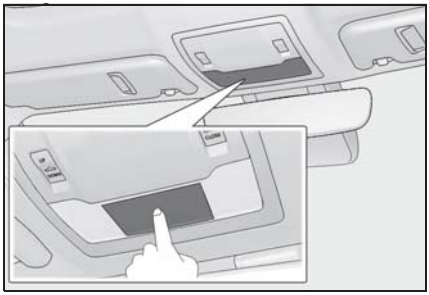
F ドアカーテシランプ

インテリアランプを操作するには

■ フロント

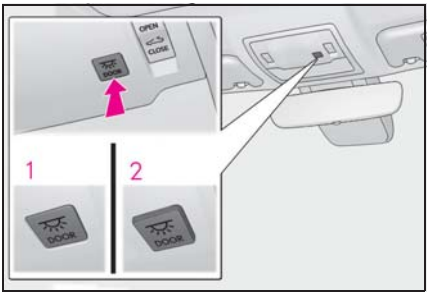
ランプを点灯・消灯する (ランプにタッチする)

リヤインテリアランプはフロントインテリアランプに連動して点灯・消灯します。



ドアの開閉に連動してランプの点

灯・消灯を切りかえる



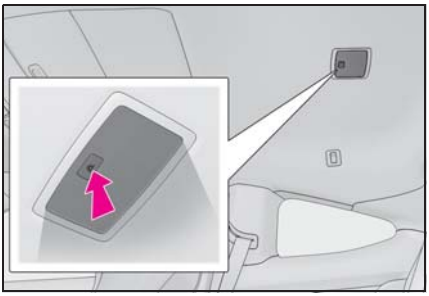
1 ドア連動 ON

2 ドア連動 OFF

■ リヤ

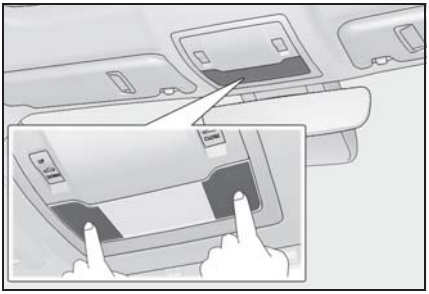
ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプが消灯している場合に点灯・消灯ができます。



パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.321）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

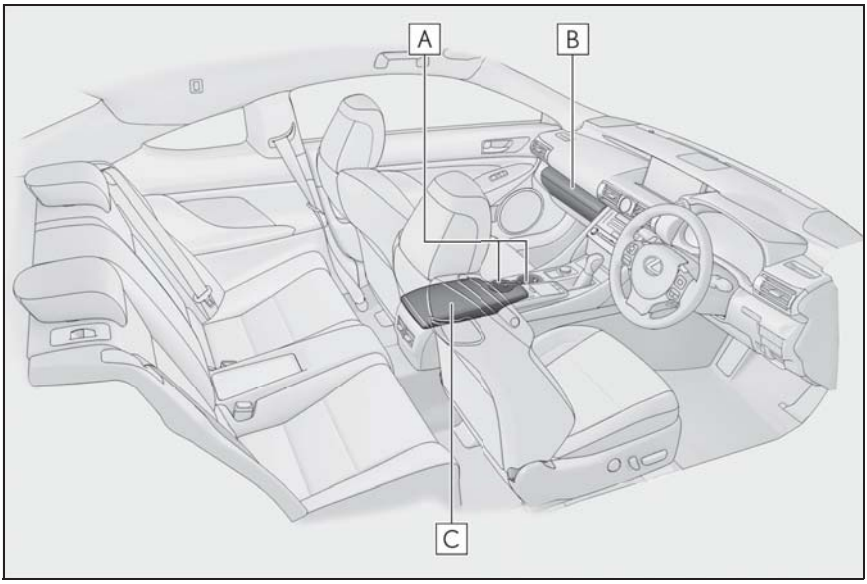
エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ランプのレンズの取りはずしについて

フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A カップホルダー（→P.230）

B グローブボックス（→P.230）

C コンソールボックス（→P.230）

警告

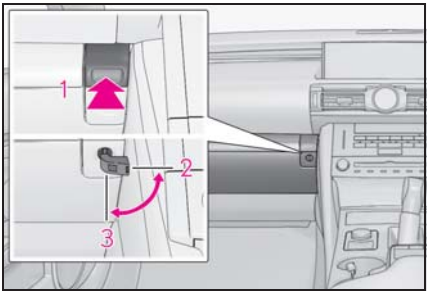
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



1 開ける（ボタンを押す）
2 メカニカルキーで解錠
3 メカニカルキーで施錠

知識

■グローブボックスランプ

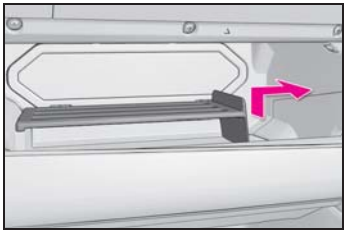
エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき、グローブボックス内のランプが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P.90）

■仕切り板の取りはずし

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。



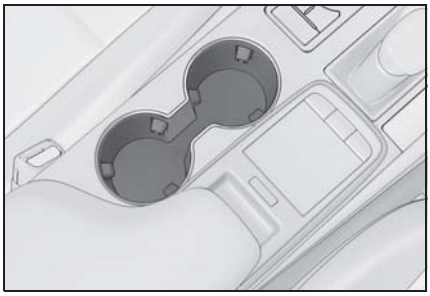
警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー



警告

■収納してはいけないもの

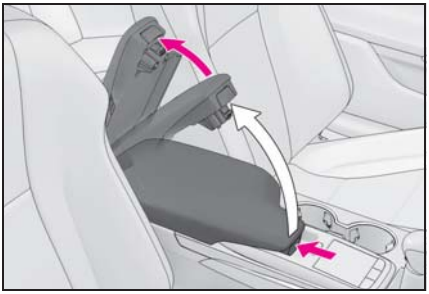
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

コンソールボックス

ノブを押す

手動でさらに開くと、全開にすることができます。



警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

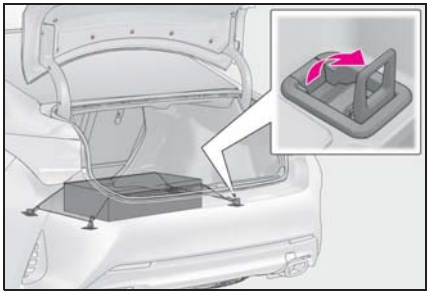
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トランク内装備

荷物固定用フックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。

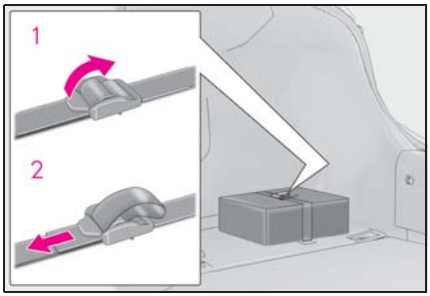


警告

■荷物固定用フックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

救急箱等固定用バンドを使うには

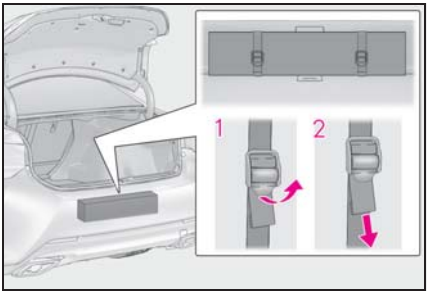


1 ベルトをゆるめる

2 ベルトを締める

三角表示板等固定用バンドを使うには

■ ベルトを使用する

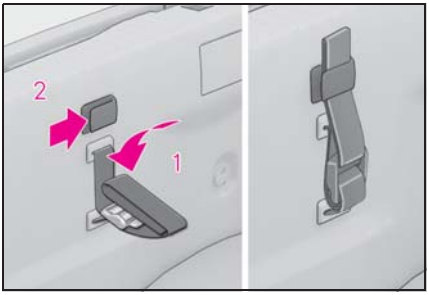


1 ベルトをゆるめる

2 ベルトを締める

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■ ベルトを収納する



1 折りたたむ

2 ツメにはさむ

三角表示板等固定用バンドの損傷を防ぐため、使用しないときは収納してください。

警告

■三角表示板を収納するときは

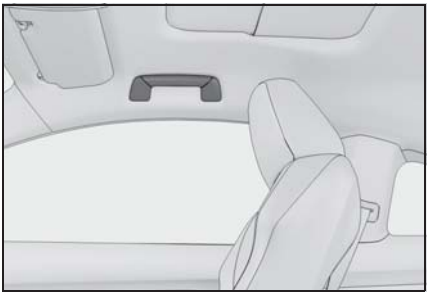
確実に固定されていることを確認してください。

確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

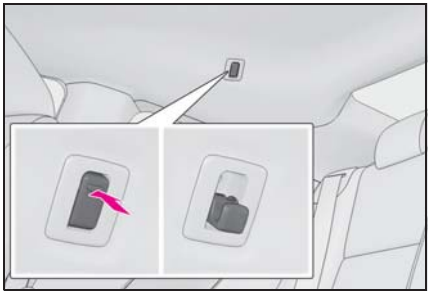
注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

使用するときは、コートフックを押します。



警告

■コートフックへかけてはいけないもの

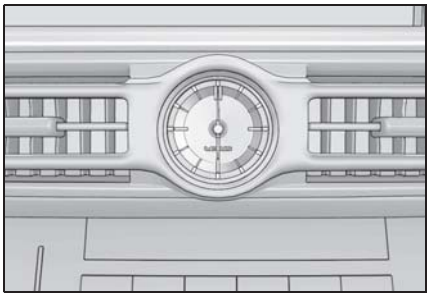
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

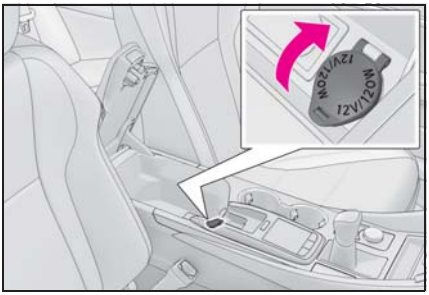
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

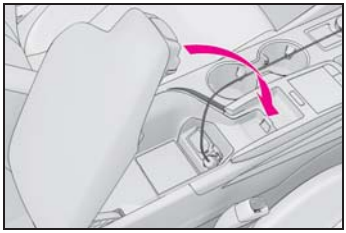
■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード

■アクセサリーソケットを使用するときは

●Stop & Start システム装着車：Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットが使用できないことがありますが、異常ではありません。

●コンソールボックスの縁に配線を通すことで、コンソールボックスを閉じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。



■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

注意

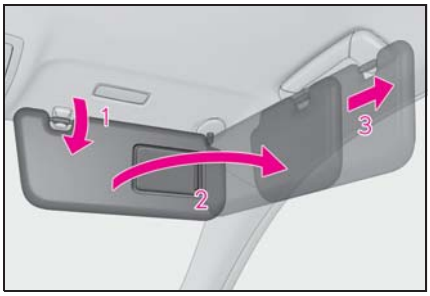
■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

サンバイザーを使うには



1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

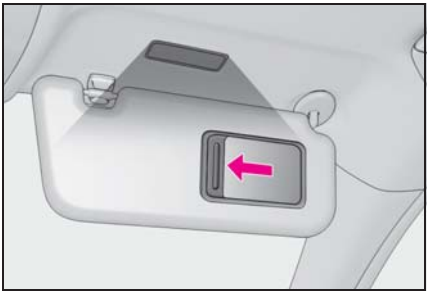
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 238

内装の手入れ 242

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 244

ガレージジャッキ..... 245

ウォッシャー液の補充..... 246

タイヤについて..... 247

タイヤ空気圧について 255

エアコンフィルターの交換 256

電子キーの電池交換..... 257

ヒューズの点検・交換..... 259

電球（バルブ）の交換..... 260

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

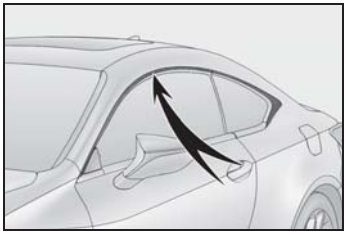
- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■黒色ステンレスモールについて（F SPORT）



図で示す部品には、黒色ステンレスの表面処理を施しています。

塗装の損傷を防ぐため、研磨剤などで表面を強くこすらないでください。塗装がムラになることがあります。

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。

なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.91）

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について（F SPORT）

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・ドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。

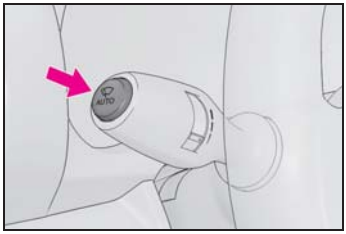
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。(→P.145)

ワイパーが AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジンがかかっているときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

注意

●ランプにワックスがけを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。(→P.145)

ワイパーが AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・サスペンション部品

・ステアリング部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→P.26）電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ナビゲーション画面：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤やアルカリ性の溶剤・アルコール

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・その他の部品：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

注意

● 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。(→P.153)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

● 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

● 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

● 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

● 直射日光に長時間さらさないようにする

特に夏場は日陰で車を保管する

● ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

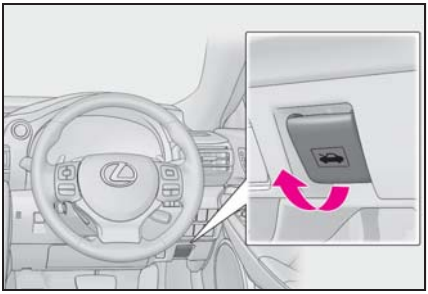
● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

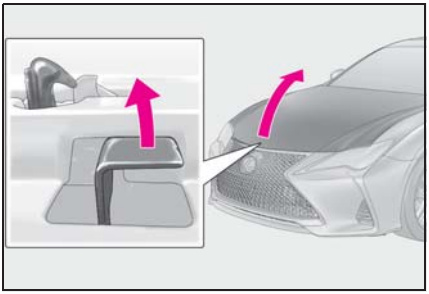
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



知識

■マルチインフォメーションディスプレイにボンネットが開いているメッセージが表示されたときは

→P.87

警告

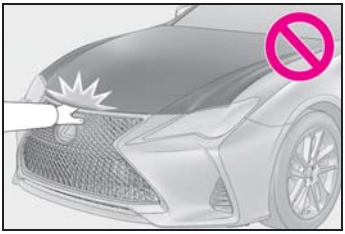
■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットがへこむおそれがあります。

⚠ 注意

● ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

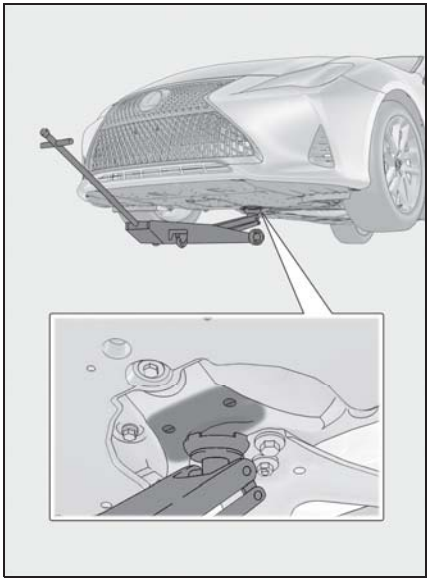
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

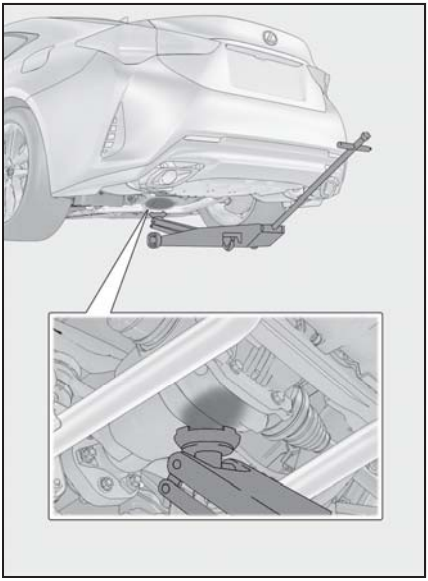
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



■ リヤ側

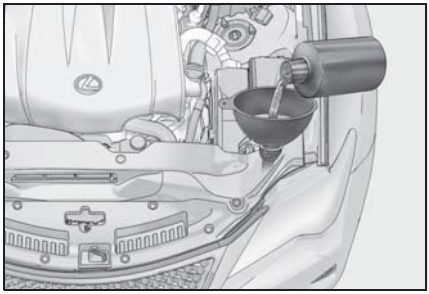


ウォッシャー液の補充

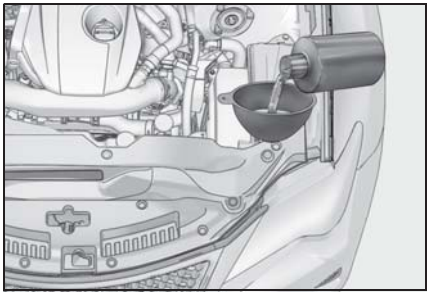
補充をするには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する

▶ RC350



▶ RC300



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 18 インチ

前輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

後輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

▶ 19 インチ

前輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

後輪：250kPa（2.5kg/cm^2）※

▶応急用タイヤ★

420kPa（4.2kg/cm^2）※

※タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

注意

■低偏平タイヤについて

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

注意

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

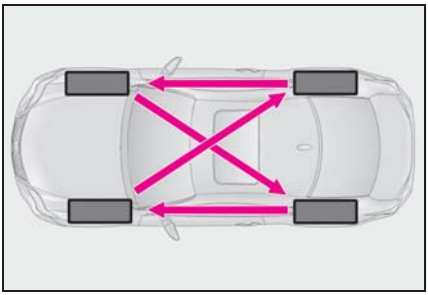
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

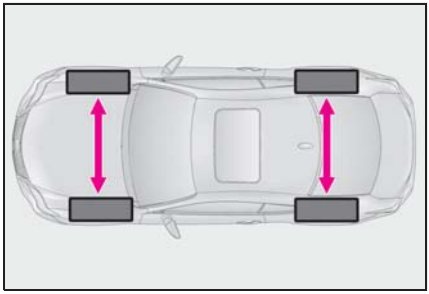
タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

▶ 前後のタイヤサイズが同じ車両



▶ 前後のタイヤサイズが異なる車両



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識

■タイヤローテーションを行うとき

必ずエンジンスイッチが OFF の状態で行ってください。イグニッション ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度イグニッション ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● タイヤ空気圧警報システムが検知

した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P.66）

上図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→P.277）

知識

■ **タイヤ空気圧警報システムについて**

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ **タイヤ空気圧表示について**

●エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで約３分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約３分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ **タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況**

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状

況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できません。

■**タイヤ空気圧警報システムの警報精度について**

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.253）

知識

■**ホイールごとタイヤを交換するとき**

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■**タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し固着やエア漏れする恐れがあります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■**パンク補修液を使用したとき**

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ **初期化が必要なとき**

● タイヤローテーションを実施したとき

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● ID コードの登録を実施したとき

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

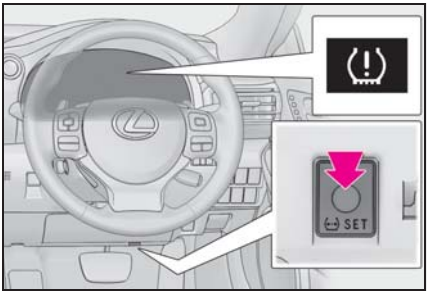
2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンを始動する（→P.124）

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

タイヤ空気圧警報システム設定中のメッセージが表示され、初期化を開始します。



5 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

知識

■ 初期化するときは

●通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。

●車速が約40km/h以上のときに行われます。

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ 初期化操作について

●初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回イグニッション ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

●次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても初期化できない場

合は、エンジンをかけたまま安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

- 新しいバルブ／送信機を装着したとき
- すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

2 エンジンを始動する （→P.124）

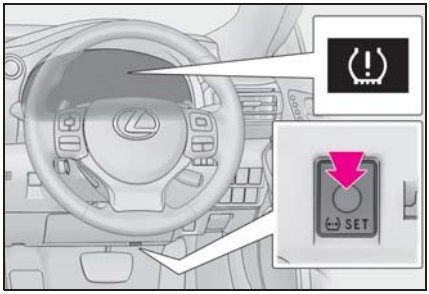
3 リセットスイッチを素早く 3 回連続で押す

タイヤ空気圧警告灯が 3 回ゆっくり点滅します。

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧が “--” になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。



4 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

5 タイヤ空気圧警報システムを初期化する （→P.251）

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

5 約 40km/h 以上でタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する （→P.251）

知識

■ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了

します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。

●ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

●ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。

●ID コードの登録が完了したあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。

●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・走行前に約 15 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご依頼ください。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤがパンクした状態になるおそれがあります。

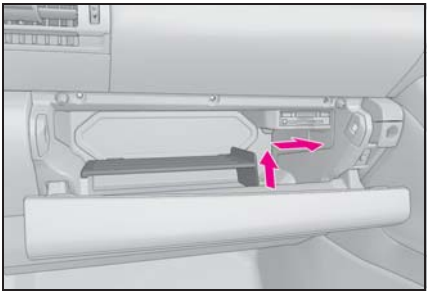
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

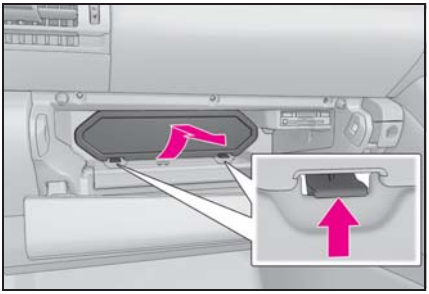
交換するには

1 エンジンスイッチを OFF にする

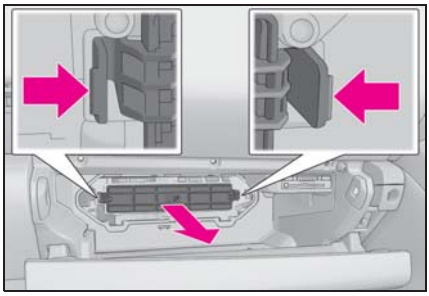
2 グローブボックスを開き、仕切り板をはずす



3 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターカバーを取りはずす

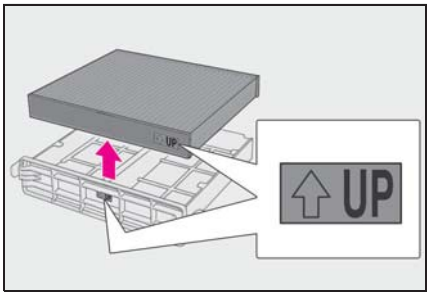


4 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす



5 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

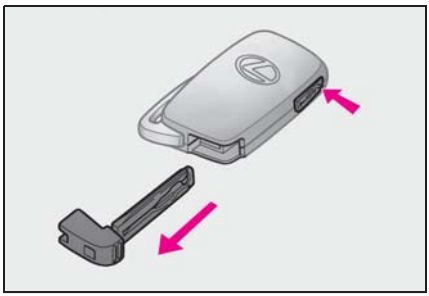
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

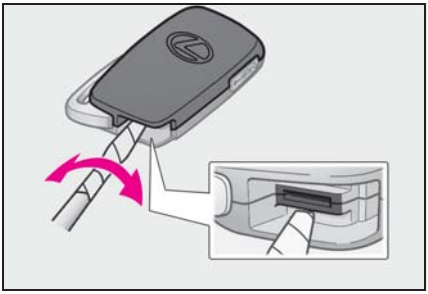
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



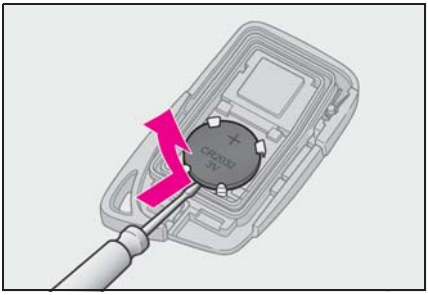
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない

錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

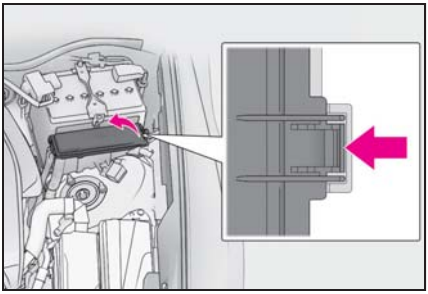
ヒューズの点検・交換をするには

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

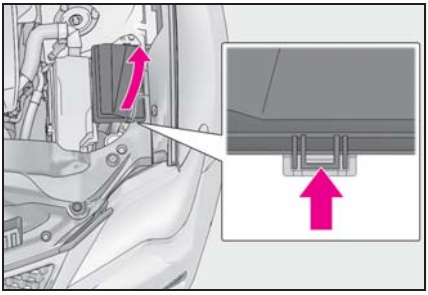
▶ エンジンルーム（1）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



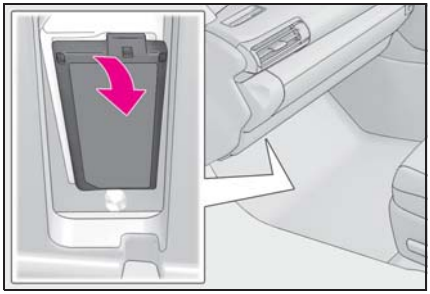
▶ エンジンルーム（2）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



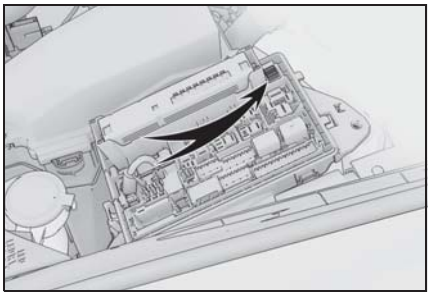
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす

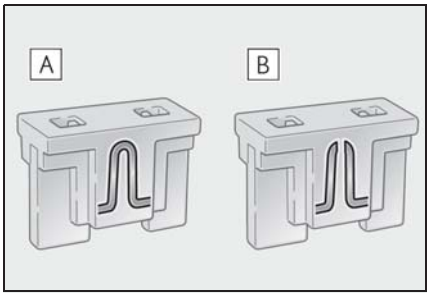


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P.260）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

知識

■LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは..... 262
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 263
発炎筒 263
車両を緊急停止するには..... 264
水没・冠水したときは..... 265

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 267
フューエルポンプシャットオフシステム 271
警告灯がついたときは..... 272
警告メッセージが表示されたときは..... 279
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 282
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 293
エンジンがかからないときは .. 301
キーをなくしたときは..... 302
給油扉が開かないときは..... 303
電子キーが正常に働かないときは..... 303
バッテリーがあがったときは .. 306
オーバーヒートしたときは..... 309
スタックしたときは..... 312

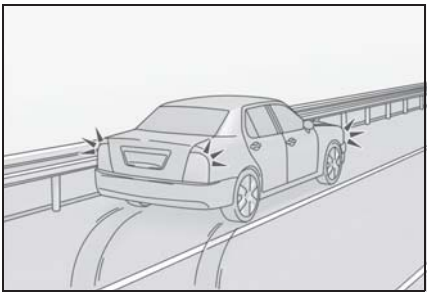
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.263）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

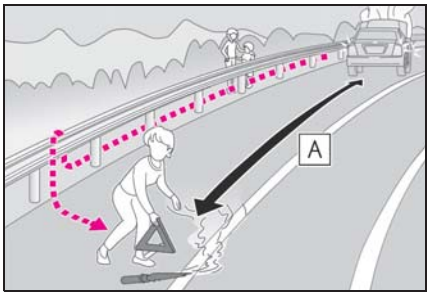
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.263）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

3 その後、ガードレールの外側などに避難する

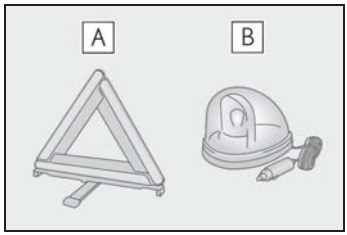


知識

■**停止表示板・停止表示灯について**

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

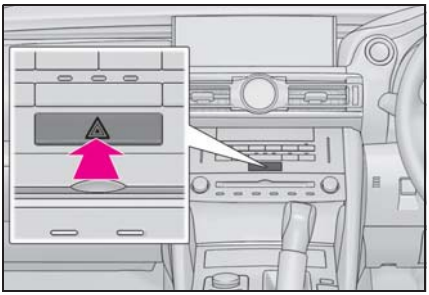
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

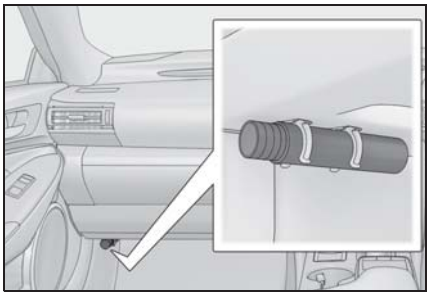
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

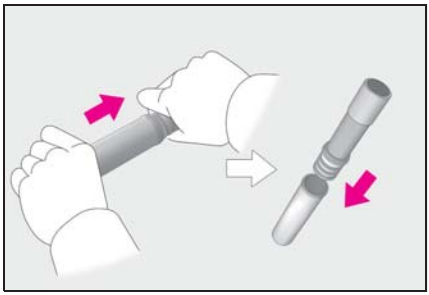
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



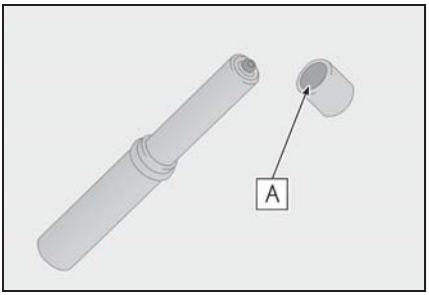
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

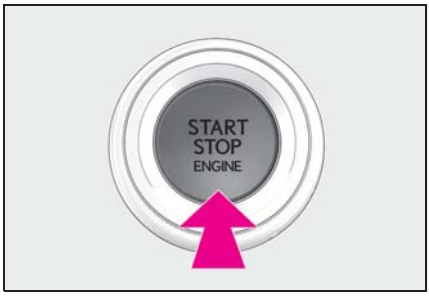
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで

割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

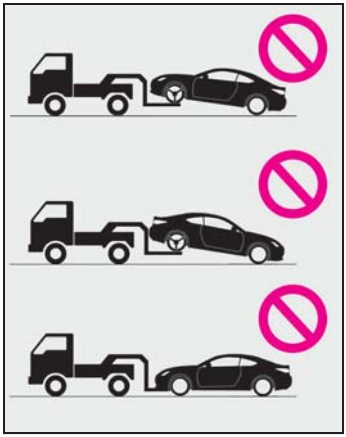
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

■Stop & Start システム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチを ON にしてください。

注意

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
  - ・ワイヤーロープは使用しない
  - ・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
  - ・前進方向でけん引する
  - ・サスペンション部などにロープをかけない

注意

● この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ **長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ **輸送用フックについて**

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

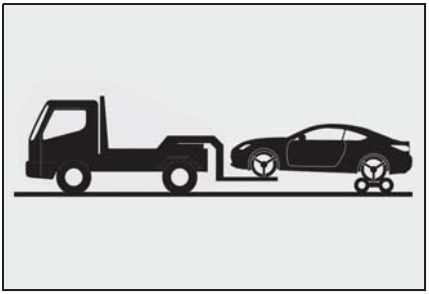
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

● エンジンはかかるが車が動かない

● 異常な音がする

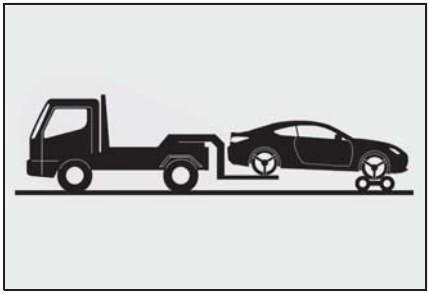
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

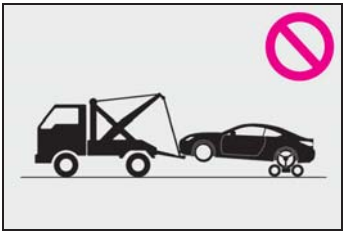


台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

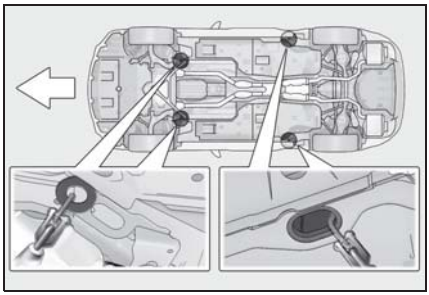
■ **レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



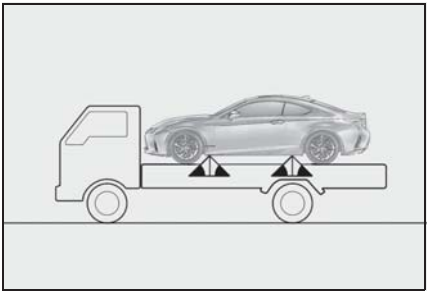
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が

45° になるように固縛する



注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

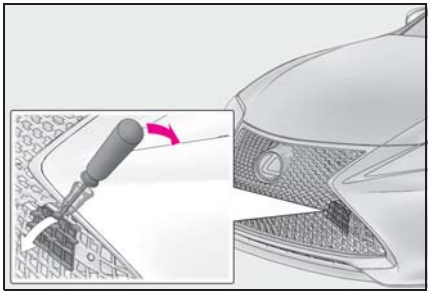
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す（→P.294, 283）

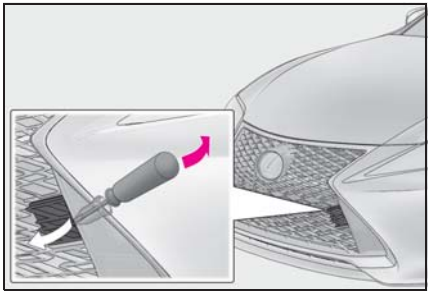
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

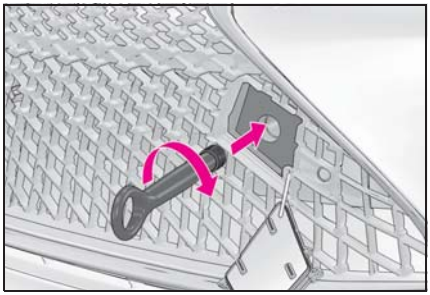
● F SPORT 以外



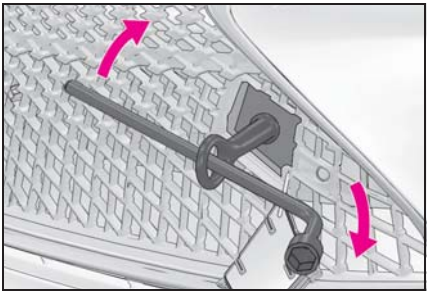
● F SPORT



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

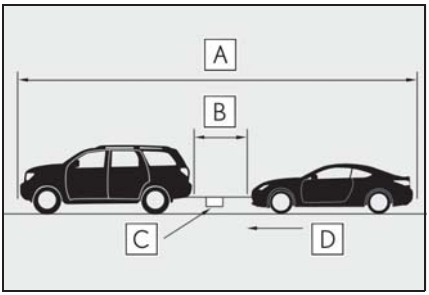


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください（→P.134）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→P.129

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

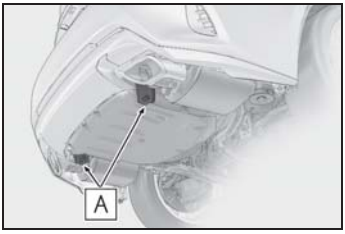
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランクに搭載されています。（→P.294, 283）

■輸送用フックについて

このフック A は船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



A 輸送用フック

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	パーキングブレーキシステムの異常 → **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.309）に従ってください。**

※マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※F SPORT 以外：マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
F SPORT: メーターに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジンの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 ●ドライブスタートコントロールの異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	警告灯が点灯した場合： LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。****（→P.170）** 警告灯が点滅した場合： LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）による車線逸脱警報 **→ 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどしてください。**

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
OFF （点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.156，281）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.164**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC/TRC システム作動時は点滅します。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ Stop & Start キャンセル表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
OFF （点滅）	Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。→P.180） **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 半ドア警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない **→ 両ドアおよびトランクを閉める**

※ 半ドア走行時警告ブザー：→P.87

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1（警告ブザー ※2）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※1センターパネルに表示されます。

※2リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ マスターウォーニング（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P.279

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因（→P.278） ●タイヤのパンク（→P.282, 293） **→ 指定された空気圧に調整してください。調整して数分後に警告灯が消灯します。数分経過しても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。（→P.251）** **初期化を行っても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから次の操作を行ってください。

●空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

●数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。

タイヤが十分に冷えていない状態で上記の操作を行うと、警告灯が再度点灯する場合があります。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■応急用タイヤ★に交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.250

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

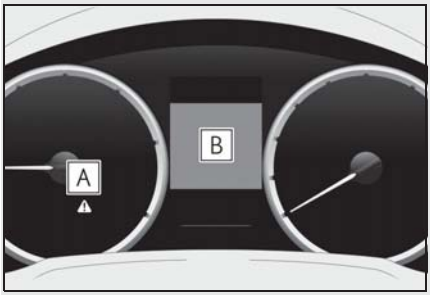
●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用した場合、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→P.251）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

▶ F SPORT 以外



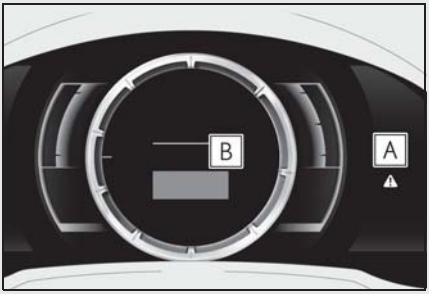
A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

▶ F SPORT（メーターリング中央時）



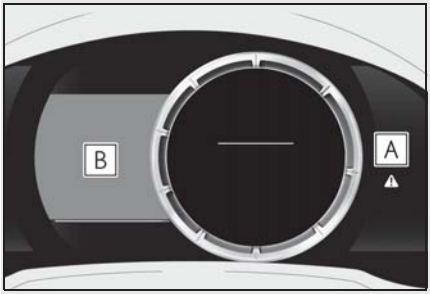
A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

▶ F SPORT（メーターリング移動時）



A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	警告ブザー ※	警告内容
点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点滅	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

- 上記の点灯・点滅状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。
- メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.272）に従ってください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（→P.156,275）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）
- オートマチックハイビーム
- レーダークルーズコントロール（全車

速追従機能付き）

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。P.156P.272

●PCS(プリクラッシュセーフティ)

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “ 取扱書を確認 ” の警告メッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
・ “ エンジン冷却水高温 ” （→P.309）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
・ “ 故障のためブレーキ力が低下 ”
・ “ スマートエントリー＆スタートシステム故障 ”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・ “ エンジン油圧不足 ”
・ “ 充電システム故障 ”

注意

■ “ 電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中 ” がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

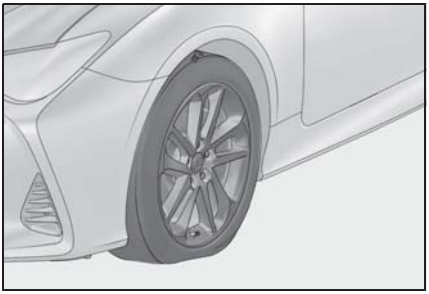
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

● 地面が固く平らで安全な場所に移動する
● パーキングブレーキをかける
● シフトレバーを P にする
● エンジンを停止する
● 非常点滅灯を点滅させる（→P.263）
● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



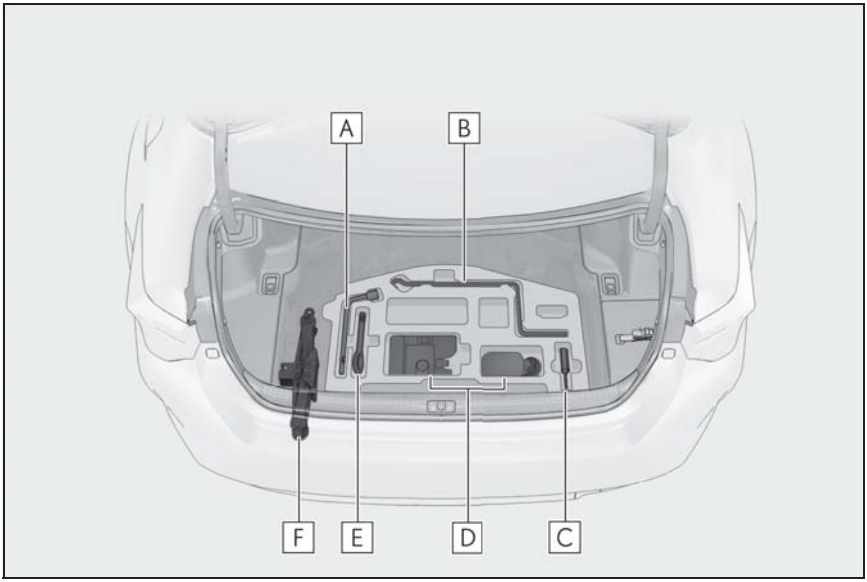
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



A ホイールナットレンチ

B ジャッキハンドル

C ドライバー

D タイヤパンク応急修理キット

E けん引フック

F ジャッキ ※

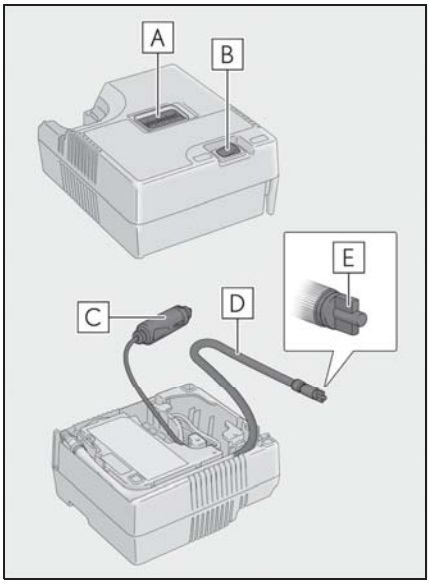
※ ジャッキの使い方（→P.297）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル

A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われないおそれがあります。

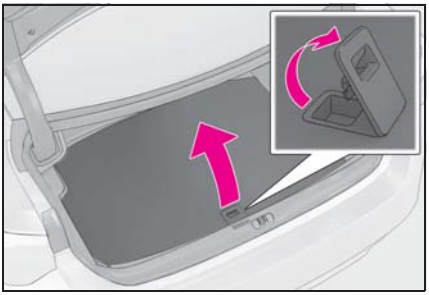
■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

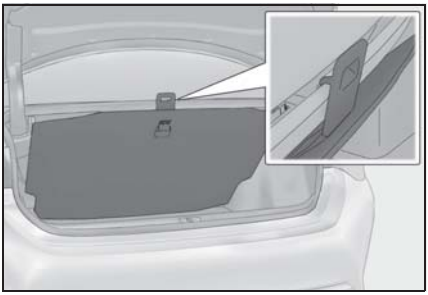
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

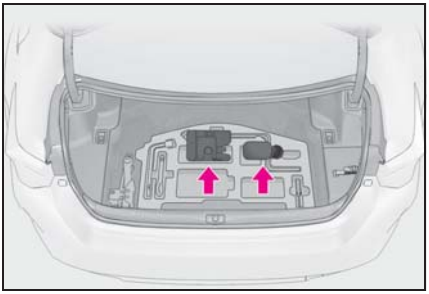
1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



2 フックを使ってラゲージマットを固定する



3 応急修理キットを取り出す



注意

■ラゲージマットの損傷を防ぐために

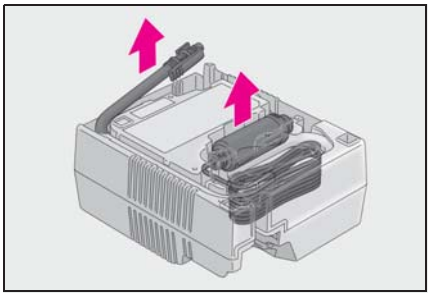
トランクを閉めるとき、ラゲージマットのフックをトランクの端にかけたままにしないでください。

応急修理をするには

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

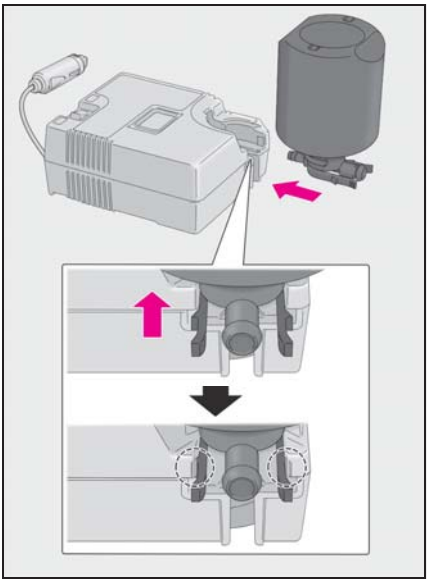
2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



3 ボトルをコンプレッサーに接続する

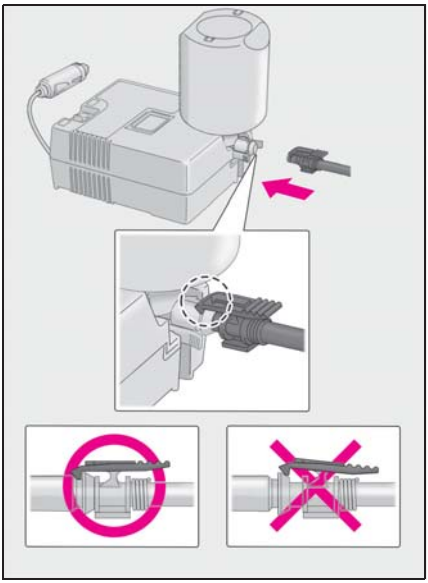
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してくださ

い。

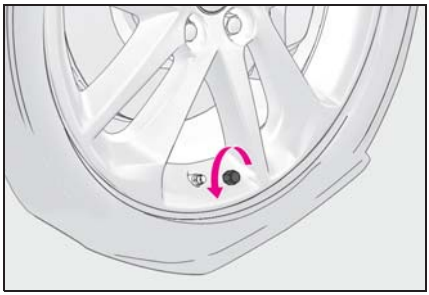


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

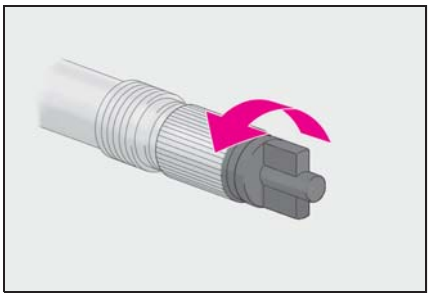


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



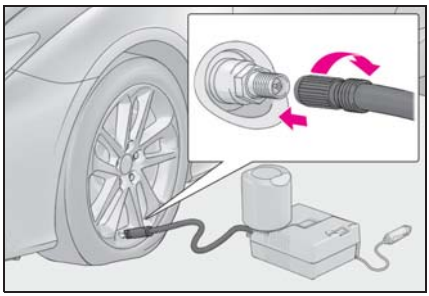
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

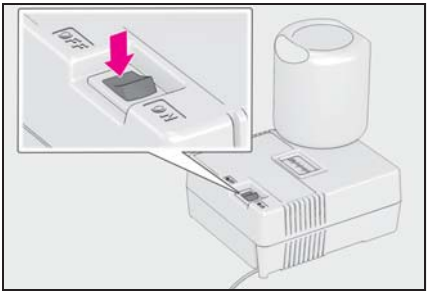


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

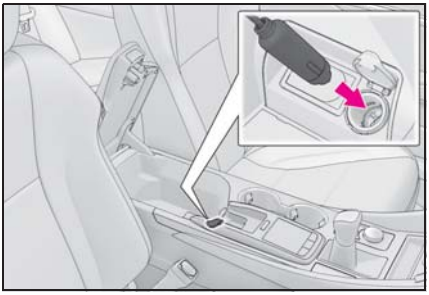
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



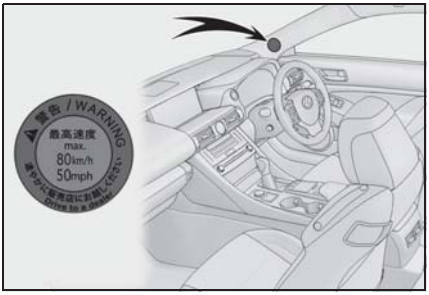
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.233）

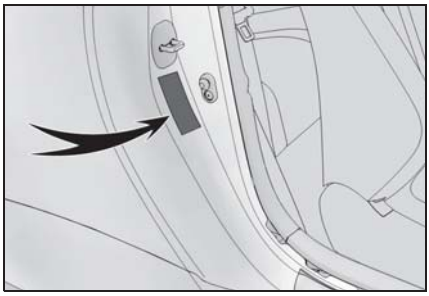


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



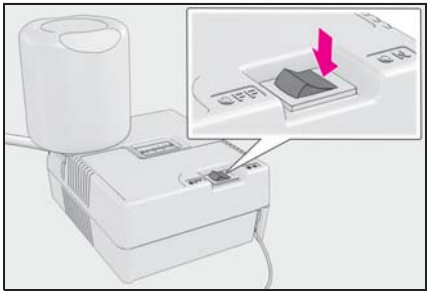
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.247）

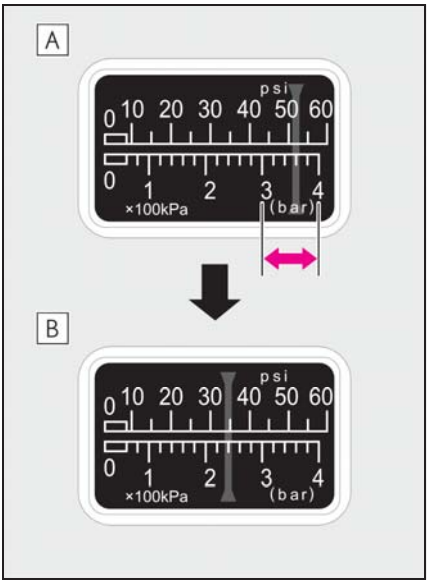


12 エンジンを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.290, 319）

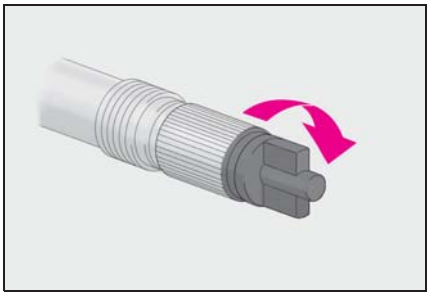
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



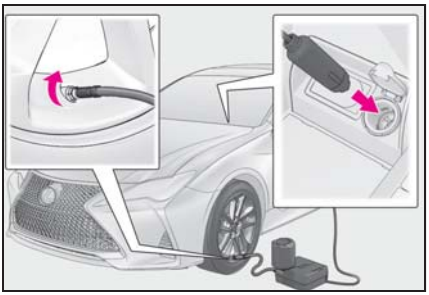
18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

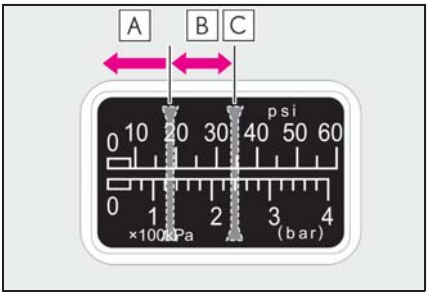
20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kpa (1.3kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

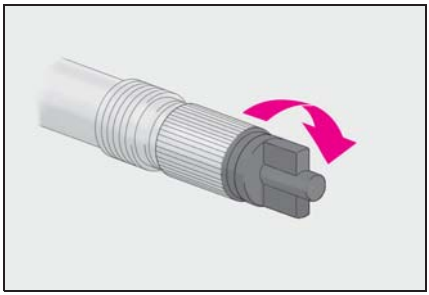
B 空気圧が 130kpa (1.3kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.319）の場合手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス販売店にご相談ください。
レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■応急（パンク）修理キットを使用したとき

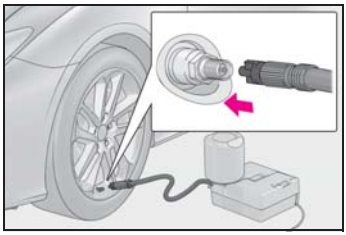
●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■補修液を廃棄するとき

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠警告

■タイヤがパンクしているとき

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

警告

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.247 を参照してください）

警告

■タイヤがパンクしたときは

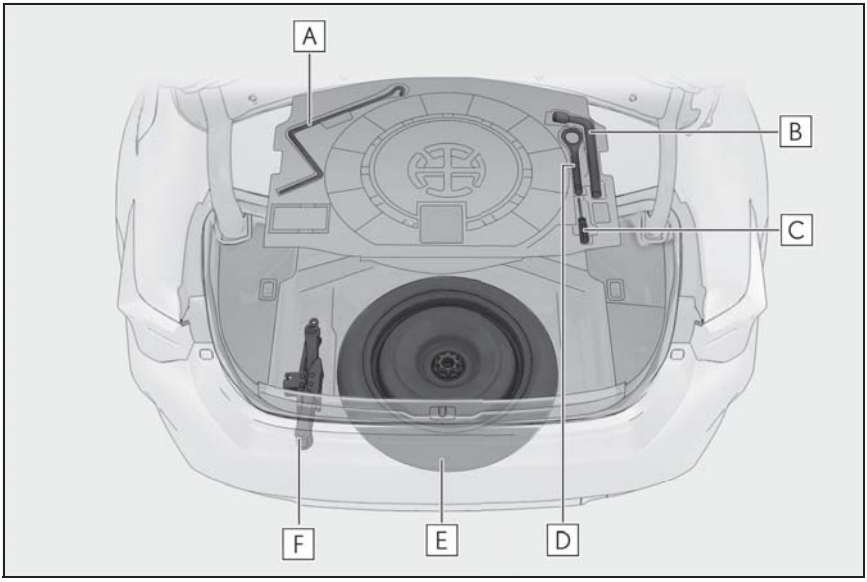
パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.263）

工具とジャッキの位置

▶ Type A



A ジャッキハンドル

B ホイールナットレンチ

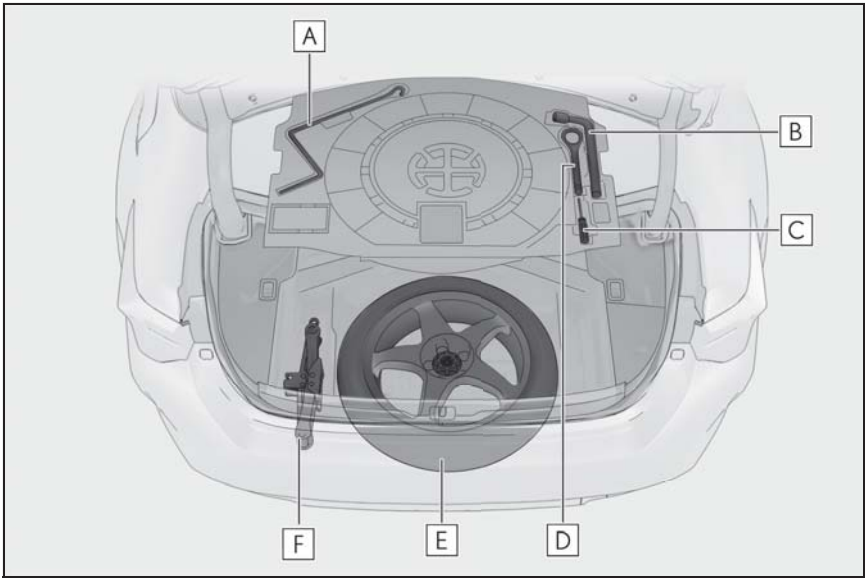
C ドライバー

D けん引フック

E 応急用タイヤ

F ジャッキ

▶ Type B



A ジャッキハンドル

B ホイールナットレンチ

C ドライバー

D けん引フック

E 応急用タイヤ

F ジャッキ

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

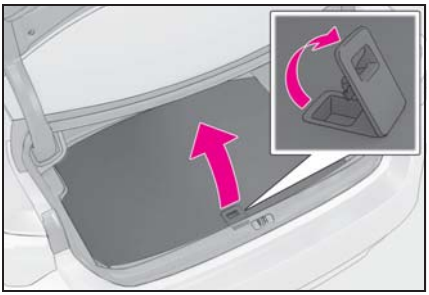
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない

警告

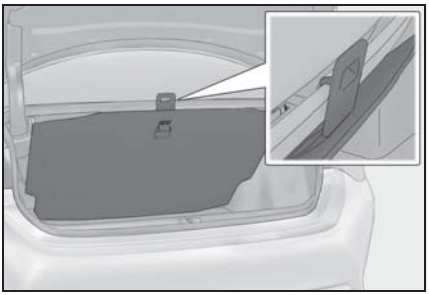
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

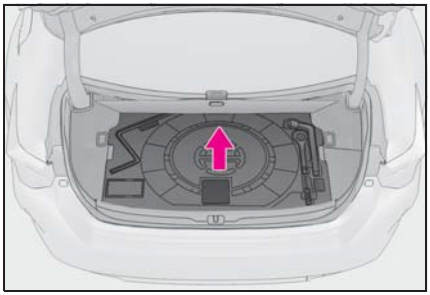
1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



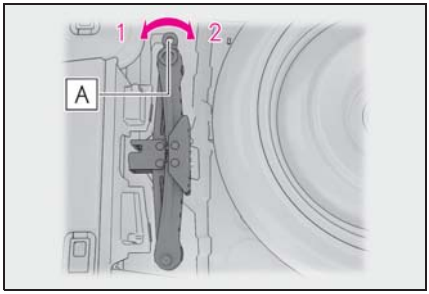
2 フックを使ってラゲージマットを固定する



3 ツールトレイを取りはずす



4 ジャッキをゆるめて取りはずす



1 締まる
2 ゆるむ

ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキの A 部の穴に車載のドライバーなどを挿入してゆるめてください。

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

注意

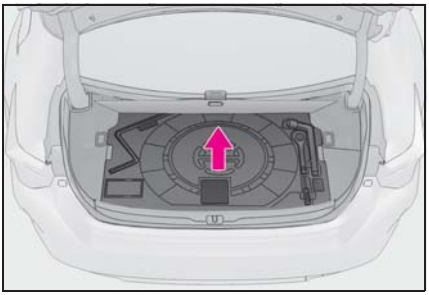
■ラゲージマットの損傷を防ぐために

トランクを閉めるとき、ラゲージマットのフックをトランクの端にかけたままにしないでください。

応急用タイヤの取り出し方

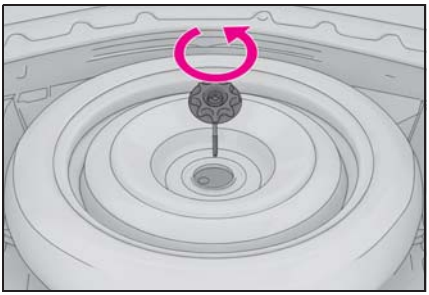
1 フックを使ってラゲージマットを固定する（→P.296）

2 ツールトレイを取りはずす



3 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す

応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のホイールナットレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）



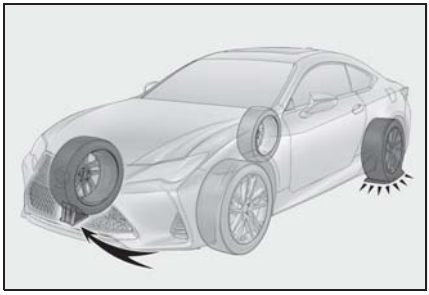
警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

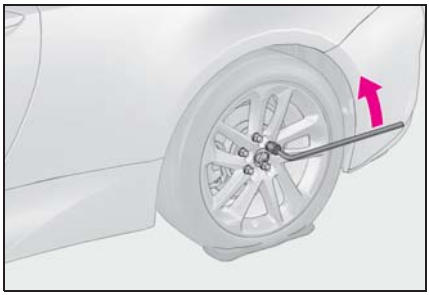
1 輪止め※をする



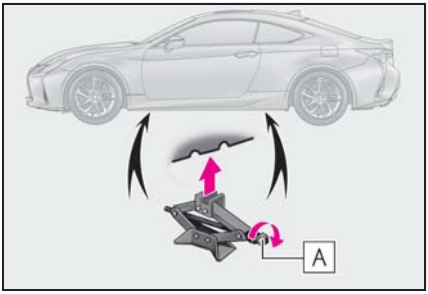
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

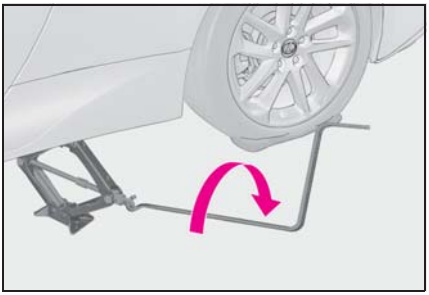
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

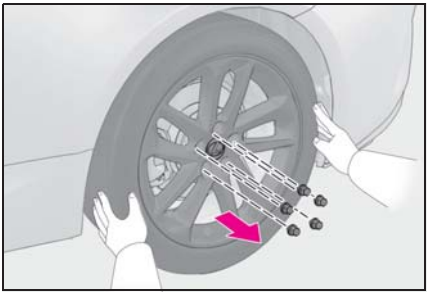


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・ホイールの交換後は、すぐに103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

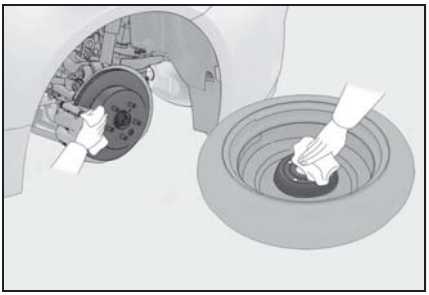
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

応急用タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

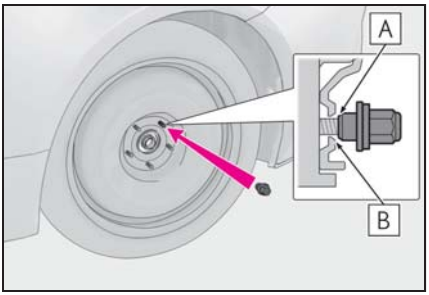
それがあります。



2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

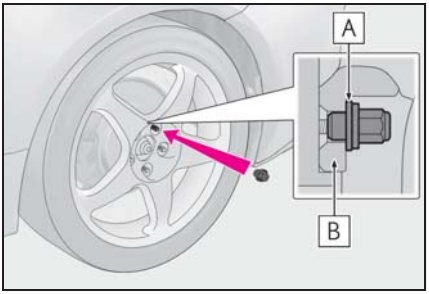
アルミホイールからスチールホイールにかえるとき：

ナットのテーパー部**A**がホイールのシート部**B**に軽くあたるまでまわす

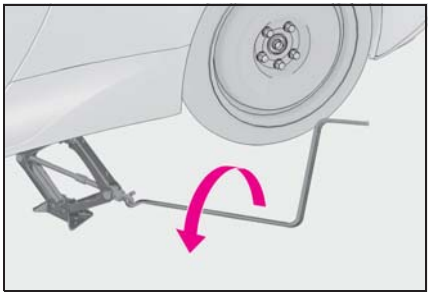


アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：

ナットの座金**A**がホイール**B**にあたるまでまわす

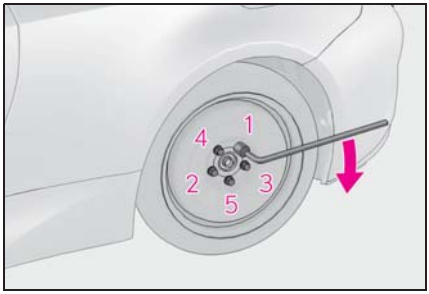


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面にTEMPORARYUSEONLY と書かれています。
- 応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→P.319）

■応急用タイヤを使用するとき

応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ送信機が装着されていません。指定の通常タイヤに交換し、正しい空気圧に調整するまではタイヤ空気圧警告灯は消灯しま

せん。

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で後輪がパンクしたとき（18 インチタイヤ装着車）

1 前輪を応急用タイヤに交換する
2 パンクした後輪をはずした前輪に交換する
3 タイヤチェーンを後輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）
・NAVI・AI-AVS
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・VGRS★
・DRS★
・LDH★
・TRC
・VDIM
・PCS
・ナビゲーション
・タイヤ空気圧警報システム
・AVS
・EPS
・バックガイドモニター
・クリアランスソナー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.251

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.124）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P.124）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.48）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.306）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.301）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.306）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

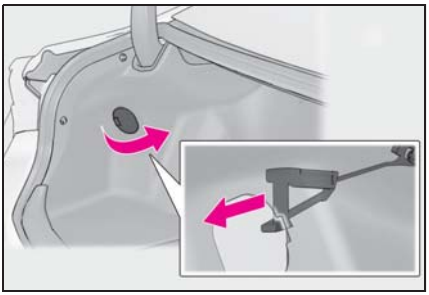
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

給油扉が開かないときは

ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

給油扉を開くには

トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.92）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かない場合

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.92）

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

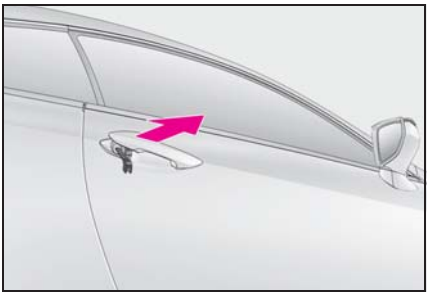
車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

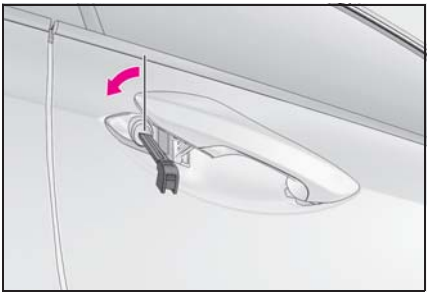
■ ドアを解錠するには

メカニカルキー（→P.82）を使って次の操作ができます。

1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



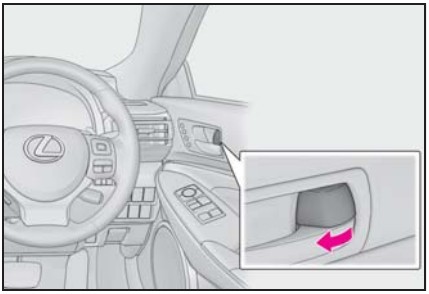
2 キーをまわしてドアを解錠する



3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

■ **ドアを施錠するには**

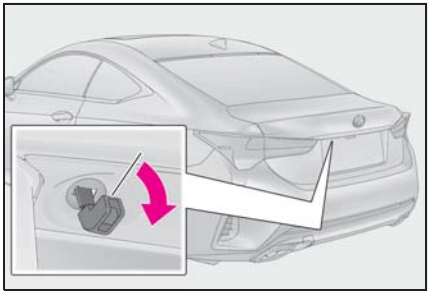
1 ロックレバーを施錠側にする



2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

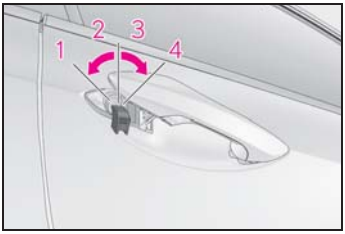
■ **トランクの解錠**

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける（→P.50）



知識

■ **キーの連動機能**



1 ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

2 全ドア解錠

3 全ドア施錠

4 ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

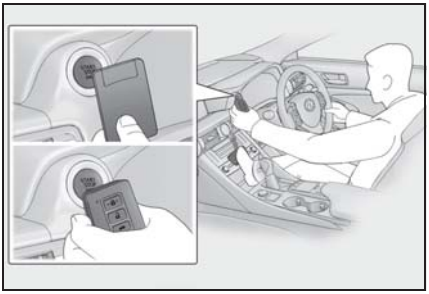
エンジン始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッションONモードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.257）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.49）

■モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.126）

バッテリーがあがったときは

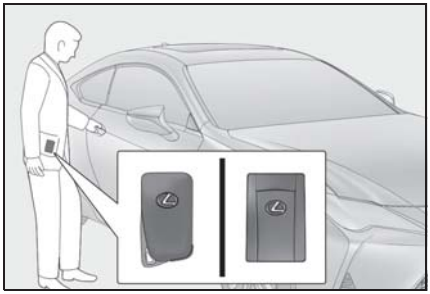
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

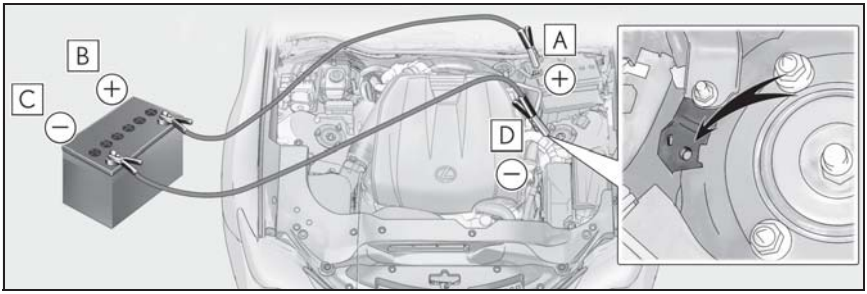
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.50)



2 ボンネットを開ける (→P.244)

3 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）D につなぐ

● RC350



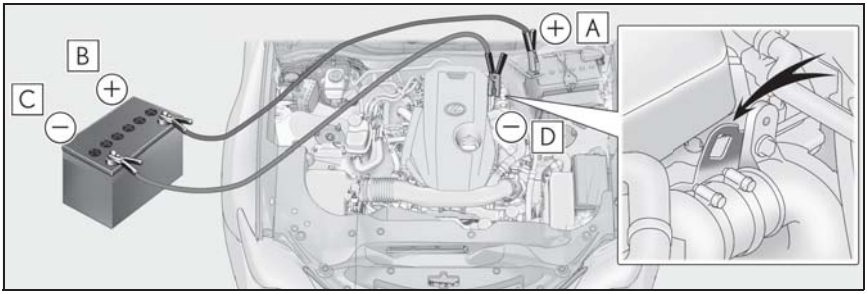
A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

● RC300



A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
（Stop & Start システム装着車は、システムによるエンジン停止中を除く）

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテ

リーをはずす前の状態に復帰します。
バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

●Stop & Start システム装着車：バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 ～ 60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■バッテリーを交換するときは (Stop & Start システム装着車)

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.60）の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

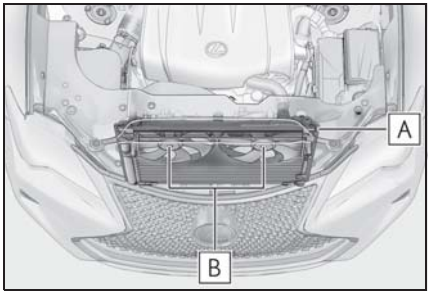
対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

● RC350

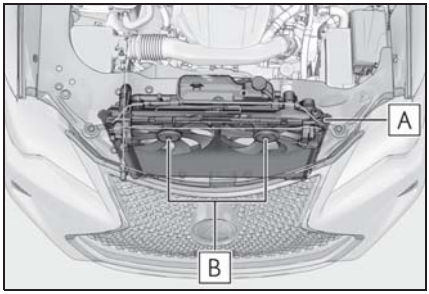


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

● RC300



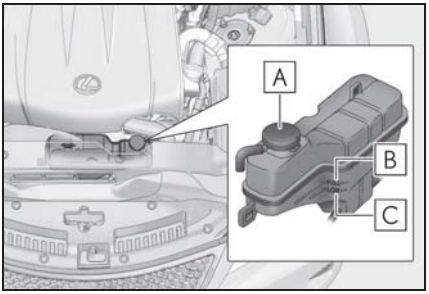
A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの上限（“FULL” または “F”）と下限（“LOW” または “L”）のあいだにあるかを点検する

● エンジン (RC350)

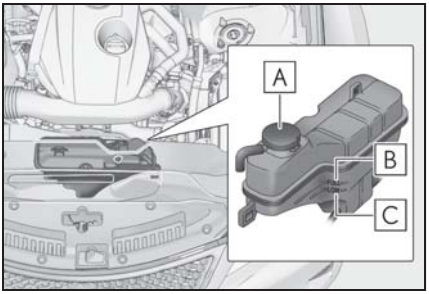


A リザーバーキャップ

B 上限（“FULL” または “F”）

C 下限（“LOW” または “L”）

● エンジン (RC300)

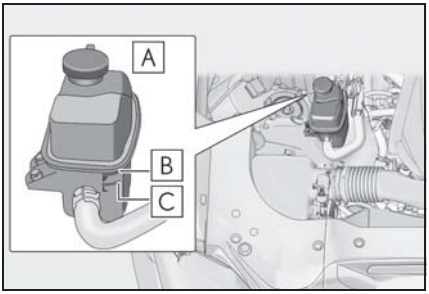


A リザーバーキャップ

B 上限（“FULL” または “F”）

C 下限（“LOW” または “L”）

● インタークーラー (RC300)



A リザーバーキャップ

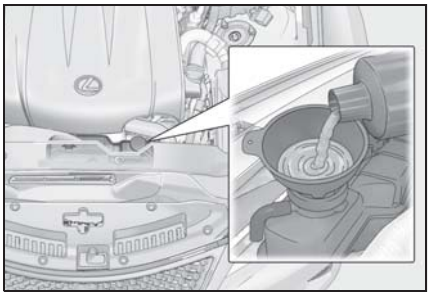
B 上限（“FULL” または “F”）

C 下限（“LOW” または “L”）

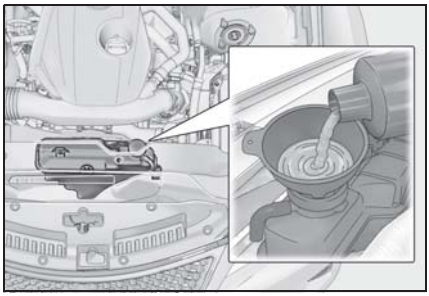
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

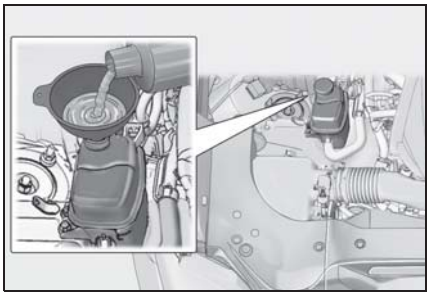
● エンジン (RC350)



● エンジン (RC300)



● インタークーラー (RC300)



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどか

ら冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

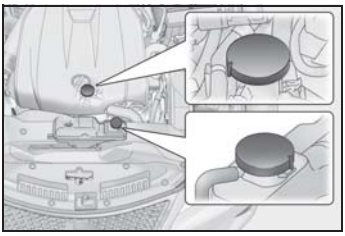
■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

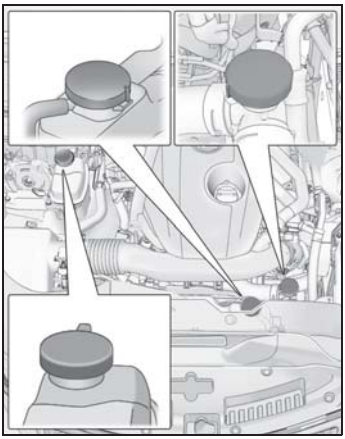
●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●RC350：エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップやエンジンカバー内側の注水キャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



●RC300：エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップや注水キャップまたは、インタークーラーリザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

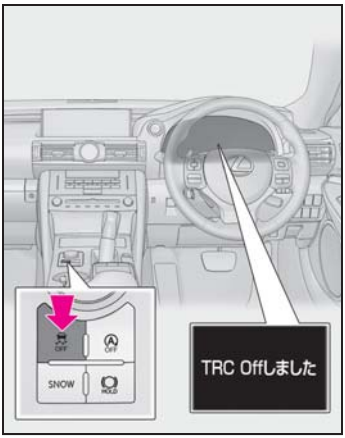
脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、エンジンを停止する
2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3 後輪の下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF スイッチを押してTRCをOFFにしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

●後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 316

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 321

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 330

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	66

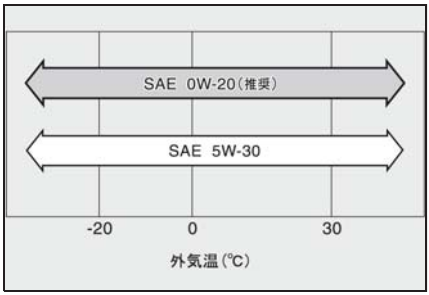
エンジンオイル

指定銘柄	車種	容量［L］（参考値※）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC，ILSAC GF-6A，SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC，ILSAC GF-6A，SAE 5W-30	RC350	5.5	5.7
	RC300	4.3	4.6

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

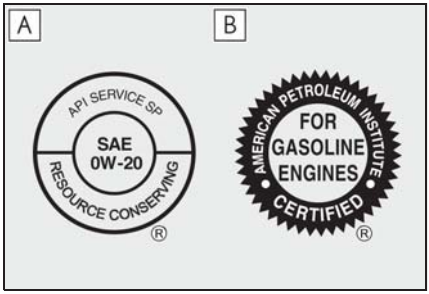
■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用できます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

ラジエーター

■ RC350

指定銘柄	容量［L］（参考値）
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	9.5

■ RC300

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	エンジン	8.1
	インタークーラー	3.1

トランスミッション

指定銘柄	車種	容量［L］（参考値※）
弊社純正オートフルード WS	RC350	9.5
	RC300	8.7

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください

注意

■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

▶ LSD(リミテッドスリップディファレンシャル) 非装着車

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	1.35

▶ LSD(リミテッドスリップディファレンシャル) 装着車

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	104

※ エンジン回転時に 500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	235/45R18 94Y	18 × 8J	240（2.4）	
	235/40R19 92Y	19 × 8J	240（2.4）	-
	265/35R19 94Y	19 × 9J	-	250（2.5）
応急用タイヤ★	T155/70D17 110M	17 × 4T	420（4.2）	
	T145/70D18 107M	18 × 4T		

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球	W（ワット）数
バニティランプ	8
足元照明	3.8
トランクランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
RC350	GSC10	2GR-FKS（3.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）
RC300	ASC10	8AR-FTS （2.0L ガソリン）	

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用、またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する

3 画面に表示されている内容に従って設定を変更する

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、“設定・編集” を選択する

2 “設定・編集” 画面の “車両” を選択する

3 “車両カスタマイズ”、“ドライブモードカスタマイズ” または、“クリアランスソナー設定” を選択する

4 “車両カスタマイズ” を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、“する”（作動）・“しない”（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、“+” または “－” を選択してレベルを調整します。

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

知識

■ ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.56, 60, 66）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
スイッチを押したときに表示される画面の設定 ※2	ドライブインフォ 1	お好みの項目 ※3	—	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	設定できる項目は →P.67 を参照	—	○	—
	リセット間平均燃費				
ドライブインフォ 2	航続可能距離		—	○	—
	リセット間平均車速				
ドライブインフォ 3	給油後平均燃費		—	○	—
	始動後走行時間				
割り込み表示	あり	なし	—	○	—
テーマカラー	カラー 1	カラー 2	○	○	—

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
REV インジケーター ※4	5000r/min.	2000 ～ 6800r/min※5 2000 ～ 6100r/min※6	—	○	—
		なし			
REV ピーク ※4	あり	なし	—	○	—
エコドライブインジケーター	あり（自動点灯）	なし	—	○	—

※1機能についての詳しい説明は P.71 を参照してください

※2F SPORT 以外

※3登録できない項目もあります

※4F SPORT

※5RC350

※6RC300

■ ドアロック（→P.84, 87, 303）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.84, 87）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.84, 87, 91）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.84, 87）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		1 回押し続ける（長）			
		非作動			

■ メモリーコール機能（→P.99）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

■ パワーイージーアクセスシステム（→P.99）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			
ハンドルの作動	あり	なし	—	—	○

■ ドアミラー（→P.106）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→P.109）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

■ ムーンルーフ★（→P.112）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより装備の有無があります。

■ 方向指示灯（→P.132）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
方向指示灯の点滅中に、点滅している側へ方向指示レバーを一段階操作したときの作動	点滅したまま	消灯	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.139）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	－2	－2～2	○	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○

■ ランプ（→P.139）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○

■ Stop & Start システム（→P.180）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間	Normal（通常）	Long（長め）	—	○	—

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.158）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PCS（プリクラッシュセーフティ）機能 ※	あり／なし	—	○	—
警報タイミング	近い／中間／遠い	—	○	—

※ エンジンスイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）（→P.164）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ステアリング制御機能（操舵支援）	あり／なし	—	○	—
警報手段 （振動／音）	振動／音	—	○	—
車線逸脱時の警報ブザーが吹鳴する感度（警報感度）	普通／高	—	○	—
ふらつき検知機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき検知感度	低／普通／高	—	○	—

■ クリアランスソナー（→P.194）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 ～ 3	○	—	○

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.200）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード時のパワートレーン制御	Normal	Power	○	—	—
		Eco			
カスタムモード時のシャシー制御	Normal	Sport	○	—	—
カスタムモード時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—	—

■ エアコン（→P.216）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調節	標準	－３～３	○	—	○

■ シートヒーター（→P.225）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
タイマー制御	なし	あり	○	—	○

■ イルミネーション（→P.227）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
リモートタッチパッド照明の点灯	あり	なし	—	—	○
室外足元照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
室外足元照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	—	○

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。
・シフトレバーをＰ以外に入れると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

● “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

●ナビゲーション画面以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンスイッチをイグニッションONモードにするまでナビゲーション画面には反映されません。

初期設定が必要な項目

次の項目はメンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	タイヤローテーションを行ったあと	P.247

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 332
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 334
アルファベット順さくいん …… 335
五十音順さくいん…… 336

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.302）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.302）

キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.257）

施錠・解錠できない

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.126）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.92）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.89）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.124）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.124）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.91）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.124）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.305）

- バッテリーがあがっていませんか？（→P.306）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？

エンジンスイッチはイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.129）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.124）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.111）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.126）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.334）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.272、279 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.293）

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.282）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.312）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.49
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.279
	窓・ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P.110 P.113
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.49
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.89
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.80
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.85
	電子キーを車内に置き忘れている	P.279

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠するか、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.87
	パーキングブレーキが解除されていない	P.133
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない ※	P.276
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.131
ブレーキペダルを踏んだとき（キーキー音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.119
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.176
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.158
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.164

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）..... 216
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
..... 202
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 202, 205
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）..... 128
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 202
BSM
（ブラインドスポットモニター）185
DRS
（ダイナミックリヤステアリング）
..... 202
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 6
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）..... 202
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）
..... 320
Harmonious Driving Navi. 画面. 73
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）..... 317
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 164
LDH
（レクサスダイナミックハンドリングシステム）..... 203
LED
（ライトエミッティングダイオード）
..... 139, 260
LED デイライト 140
Lexus Safety System +
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....164
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....158
オートマチックハイビーム 142
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....172
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..158
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....185
REV インジケーター.....63
REV ピーク 63
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....26
TRC
（トラクションコントロール）202, 312
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）.....203
VGRS
（バリアブルギヤレシオステアリング）.....202
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....202

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 306
アイドリングストップ
Stop & Start システム..... 180
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 185
格納のしかた 107
操作..... 106
ブラインドスポットモニター（BSM）185
ポジションメモリー..... 99
ミラーヒーター 220
リバース連動機能 106
アクセサリーソケット 233
アクセサリーモード..... 126
アシストグリップ..... 233
足元照明 227
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）..... 202
アラーム
オートアラーム 49
警告ブザー 272, 279
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 202
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 91

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）
エンジンのかけ方 124
自動電源 OFF 機能..... 126
車両を緊急停止するには..... 264
モードの切りかえ 126
位置交換（タイヤローテーション）. 249
イベントデータレコーダー（EDR）..... 6
イモビライザーシステム.....48
イルミネーテッドエントリーシステム.....228
インジケーター（表示灯）.....58
インストルメントパネル照度調整スイッチ.....65
インテリアランプ 227
インナーミラー 105

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 260
方向指示レバー 132
ウインドウ
ウォッシャー 145
パワーウインドウ 109
リヤウインドウデフォッガー 220
ウインドウロックスイッチ.....111
ウインドシールドデアイサー.....220
ウォッシャー 145
液の補給.....246
スイッチ.....145
タンク容量.....319
冬の前の準備・点検 207
動けなくなったときは（スタック）..312
雨滴感知式ワイパー 145
運転
雨の日の運転.....116
運転を補助する装置 202
寒冷時の運転.....207
正しい運転姿勢.....21
手順 116

え

エアコン
「ナノイー X」.....221
オートエアコン 216

花粉除去機能 220
曇り取り（フロントガラス）..... 220
フィルターの清掃 256
エアコン・デフォッガー 216
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 273
改造・廃棄 31
作動条件 27
正しい姿勢 21
配置 26
エコドライブインジケーター 68
エコドライブインジケーターランプ.. 68
エレクトリックパワーステアリング（EPS）..... 202
エンジン
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 124
エンジンイモビライザーシステム 48
エンジンがかからない（エンジンが始動できない）..... 301
エンジンスイッチ 124
エンジンの始動方法..... 124
オーバーヒート 309
緊急時の停止方法 264
タコメーター 60, 61
フューエルポンプシャットオフシステム 271
ボンネット 244
エンジンイモビライザーシステム..... 48
エンジンオイル
警告灯 273
冬の前の準備・点検..... 207
メンテナンスデータ..... 316
容量 316
エンジン回転計（タコメーター）60, 61
エンジンスイッチ
エンジンのかけ方 124
自動電源 OFF 機能 126
モードの切りかえ 126
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....244
警告メッセージ.....87
エンジンルーム 244
エンジンルームから蒸気が出ている...309

お

オイル（エンジンオイル）.....316
応急用タイヤ 293
交換方法.....293
オーディオシステム連携表示.....70
オートアラーム 49
オートドアロック・アンロック機能 ..87
オートマチックトランスミッション
オートマチックトランスミッション...128
スノーモード.....130
オートマチックハイビーム.....142
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動 141
オーバーヒート 309
オープナー
給油扉.....151
トランク.....88
ボンネット.....244
お子さまの安全
チャイルドシート 43
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ 111
お子さまの安全のために 35
シートベルトの着用 23, 24
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告.....224
チャイルドシート 35
チャイルドシートの取り付け 35
発炎筒の取り扱いに関する警告.....264
バッテリーに関する警告 308

パワーウインドウに関する警告 110
“ODO TRIP” スイッチ..... 64
オドメーター／トリップメーターディスプレイ 64
表示項目 64
割り込み表示 65

か

カーテシランプ
装着位置 227
カーテンシールドエアバッグ 26
カードキー..... 80
カーペット
洗浄 242
フロアマットの取り付け方 20
外気温度表示..... 60, 61
外装の電球（バルブ）..... 260
交換要領 260
過給圧表示..... 68
カスタマイズ機能..... 321
型式 320
カップホルダー..... 230
カメラ
前方カメラ（PCS）..... 153
白線認識用カメラ（LDA）..... 164
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..... 220
ガレージジャッキ..... 245
冠水路走行..... 121
寒冷時の運転..... 207

き

キー
エンジンが始動できない..... 301
カードキー 80
キーナンバープレート..... 80
キーの構成 80
キーレスエントリー 82, 91
キーをなくした 302
正常に働かない 303
施錠・解錠ができない 303
電子キー.....80
電池が切れた 257
メカニカルキー 82
ワイヤレスリモコン 82
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム91
ワイヤレスドアロック 82
救急箱等固定用バンド.....231
給油
給油口が開けられない 303
給油のしかた 150
メンテナンスデータ 316
緊急時シートベルト固定機構.....25
緊急時の対処
エンジンが始動できない 301
オーバーヒートした 309
キーの電池が切れた 257, 303
キーをなくした 302
警告灯がついた 272
警告メッセージが表示された 279
けん引.....267
故障したときは 262
車両を緊急停止する 264
水没・冠水したときは 265
スタックした 312
電子キーが正常に働かない 303
発炎筒.....263
バッテリーがあがった 306
パンクした.....282, 293
緊急ブレーキシグナル.....203

く

空気圧（タイヤ）
タイヤ空気圧警報システム 249

メンテナンスデータ..... 319
区間距離計（トリップメーター）..... 64
曇り取り
フロントガラス 220
ミラーヒーター 220
リヤウインドウデフォッガー 220
クラクション（ホーン）..... 104
クリアランスソナー 194
警告メッセージ 196
操作 194
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 139
電球（バルブ）の交換..... 260
クリップ
フロアマット 20
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 172
グローブボックス 230
グローブボックスランプ 230

け

警音器（ホーン）..... 104
計器類（メーター）..... 60
マルチインフォメーションディスプレイ66
警告灯 272
ABS & ブレーキアシスト..... 273
SRS エアバッグ..... 273
LDA 表示灯 274
エンジン 273
シートベルト非着用..... 276
スリップ表示灯 275
タイヤ空気圧 277
ドライブスタートコントロール 274
燃料残量 276
パーキングブレーキ表示灯 277
パワーステアリング..... 274
PCS..... 275
ブレーキ.....272
ブレーキオーバーライドシステム.....274
ブレーキホールド作動表示灯 277
マスターウォーニング 276
油圧 273
警告ブザー
LDA 164
シートベルト非着用 276
シフトダウン制限 131
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....176
手放し運転警告（LDA）.....169
ドライブスタートコントロール.....274
トランク開.....87
パワーステアリング 274
半ドア.....85
半ドア走行時.....87
プリクラッシュセーフティ 275
プリクラッシュブレーキ 158
ブレーキ.....272
ブレーキオーバーライドシステム.....274
ブレーキホールド 277
ボンネット開.....87
窓開 110
ムーンルーフ開 113
油圧 273
リバース.....128
警告メッセージ 279
傾斜センサー（オートアラーム）.....51
化粧ミラー（バニティミラー）.....234

こ

交換
キーの電池.....257
タイヤ.....293
電球（バルブ）.....260
ヒューズ.....259

工具（ツール）..... 283, 294
航続可能距離..... 67, 75
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換..... 260
コートフック..... 233
コーナリングランプ..... 141
子供専用シート..... 35
取り付け方 37
コンソールボックス..... 230
コンライト（自動点灯・消灯装置）. 139

さ

サイドエアバッグ..... 26
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換..... 260
方向指示レバー 132
サイドミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 185
格納のしかた 107
操作 106
ブラインドスポットモニター（BSM）185
ポジションメモリー..... 99
ミラーヒーター 220
リバース連動機能 106
サスペンションコントロール（PCS）
..... 158
三角表示板等固定用バンド 232
サンシェード
ルーフ 112
サンバイザー..... 234

し

シート
正しい運転姿勢 21
調整 96
手入れ 242
パワーイージーアクセスシステム.....99
ヘッドレスト 102
ポジションメモリー 99
メモリーコール機能 100
シートヒーター 224
シートベルト 23
お子さまの着用 23, 24
緊急時シートベルト固定機構 25
シートベルトガイド 25
正しく着用するには 24
チャイルドシートの取り付け 43
着け方・はずし方 24
手入れ.....242
妊娠中の方の着用 23
非着用警告灯 276
シートベルト非着用警告灯.....276
シートベルトプリテンショナー
機能 25
プリテンショナー警告灯 273
シートベンチレーター.....224
シートポジションメモリー.....99
G モニター 69
室内灯（インテリアランプ）.....227
始動後走行距離 67
始動のしかた 124
シフトポジション 128
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ 129
シフトレンジの切りかえ 131
操作 128
リバース警告ブザー 128
ジャッキ
ガレージジャッキ 245
車載ジャッキ.....283, 294
ジャッキハンドル 283, 294
車幅灯
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 139

車両型式 320
車両仕様（スペック）..... 316
車両を緊急停止するには 264
瞬間燃費 67, 75
仕様（車両仕様）..... 316
衝撃感知ドアロック解除システム..... 85
初期化
タイヤ空気圧警報システム..... 251
パワーウインドウ 109
ムーンルーフ 113
初期設定 330
助手席にチャイルドシートを取り付ける
..... 37
侵入センサー（オートアラーム）..... 51

す

水温計 60, 61
スイッチ
LDA..... 167
PCS OFF 160
TRC OFF 203
VSC OFF 203
イグニッション 124
インストルメントパネル照度調整 65
ウインドウロック 111
ウォッシャー 145
エンジンスイッチ 124
オートマチックハイビーム..... 142
“ODO TRIP” 64
クリアランスソナー..... 194
シート調整 96
シートヒーター 225
シートベンチレーター..... 226
シートポジションメモリー..... 99
車間距離切りかえ（レーダークルーズコン
トロール）..... 172
侵入・傾斜センサー OFF 51
ステアリングヒーター..... 224
Stop & Start キャンセル.....180
スノーモード.....130
タイヤ空気圧警報リセット 251
ドアミラー.....106
ドアロック.....86
ドライブモードセレクト 200
トランクオープナー 88
トランクオープナーメイン 90
パーキングブレーキ 133
パドルシフト.....130
パワーウインドウ.....109
ハンドル位置調整 104
フォグランプ.....144
ブレーキホールド 136
方向指示レバー 132
ホーン（警音器）.....104
ポジションメモリー 99
ムーンルーフ.....112
メーター操作スイッチ 66
ランプ.....139
リセット（タイヤ空気圧警報システム）
.....251, 253
リヤウインドウデフォッガー 216
リヤフォグランプ.....144
レーダークルーズコントロール.....172
ワイパー.....145
スタック.....312
ステアリングコントロール（PCS)..158
ステアリングヒーター.....224
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整.....104
ステアリングヒーター 224
パワーイージーアクセスシステム.....99
ポジションメモリー 99
ステアリングロック 124
解除できないとき 124
警告メッセージ.....124

Stop & Start システム
システム情報 70
割り込み表示 65
Stop & Start システム情報 70
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 203
電球（バルブ）の交換 260
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 207
スピードメーター 60, 61
スペアタイヤ（応急用タイヤ）..... 293
交換方法 293
スペック（車両仕様）..... 316
スマートエントリー＆スタートシステム
アンテナの位置 91
エンジンの始動 124
カスタマイズ設定 321
緊急始動機能 301
作動範囲 91
正常に働かないとき 303
節電機能 92
電波がおよぼす影響について 94
ドアの解錠・施錠 84
トランクの解錠 88
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 139
スリップ表示灯 203

せ

清掃
外装 238
シートベルト 242
内装 242
ホイール・ホイールキャップ 239
レーダー 153
制動灯
緊急ブレーキシグナル 203
電球（バルブ）の交換 260
積算距離計（オドメーター）..... 64
セキュリティインジケーター 48, 49
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 176
センサー
LDA 164
インナーミラー 105
雨滴感知センサー 148
湿度センサー 223
侵入・傾斜センサー 51
ライトセンサー 140
レーダー 153
洗車 238
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換 260
ライトセンサー 140
ランプ消し忘れ防止機能 141
ランプスイッチ 139
センターディスプレイ 214

そ

走行時間 67
走行情報表示 67
走行モード（ドライブモード）130, 200
送信機（タイヤ空気圧警報システム）
..... 249
速度計（スピードメーター）..... 60, 61

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 260
方向指示レバー 132
ダイナミックリヤステアリング（DRS）
..... 202
タイヤ
応急用タイヤ 293
空気圧 255, 319

空気圧警告灯 277
交換 293
チェーン 207
点検 247
パンク応急修理キット 282
パンクしたときは 282, 293
冬用タイヤ 207
ホイールサイズ 319
ローテーション（位置交換）..... 249
タイヤが空まわりする（スタックした）
..... 312
タイヤ空気圧
警告灯 277
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの登録・選択..... 253
機能について 249
空気圧バルブ／送信機について 251
空気圧表示画面 249
警告灯 277
初期化 251
タイヤチェーン..... 207
タコメーター..... 60, 61
REV インジケーター 63
REV ピーク..... 63

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 207
チャイルドシート..... 35
ISOFIX ロアアンカレッジでの固定 45
シードベルトでの固定..... 43
知っておいていただきたいこと 36
トップテザーアンカレッジを使用する . 46
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
..... 133
警告灯 277
警告メッセージ 135
操作 133
冬季の注意 207
未解除走行時警告ブザー 135

つ

ツール（工具）.....283, 294

て

手入れ
外装 238
シートベルト 242
内装 242
ホイール・ホイールキャップ 239
レーダー.....153
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 139
テザーベルト 43
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....220
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....260
点検基準値（メンテナンスデータ）..316
電子キー 80
作動範囲.....91
正常に働かないとき 303
節電機能.....92
電池が切れた 303
電池交換.....257
電池交換（キー）.....257

と

ドア.....84
オートドアロック・アンロック機能.....87
衝撃感知ドアロック解除システム.....85
スマートエントリー＆スタートシステム91
ドアガラス.....109
ドアロックスイッチ 86

ロックレバー 86
ワイヤレスリモコン..... 84
ドアカーテシランプ
位置..... 227
ドアハンドル照明..... 227
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 185
格納のしかた 107
操作..... 106
ブラインドスポットモニター（BSM）185
ポジションメモリー..... 99
ミラーヒーター 220
リバース連動機能 106
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 48
オートアラーム 49
ラゲージセキュリティシステム 90
時計 233
時計を調整する..... 233
トップテザーアンカレッジ 46
ドライビングポジションメモリー..... 99
ポジションメモリー..... 99
メモリーコール機能..... 100
ドライブインフォメーション（マルチインフォメーションディスプレイ）
メーター操作スイッチ..... 66
ドライブスタートコントロール 117
ドライブモードセレクトスイッチ... 200
トラクションコントロール（TRC）. 202
トランク
オープナー 88
キー閉じ込み防止機能..... 89
警告メッセージ 87
電子キーが正常に働かないとき 303
トランク内の装備 231
メインスイッチ 90
ラゲージセキュリティシステム 90
トランクランプ 89
トランスミッション
オートマチックトランスミッション...128
シフトダウン制限警告ブザー 131
スノーモード.....130
操作 129
パドルシフトスイッチ 130
メンテナンスデータ 318
トリップメーター 64

な

内装
収納装備.....229
手入れ.....242
「ナノイー X」 221
ナビゲーションシステム連携表示 70

に

ニーエアバッグ 26
荷物
積むときの注意.....122
トランク.....87
トランク内装備.....231
荷物固定用フック 231

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....312

ね

燃費
給油後平均燃費.....75
瞬間燃費.....67, 75
燃費画面.....73
平均燃費.....67, 73, 75
燃料
給油 150

種類 316
燃料計 60, 61
燃料残量警告灯 276
フューエルポンプシャットオフシステム
..... 271
容量 316
燃料計 60, 61

は

パーキングブレーキ 133
警告灯 277
警告メッセージ 135
操作 133
冬季の注意 207
未解除走行時警告ブザー 135
パーソナルランプ 228
排気ガス 33
ハイビーム（ヘッドランプ）
オートマチックハイビーム 142
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 139
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 260
ハザードランプ（非常点滅灯）
電球（バルブ）の交換 260
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 109
ムーンルーフ 112
発炎筒 263
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 260
バッテリー
警告灯 272
バッテリーがあがった 306
パドルシフトスイッチ 130
バニティ（化粧用）ミラー 234
バニティミラーランプ
装備について 234
バリアブルギヤレシオステアリング
（VGRS）..... 202
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 260
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 111
閉めることができないときは 109
初期化 109
操作 109
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ... 110
挟み込み防止機能 109
巻き込み防止 109
パワーステアリング 202
警告灯 274
パンクした
応急用タイヤ装着車 293
タイヤ空気圧警告灯 277
タイヤパンク応急修理キット装着車 ... 282
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 139
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 104
ステアリングヒーター 224
パワーイージーアクセスシステム 99
ポジションメモリー 99

ひ

ビークルスタビリティコントロール
（VSC）..... 202
ビークルダイナミクスインテグレイテッ
ドマネージメント（VDIM）..... 203
ヒーター
エアコン・デフォッガー 216
シートヒーター 224
ステアリングヒーター 224
ミラーヒーター 220

非常点滅灯（ハザードランプ）
電球（バルブ）の交換..... 260
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換..... 260
ランプスイッチ 139
ヒューズ 259
表示灯 58
日よけ（サンバイザー）..... 234
ヒルスタートアシストコントロール 202

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 306
ブーストメーター..... 68
フォグランプ..... 144
スイッチ 144
ブザー
シフトダウン制限警告..... 131
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 176
手放し運転警告（LDA）..... 169
パーキングブレーキ未解除走行時警告 135
半ドア走行時警告 87
窓開警告 110
ムーンルーフ警告 113
リバース警告 128
フック
けん引フック 269
コートフック 233
フロアマット固定フック..... 20
フューエルポンプシャットオフシステム 271
フューエルメーター..... 60, 61
フューエルリッド（給油口）
給油口が開かない 303
給油のしかた 150
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 207
冬用タイヤ..... 207
ブラインドスポットモニター（BSM）.....185
ふらつき検知機能 69
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS OFF スイッチ.....160
機能 158
PCS 警告灯.....275
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 203
警告灯.....272
パーキングブレーキ 133
ブレーキホールド 136
メンテナンスデータ 318
ブレーキアシスト 202
ブレーキフルード 318
ブレーキホールド 136
フロアマット 20
フロントシート
シートヒーター 224
シートベンチレーター 224
正しい運転姿勢.....21
調整 96
手入れ.....242
パワーイージーアクセスシステム.....99
ヘッドレスト.....102
ポジションメモリー 99
メモリーコール機能 100
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換 260
方向指示レバー 132

へ

平均車速.....67, 75
平均燃費.....67, 73, 75
ヘッドランプ
クリーナー.....145
電球（バルブ）の交換 260
ライトセンサー.....140

ランプ消し忘れ防止機能 141
ランプスイッチ 139
ヘッドランプオートレベリングシステム 141
ヘッドレスト 102
ベンチレーター（シートベンチレーター） 224

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 293
ホイール 319
方向指示灯
電球（バルブ）の交換 260
方向指示レバー 132
ホーン（警音器） 104
ポジションメモリー 99
保証 7
ポップアップフード 31
ボンネット
開け方 244
警告メッセージ 87
ポップアップフード 31

ま

マスターウォーニング 276
マルチインフォメーションディスプレイ 66
エコドライブインジケーター 68
オーディオシステム連携 70
Gear Position 69
警告メッセージ 279
G モニター 69
Stop & Start システム情報 70
設定 71
走行情報表示 67
タイヤ空気圧 249
ドライブインフォメーション 67
ナビゲーションシステム連携 70
ブーストメーター 68
ふらつき検知機能 69
メーター操作スイッチ 66

み

ミラー
アウターミラー 106
インナーミラー 105
ドアミラー 106
バニティミラー 234
ミラーヒーター 220

む

ムーンルーフ
初期化 113
操作 112
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 112
挟み込み防止機能 112

め

メーター
計器類 60
警告灯 272
警告メッセージ 279
照度調整 65
設定 71
表示・配置の切りかえ 63
表示灯 58
メーター（計器類）
マルチインフォメーションディスプレイ 66
メーターリング 63
メカニカルキー 82
メモリーコール機能 100
メンテナンスデータ 316

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 321
雪道ですべって動けない（スタックした）
..... 312
油脂類 316

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換..... 260
ランプスイッチ 139
ラゲージセキュリティシステム 90
ラゲージルーム（トランク）.... 87, 231
ラジエーター
オーバーヒート 309
メンテナンスデータ..... 317
ランプ
コーナリングランプ..... 141
室内灯 227
電球（バルブ）の交換..... 260
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 263
ヘッドランプ（前照灯）..... 139
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）..... 132
ライトセンサー 140
ランプ消し忘れ防止機能..... 141
リヤフォグランプ 144
ランプ消し忘れ防止機能 141

り

リバース連動機能..... 106
リモートタッチ..... 212
リヤウィンドウデフォッガー 220
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 185
リヤシート..... 98
ヘッドレスト 102
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ...276
リヤフォグランプ 144
スイッチ.....144
電球（バルブ）の交換 260
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換 260
方向指示レバー 132
リング（メーター）.....63

る

ルームミラー（インナーミラー).....105

れ

冷却水
冬の前の準備.....207
メンテナンスデータ 317
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 309
メンテナンスデータ 317
レーダークルーズコントロール
警告メッセージ.....178
接近警報.....176
レーダー.....153
レーンディパーチャーアラート（LDA）
.....164
レーンディパーチャーアラート（LDA）
警告メッセージ.....170
操作 167
レクサスダイナミックハンドリングシステム（LDH）.....203
レバー
シフト.....128
方向指示.....132
ボンネット解除 244

ろ

ロック
ウインドウロック 111
スマートエントリー＆スタートシステム91
ドア 84
ワイヤレスリモコン..... 82

わ

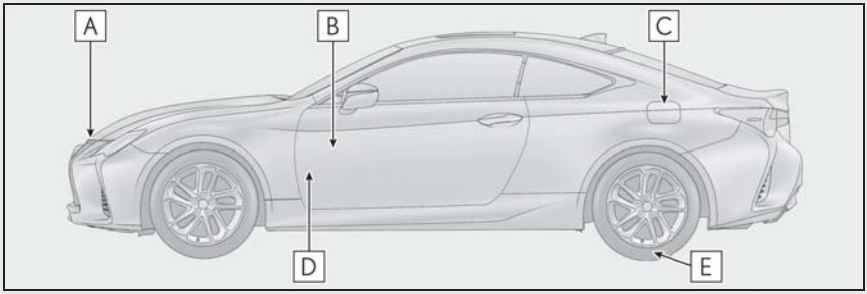
ワイパー＆ウォッシャー 145
ウォッシャー液の補充..... 246
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 208
ワイヤレスリモコン
作動の合図 85
操作 82
電池の交換 257
半ドア警告ブザー 85
ワックス 238

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・オーディオ
・バックガイドモニター
・ナビゲーションシステム
・音声操作システム
・ハンズフリー
・G-Link
・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.244）

B トランクオープナースイッチ（→P.88）

C 給油扉／給油口 （→P.150）

D ボンネット解除レバー（→P.244）

E タイヤ空気圧（→P.319）

燃料の容量（参考値）	66L	
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	P.316
タイヤが冷えているときの空気圧		P.319
エンジンオイル容量（参考値）		P.316
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル	P.316

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

タ-57

M24A65
01999-24A65
ZC-2021年8月26日
2021年9月2日初版

RC350 / RC300